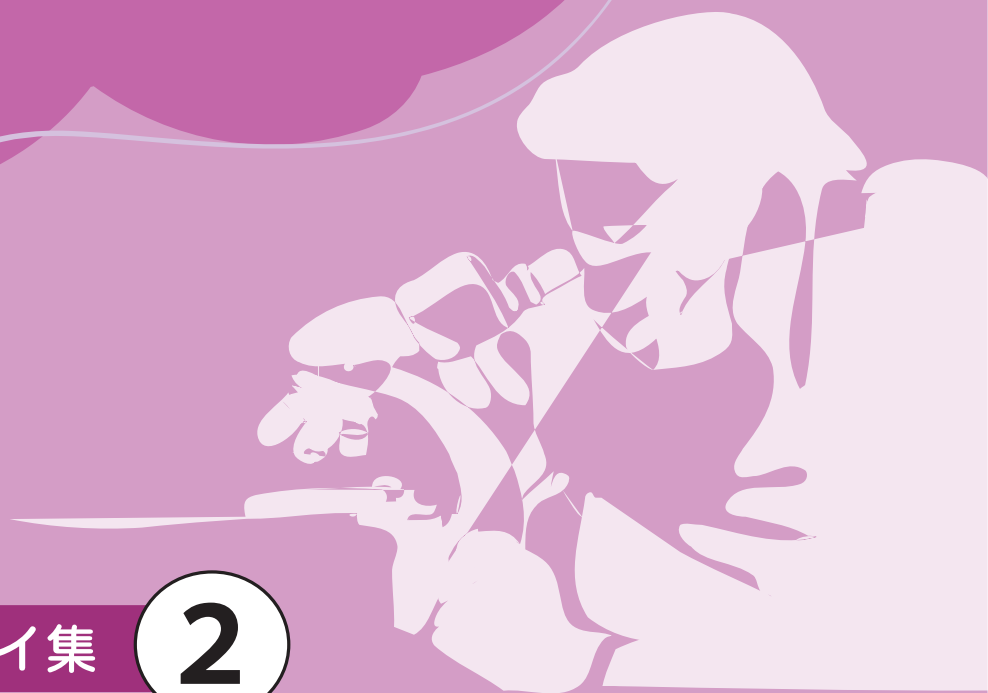


# 患者さんに 顔の見える 病理医の独り言



メディカルエッセイ集

2

ヒポクラテスも知らない！  
～うんちく編～

つつみ病理診断科クリニック  
院長 堤寛

復刻版

# 「患者さんに顔のみえる病理医」の独り言

## メディカルエッセイ集②

### ヒポクラテスも知らない! ～うんちく編～

堤 寛 Yutaka Tsutsumi, M.D.

#### 1. 歴史を学ぶ

October が 10 月になった理由

胞衣皿 (えなさら)

与那国島の海底遺跡

松島、塩竈と多賀城を結ぶ

コロンブスより早かったアイルランド人

恐竜の発見

安土の夢

前後駅とにごり池

藤田保健衛生大学周辺の日本史探訪

木曾川の堤防の話：御囲堤と宝暦治水

有松絞りと有松の町並み

三行半

縦長文化

18 歳の坂本龍馬と 16 歳の八百屋お七

堪え忍び、祈る浦上キリシタン

ペリー提督と小笠原諸島

先島諸島を売り払おうとした明治新政府

明治用水

明治三陸地震

高瀬川と西郷菊次郎

ちょんまげ

あんパンと筑波山

県名のなぞ

緑の革命と稲塚権次郎

韓国、近くて遠い隣人

わんちゃんたちの受難史

Victory Day

東条英機の遺骨

報道されなかった大災害

原爆投下と報道規制

原爆に倒れた米兵

戦時災害保護法

太平洋戦争後のレンバン島とシンガポール島における日本兵抑留

痛恨の日・屈辱の日

ナイジェリアという国、イボという民族

バングラデシュという国

日本初の成人式

祝祭日に国旗を揚げる習慣と横浜駅3代の歴史

神奈川と横浜の関係

万博の歴史

三大太郎

夫婦別姓の歴史

年賀状の歴史

安全神話

セラード

家族殺人

社会貢献のスケール

## 2. お役に立つ雑学

英語の三拍子と日本語の四拍子と

黄金分割比 $\phi$ とフィボナッチ数列

森の話

塩の話

鬼門

残心

無関心

食育

アカウントビリティ

同音異義語

中国へ逆輸出された和製漢熟語たち

権利、究極の誤訳

ヤフー

ロビンソン・クルーソーとガリバー

スペイン人気質

トルファンの不思議

贈り物

貴重品

リンスインシャンプー

ゴールデンエイジ

## 3. 生きもの編

肉食動物の栄養補給

アンモニア臭のする食べ物  
イヌはタマネギとチョコレートが苦手  
サケ、生物界における物質循環の使者  
みさご  
ハト  
せみ  
トンボ  
ホンチ遊び  
色へのこだわり：イデユコゴメ  
イチョウとギンナンの話

#### 4. ことばあそび

チャイ  
東海3県  
牧師と司祭  
孫の手  
7つの挨拶ことば  
美化語  
感嘆詞考  
もったいない話  
ちゅうちゅうたこかいな  
教育とは  
お箸  
陽出ずる国は「アップ」好き  
にほんとにつぼん  
浅間神社  
元患者とアボリジニ  
邪（よこしま）のよこ、横浜のよこ  
苗字の妙  
囲碁用語  
いろはカルタ  
さようならの語源  
ついたちの語源  
止め名  
猩々  
お勧めの新婚旅行スポット  
日本がはしっこの世界地図  
カマトトに惹なく  
メビウスの輪  
リンクフリー考  
ワープロ変換の悲哀

外国人日本語検定試験

心はどこにあるの？

私お気に入りの相田みつをの詩 3 編

私の好きな言葉

私のモットー

無財の七施

## 5. 音楽の話

ひき逃げ者の独り言. 豊明ムジカンテンの演奏者として

オーボエと私 ~しろうとオーボエ吹きの贅沢、「輪の和」、そして JPP~

「患者さんに顔のみえる病理医」の実践と音楽の力

チャルメラとオーボエ

騎馬のリズムと阿波踊り

しろうと演奏家とブラ 1

管楽器の名手の性格

トロンボーン吹きのグチ

管楽器の名手の性格

日本人の聴く耳

ベートーヴェンの耳

踊るウィーン会議とベートーヴェン

鼓膜とティンパニ

ティンパニ奏者の欲求不満

ダウン症の天才ピアニスト

## 6. 下半身秘話

お尻の話

おなら考

経口糖尿病薬とおなら

結腸のなぞ

こやし

トイレ

紙おむつ

非能率

サルには閉経がない

生物界の摂理 ~生殖年齢を過ぎた生物は死ぬ運命にある~

勃起障害になりたくなければ、禁煙が欠かせない？

コンドームの歴史

小夜衣

腎虚

勃起障害 (ED)

家康が愛用したバイアグラ

元気がない精子の話

細胞標本から知れる性生活の姿

医学用語の中のゴンと性風俗の変化

柘榴風呂

ふんどし

偶然

ダイヤルイン

米国における高齢男性のセクシュアリティ

## 1. 歴史を学ぶ

### October が 10 月になった理由

ラテン語で Septa (hepta)は7、Octa は8、Nona は9、Deca は10。そう、8本足のタコは octopus だし、炭素8個の炭化水素は octane だ。それなのに、September、October、November、December はそれぞれ9、10、11、12月で2ヶ月ずつずれ込んでいる。いったい、なぜだろう。

古代ローマでは1年は10ヶ月で、1月は Martius (軍神月)、2月は Aprilis (開花月)、3月は Maius (成長月)、4月は Junius (守護月)と、季節を意味する神の名がつけられていた。その後、ポンピリウス王が1年を355日、12ヶ月とする改暦を行った。

紀元前45年、かの Julius Caesar (ユリウス・カエサル) がいわゆるユリウス暦(1年365日、4年に1度は366日)をつくった。当時のお役所始めが11月だったので、これを Januarius (始め月)とした。このとき軍神月以降が2ヶ月ずつうしろへとずれてしまった。各月の日数は、軍神月から交互に31日と30日とし、今の2月は第12番目の調整月 (Februus : 浄めの月) だったため、29日となった。そして、今の7月が自分の誕生月だったため、自分の名前に変えたのだ (July)。

カエサルの子で古代ローマの初代皇帝 Augustus は、紀元前9年にアウグストゥス改暦を行った。父にみならって、戦勝した8月に自分の名前をつけ (August)、この月の日数を縁起のいい31日として、最終月の2月から1日削って28日としてしまった。また、7月、8月と31日が続くため、9月は31日から30日に変更され、以下ずらしていった。皇帝となる前の Augustus は Octavian とよばれた。Augustus が8月をとった理由はこの辺にもあるかも知れない。

なお、現在の暦はグレゴリオ暦である。ローマ教皇グレゴリウス13世が1582年に改暦した。円の一周が360度の起源は1年の日数に由来するそうだ。3.14にちなんで、3月14日は数学の日。

### 胞衣皿 (えなさら)

奈良時代、中国から新しい思想や信仰が広まり、道教的なまじないは、人々を疫病神から守ると信じられた。家を建てる時の地鎮、子供の健康と成長を願って、胎盤(胞衣)を紙・ぼろ布・藁にくるんだり、油紙で包んで「胞衣皿」に納めて、家の出入り口や縁の下に埋める風習があった。生まれた子が男子なら敷居の内側、女子は外側に埋める慣わしがあったらしい。神奈川県下では「昭和13~14年頃、平塚に胞衣屋ができて以来、埋め場所があっても胞衣屋に渡す家が出てきた」と記録されており、「胞衣埋納」の風習は少なくとも戦前まで続いていた。

### 与那国島の海底遺跡

沖縄県の与那国島(与那国町)は、日本最西端の地で、八重山列島に属す人口1,500人足らずの小さな国境の島である。石垣島より台湾島の方が近い。1986年、この島の南部の水深25メートルほどの海底に

海底遺跡とおぼしき巨石群がダイバーによって発見された。

周囲数百メートルに及ぶこの巨大な一枚岩は、通路状の隙間、階段状の壁、柱が立っていたと思わせる穴など、人間が加工しなければできないような形状を備えているため、海底遺跡の可能性が論じられてきている。1992年以降、琉球大学理学部教授（当時）の木村政昭氏を中心として調査が行われた。この“海底地形”に対して、人工的な構造物、自然地形であるという、相対する立場からの見解・議論がある。現在、人気のダイビングスポット「遺跡ポイント」として、与那国島の貴重な観光資源になっている。

発見者である新嵩喜八郎氏が主催する与那国海底遺跡博物館では、1 万年以上前に水没した世界最古の古代遺跡（アトランティス大陸の一部）との主張を展開している。一方、木村政昭氏は遺跡が水没した年代を 10 世紀後半～11 世紀前半と推測し、「邪馬台国は沖縄だった！ 卑弥呼と海底遺跡の謎を解く」（第三文明社、2010）とする新説を唱えている。沖縄でこの説をはじめて聞いたときの衝撃は忘れられない。

3 世紀末（弥生時代の末期）に中国、西普の陳寿によって書かれた「魏志倭人伝」（“三国志”の記述の一部）には、倭の国、邪馬台国は、投馬国（九州地方のどこからしい）より南に水行 10 日、陸行 1 月（万二千余里）に位置すると記載されている。邪馬台国畿内説では方位を南から東に、九州説では距離を陸行 1 月から 1 日に修正しなければならない。しかし、文字通り計算すれば、邪馬台国は沖縄にあったことになる。そして、沖縄地方の邪馬台国は数百年前に巨大地震による地滑りで水没した---

上記書籍の裏表紙から。「魏志倭人伝」曰く、「倭の地は温暖で、冬も夏も生野菜を食べる」「倭の水人、好んで沈没して、魚蛤を捕らえる」「死するや、喪主、哭泣して、他人就いて歌舞飲酒す」。これらはいずれも、沖縄の民俗との類似性が著しい。

与那国島・沖縄の人たち、そして古代ロマンを夢見る人たちにとってとても残念なことに、この海底地形は人工的な「遺跡」ではなく、自然の造形と考えるのが、最近では有力なのだそう。海底遺跡説は地質学・地球物理学的根拠に乏しく、「遺跡」と認める考古学者・地質学者はほとんどいない。自然の力で岩石が削られてできた海底地形として矛盾なく説明が可能らしい。第三者としては少々残念だけれど、水中自然遺産としての価値を再評価した方がいいのかも知れない。

## 松島、塩竈と多賀城を結ぶ

2012 年 6 月下旬、私たちは、ドイツで活躍するプロオーボイスト、渡辺克也氏とともに、宮城県東松島市にいた。回復したばかりの東松島市コミュニティーセンターホールで、被災者支援コンサートを開催した。そして、被災した中高生のオーボエ奏者を対象とした公開レッスンが行われた。東松島市～石巻市にかけての海岸線は津波にさらわれたままの状況だった。とくに、東松島市の復興は著しく遅れ、ようやく海岸線に仮設道路は開通していたものの、JR 仙石線の復興は遙か遠く、家も畑もない更地が延々と広がっていた。お隣の松島町を訪れると、津波の被害は予想以上に軽かった。訊けば、松の生い茂る 260 の小さな島々が点在する松島湾の地形のおかげだという。日本三景としての見晴らしのすばらしさととどまらず、防波堤としての機能にも優れていることが見事に証明された。

平安時代の 11 世紀ころまで、松島という地名はなかったそう。当時は、松島湾の島々は“松の島”ではなかったらしい。そのわけは、大和朝廷が蝦夷（えみし）、すなわちアイヌと戦った”東北 38 年戦争”



にある。

大和朝廷は蝦夷を征討すべく、多くの兵士を拠点の多賀城（現、宮城県多賀城市）に駐屯させた。多賀城は、神亀元年（724年）に“蝦夷征討”の目的で、陸奥（むつ）国府として創建された古城である。松島丘陵の南東部、塩竈丘陵に位置している。そして、多賀城の東北（鬼門）の方角には塩竈神社が建てられ、門前町・港町としての塩竈が成立した。万単位の兵団を養うためには、松島湾で製塩された塩が必要だった。多賀城と松島湾を結ぶ港町が塩竈（宮城県塩竈市）と呼ばれるようになったのはこの製塩史に由来する。当時の製塩は、煮詰めた海水をしみこませた海藻を焼く「藻塩（もしお）」法だった。燃料となる大量の木材が必要だった。藻塩法は実際、小さな島々単位で行われたため、島々に多数あった落葉樹はことごとく切り倒され、はげ山状態になってしまった。38年戦争ののち、うち捨てられた島々が残った。海に面した貧しい土壌で生き残れたのはアカマツやクロマツだった。そして、いつしか“松島”と呼ばれるようになった。

少し、蝦夷征討の歴史を振り返ってみよう。

飛鳥時代（592~710年）、大和朝廷は奈良県飛鳥（あすか）の地に都を置き、国号を倭の国から日本へと変えた。推古天皇元年（593年）に聖徳太子が摂政となり、大化2（646）年の大化の改新に際して、孝徳天皇は難波宮に遷都した。持統天皇8年（694年）に都は藤原京へ、和銅3年（710年）には元明天皇によって平城京が開かれた。

この時代（7世紀）、蝦夷は現在の宮城県中部から山形県以北の東北北部から北海道にかけて広く暮らしていた。大和朝廷の東北進出は大化年間ころに始まった。白雉5年（654年）に陸奥国が設置され、その後、蝦夷征討のために多賀城が建てられた。朝廷にとって、金の産出がとくに魅力的だった。事実、黄金山（こがねやま、現、宮城県涌谷町）でとれた大量の金が、東大寺大仏の煉金に使われた。

奈良時代の宝亀5年（774年）から平安時代の弘仁2年（811年）にいたる38年間は大和朝廷による本格的な蝦夷征討の時代だった。“東北38年戦争”として知られている。延暦20年（801年）、坂上田村麻呂が征夷大將軍として遠征し、蝦夷の指導者アテルイとモイを処刑した。この間、朝廷軍は、伊治城（宮城県栗原市）、秋田城（秋田市）、胆沢（いさわ）城（岩手県奥州市）、志波城（盛岡市）などの拠点を東北北部の各地に築いた。

38年戦争の後には組織だった蝦夷征討はなかったが、ときに蝦夷による小さな反乱が発生した。奥州藤原氏が陸奥国平泉を中心に勢力を誇った時代、すなわち、寛治元年（1087年）~文治5年（1189年）までには、本州北端まで日本の国制下に入った。そして、「蝦夷」は“えみし”の代わりに“えぞ”と呼ばれるようになった。

## コロンブスより早かったアイルランド人

New Englandの中心地、ボストンに留学していた当時に求めた小冊子“The old Irish of New England”（Chandler-Smith Publishing House, no. 10, 1985）を種本に、世界史を少し探訪してみたい。アメリカ合衆国初のアイルランド系大統領J.F. ケネディーの生家のある街ブルックライン（Brookline）に住み、ボストンをフランチャイズとするプロバスケットボールチーム “Celtics（ケルト人たち）” を応援した New

Englandファンの独り言に、しばらくお付き合い願いたい。ケルト人とは、アイルランドおよびスコットランドに住んでいたゲール語Gaelicを話す民族の総称である。New Englandでケルト人といえば、"the fighting Irish (けんか好きなアイルランド人)" を指すと考えてよい。独立戦争の際にジョージ・ワシントン率いる独立軍の38%はアイルランド系だったそう。

アメリカ大陸は、コロンブスよりはるか以前に、西洋人によって発見されていた。確かに、現在使われている高校の世界史の教科書(山川出版社)にも、「ヴァイキングの活動」の項に、「かれらのなかには、アイスランドをへて、遠くグリーンランドから北アメリカにいたったものもあった」という記述が見られる。しかし、ここで振り返ってみたいのは、スカンジナビアのヴァイキング(ノルマン人)およびイングランド(ブリテン島)のアングロ・サクソンによる侵入と搾取、そして、長年にわたる飢饉に耐えかねて、はるかな航海に出たアイルランド人たちの軌跡である。

ニューハンプシャー州SalemにMystery Hillと呼ばれるケルト人の住居跡がある。この遺跡stonehengeは、紀元前3世紀に造られたとも、10世紀頃にアイルランド人のキリスト教僧侶が利用したとも推定されている。このほかにも、New Englandからカナダの東海岸にかけて、古代ケルト人たちの生活の遺産がそこかしこに遺されているという。この地のインディアンによる地名の一部は、明らかにゲール語由来らしい。17世紀にカナダに入植したフランス人たちは、インディアンたちがすでにキリストについてよく知っている事実にたいへん驚いたらしい。1492年にChristopher Columbusがスペインの港から新世界をめざす航海にでるときに携えていた地図には、"St. Brendan's Island"と称された大きな陸地が大西洋の中央に描かれていたそう。

St. Brendanは、コロンブスに遡ること実に約900年。6人の男たちとともにアメリカ大陸に渡った、記録に残る限りでは最古のアイルランド人カトリック僧侶monkである。彼は、10メートルあまりの皮製ボートで大西洋を渡った7年間の航海記録を「聖ブレナンズの航海」という本にまとめている。一行は、神から与えられた”飛び石 stepping stones”に沿った航路をとり、その間、海から火を吹く山(アイスランドの火山)、海に浮かぶ氷の宮殿(冰山)、ネコの頭をした怪獣(セイウチ)、毛皮を着た小男たち(エスキモー)をみたと記述している。彼らが行き着き、数ヶ月を過ごした大きな陸地 "the Promised Land" を、Brendan は "St. Ailbe"と呼んだ。現在では、彼らのとった飛び石航路は、Ireland → Scotland → the Hebrides (ヘブリディーズ諸島) → Iceland → Greenland → Newfoundland → Nova Scotia → New Englandであったと想定されている。この北大西洋沿岸ルート 3000マイルの最終到着地 "St. Ailbe"、そして、コロンブスの目指した "St. Brendan's Island" は、New Englandのどこかだったらしい。

ヴァイキングに侵略されたアイルランド人は、その後、St. Brendanのルートに従って、アイスランド→グリーンランドへと移住してゆくが、そこも、ヴァイキングに追い払われることになる。1009年、Eric the Redらはグリーンランドから南下し、Vinland(現在のNova ScotiaあるいはCape Cod)を経て、内陸の "Albania" (Brendan の St. Ailbe) に定住した。その場所が、前述した Mystery Hillであった可能性もあるという。

1620年にマサチューセッツ州プリマスに漂着したメイフラワー号。その乗員・乗客であったピューリタン100人は、子供も含めて、全員の名前が残されている(ちなみに、その冬を無事に越すことのできたピューリタンは、わずか3人にひとりだったらしい)。その後、WASP (White, Anglo-Saxon, Puritan) の召

し使としてイギリス本国から強制的に連行されたアイルランド人たちの名前は一切記録に残されていないという。1649年のクロムウェルによるアイルランド人無差別虐殺に代表される、ピューリタンによるカトリック教徒アイルランド人に対する差別は、この頃、し烈をきわめた。1641年からの11年間にアイルランド人の人口は半減したらしい。時は下って、合衆国の独立直前。アメリカ植民地に対する不条理な「印紙条例」を押付けられたボストン市民は、イギリス本国への反感を日に日につらせていた。1770年3月5日（月）、ボストンの街は移住した（させられた）アイルランド系労働者であふれかえっていた。イギリス軍による”ボストン大虐殺”Boston massacreが旧市庁舎前で発生したのは、雪の舞う寒い夜のことであった。丸腰の市民5人が射殺されたこの事件が、独立戦争のきっかけの一つとなったことは、つとに有名である。

このように、New Englandとアイルランド人はきっても切り離せない関係にある。アイルランド系の人々が、ユダヤ人とともに、現代アメリカの各界において大いに活躍しているのは衆知のとおりである。代表的なアイルランドの人名を少し挙げておこう。Barrett, Carney, Collins, Flynn, Forbes, Kennedy, McCartney, McDaniel, Murphy, O'Brien, O'Hare, Reagan, Scully …。なお、McDonaldはアイルランド系、MacDonaldはスコットランド系だそう。そうそう、「ユダヤ人の発想」（徳間文庫）によると、コロンブスはキリスト教に改宗したスペイン生まれのユダヤ人であったとする説があるそう。コロンブスという名前自体が、15世紀当時、イタリアでもっとも有名なラビ（ユダヤ教僧侶）であったヨシュア・コロンという人物からとられたらしい。そのころは、ほとんどのユダヤ人は苗字をもっていなかったことを考えると、アイルランド人と同様に差別を受け続ける運命を背負う民族の悲哀が感じられて、なかなか感慨深い。

（医学のあゆみ175: 208-210, 1995より）

## 恐竜の発見

「得体の知れない生物の石」として中生代ジュラ期、白亜紀の地層から発見された恐竜の化石を発見したのは英国の地質学者、ウィリアム・バックランド（1824年）と英国の医師、ギデオン・マンテル（1825年）だった。バックランドが発見したのは肉食性恐竜、メガロサウルスの顎の骨だった。マンテルは草食性恐竜、イグアノドンに初記載した。

19世紀前半のキリスト教科学者は、旧約聖書の「創世記」に書かれたキリスト教の教義に捕らわれていた。神は”天地創造”の終わりに土からアダムをつくり、アダムの肋骨からイブをつくりだした。アダムとイブの誕生ののちに、実のなる植物が創造された。そして、アダムとイブ以前には肉食動物は存在しなかったと信じられていた。

バックランドが発見したメガロサウルスが鋸歯を持っており、肉食性と考えられたことが、天地創造の教義に反した。そのため、大なる物議が醸され、彼の発見は学問的になかなか受け入れられなかった。マンテルが発見した草食性のオオトカゲ、草食性爬虫類のイグアナに似たイグアノドンがまず、英国王立協会に受け入れられ、巨大トカゲの代わりに恐竜（dinosaur）の名称がつくられるに至った。

19世紀後半、ようやく本物の自然科学が発展するきっかけとなったのが、チャールズ・ダーウィンの「種

の起源」(1859年)に基づく進化論・自然淘汰説だった。もっとも、ダーウィンの進化論には教会を主体とした根強い反論・批判が避けられなかったのだが---

## 安土の夢

先日、滋賀県安土町の安土城址を訪れた。標高差 105 m の山頂 (標高 199 m) に壮大な天守閣跡が残されていた。宣教師フロイスに著書「日本史」の中で“ヨーロッパの最も壮大な城に比肩しうる”と記述させた、華麗な絵画装飾を施し五層七重の天守閣 (天主) をもつ豪華な城がそこにあった。階段総数 300 段以上。大手道と称される天主への階段を息切れせずに登るのは中年のおじさんには難しい。登り口からすぐのところに羽柴秀吉邸跡と前田利家邸跡が、中腹に森蘭丸邸が、山頂付近にも多くの石垣跡があった。

天正元年 (1573) に室町幕府を滅ぼし、天正 3 年に長篠の戦いで武田勝頼の騎馬隊を破った織田信長は、上洛して天皇から権大納言兼右近衛大将に任命された。天正 4 年正月に安土の地に築城をはじめ、3 年後の天正 7 年に完成した。朝廷に近づきすぎて公家化して柔軟になった室町幕府の二の轍を踏まないために京都を避けたこと、安土が交通の要所だったことが、信長がこの地を選んだ理由だった。当時、大量の物資や兵力の輸送には水路が重要だった。

現在の安土は干拓により琵琶湖から隔たっているが、当時の安土は、安土山のみもとに安土内湖が広がり、西側に開発された安土の町には水路がめぐらされていた。山城の山腹に重臣の屋敷を置き、山すその平地に集めた中下級武士の屋敷群に連続して商工業者の町屋を配置した。信長は安土を京都に変わる首都として発展させる意図があったに違いない。

信長が 49 歳の生涯を閉じた本能寺の変 (天正 10 年) ののち、明智光秀が豊臣秀吉に破れたことを、安土城で聞いた光秀の娘婿明智秀満は、退却する際、安土城に火を放った。3 年の歳月をかけて築城した安土城は、天下統一を目の前にした織田信長の死とともに、歴史の中で忘れ去られてしまった。豊臣秀吉が天正 11 年 (1583) に二の丸跡に信長廟を建て、信長の墓所として保護されたらしいが――。その後、安土城の発掘が行われたのは昭和 15 年だったというから驚きだ。

## 前後駅とにごり池

藤田保健衛生大学の最寄り駅は名鉄本線の「前後」駅である (名鉄名古屋駅から急行で 20 分余)。大学の裏側には「にごり池」がある。少し離れて「皿池」もある。大学の住所は、愛知県豊明市 くつかけちよつでんがくがくぼ 沓掛町田楽ヶ窪だ。これらの地名の由来を説明しよう。

わが大学は戦国時代に おけはざま 桶狭間の合戦にゆかりが深い。「にごり池」は、桶狭間の合戦で今川義元勢に勝利した織田信長勢の武士たちが血のついた刀をここで洗い、血で濁ったことに由来する。池には、合戦で敗れた武士の亡霊が今でも出没する(?)らしい。「皿池」は首を洗った「血池」が和らげられた表現なのだそう。「前後」という珍しい地名は、合戦のあとに前も後も死体の山だったからとか、討ち取った首が前後に落ちたからとかいわれている。いずれもいわく憑きだ。

戦国時代、諸領主は領地拡張に明け暮れていた。駿河・遠江・三河の領主、今川義元は足利幕府 13 代将軍、

義輝を助ける名目で、中央(京都)進出を果たそうとしていた。そのため、尾張の平定がどうしても必要だった。織田信長はこれに抵抗した。ほとんど勝ち目のない戦い「桶狭間の合戦」を信長はみごと勝ち抜き、天下布武への糸口をつくった。

永禄3(1560)年5月12日、今川義元は軍勢25,000をひきつれて府中(静岡市)を出発、岡崎を経て、17日に沓掛城(大学の北東側に城趾あり)に入り、織田勢攻撃の準備をしていた。少数精鋭の織田軍3,000は、5月19日未明、清洲城を出陣した。このとき、死を覚悟した信長は時世の句を詠んでいる。桶狭間に今川義元の本陣を発見した信長軍は、大学キャンパスのある田楽ヶ窪に陣どった。この日は昼頃から雷雨を交える大豪雨となった。そして、信長軍は豪雨と雷鳴に乗じて、一気に義元の本陣へとなだれ込んだ。

現在、「桶狭間古戦場伝説地」(名鉄線、中京競馬場前駅:前後駅の1つ名古屋よりの駅)には、戦いの概要を記した弔古碑のほか、義元以下7人の武将の碑である七石表がある。近くの「高德院」に、今川義元公の霊碑がまつられている。「戦人塚(千人塚)」には、桶狭間の合戦における今川軍の戦死者2,500余人が埋葬供養されている。

とてもローカルな話題で失礼しました。歴史探訪を兼ねて、ぜひ藤田保健衛生大学へいらしてください。

## 藤田保健衛生大学周辺の日本史探訪

藤田保健衛生大学周辺の日本史探訪です。こちらにいらしたときは、ぜひ戦国以降の日本史を堪能してください。

大学の住所は、愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98。沓掛の古城(沓掛城趾)は大学のすぐ北にあります。ここは今川義元の居城・陣地。田楽ヶ窪は桶狭間(田楽狭間)の戦い(名高き今川義元と織田信長の戦い)の主戦地です。

大学のすぐ横にある「にごり池」は、血のついた刀を洗って血で濁ったことに由来。大学の北側にある皿池は、本来「血池」だったそうです。

大学の最寄り駅は名鉄線の前後駅。「前後」の地名は、前を見ても後を見ても首(死体)だった、あるいは首が前後に落ちたこと由来する。前後駅の近くには「戦人塚(千人塚)」があります。現在の地名は仙人塚のようです。

今川義元の墓は中京競馬場駅前(前後駅の隣駅)の桶狭間古戦場公園にあります(つい最近まで藤田学園の本部があった場所)。どうか、今川軍勢の怨霊にご注意ください。学生の噂:今でも、にごり池周辺には怨霊が出るー。事実、医学部開設当時、大学の横を流れる愛知用水で水泳部の(?)女子学生が溺死したそうです。愛知用水は戦後、水に乏しい知多半島の農業用水として、延々木曾川から水をひいた世紀の大工事でした。難工事で多くの方が亡くなったようです。

そういえば、知多四国と称される弘法参り88カ所が知多半島にもありますが、その第1番の弘法寺(曹源寺)は豊明市南部にあります。

私は大学から歩いて10分ほどの豊明市二村台(ふたむらだい)に住んでいますが、大学のすぐ裏にある「二村山」(小高い丘です)は、江戸以前(戦国時代)は山賊のすみかだったそうです。ここに今も一部残る「鎌倉街道」(鎌倉へ続く道)が通っていました。道幅1メートルにも満たない古「街道」です。当

時、二村山を夜に通ることはやめた方がいいと言われたそうです。東海道が整備される以前の話です（豊明市史より）。

今でも国道1号線の通るこのあたりの東海道の宿場は、知立（池鯉鮒）と鳴海にありました。次の熱田からは海路で桑名までが正規の東海道でした。名古屋の北西部を堂々と流れる木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）に橋を架けられなかったためですね。

美しいけど相当にお高い「有松絞り」は450年の歴史があります。3度も上洛した第14代将軍、徳川家茂が、絞りの着物を購入し、さらに茶室に立ち寄ったことが自慢です。茶室は今でもそのまま守られています。名鉄線有松駅前の旧東海道沿いには、有松の古い町並みがたいせつに保存されています。宿場町鳴海の鳴海絞りとの戦いは今でも続いているようです。半年に一度、有松絞りの老舗の「蔵」をお借りして、へぼオーボエのミニコンサートを開催させてもらっています。感謝。

徳川家康が生まれたのは、お隣の三河国刈谷市です。生母、於大をまつる公園があるし、“おだい祭り”が毎年開催されます。ちなみに、豊明までが尾張国です。境川を挟んで、知立や刈谷は三河の国です。

## 木曾川の堤防の話：御囲堤と宝暦治水

濃尾平野を流れる木曾川下流の左岸に、御囲堤（おかこいつつみ）と称される堤防がある。御囲堤は、現在でも、愛知県犬山市から弥富市に至る木曾川左岸に、48 km にわたって築かれている。高さは9.1～14.5 m に及び、桜の名所が多い。その原型は、1593（文禄3）年に豊臣秀吉の命によって築かれた。1600（慶長5）年の関ヶ原の戦いのあと、尾張国清洲城に徳川家康の九男、徳川義直（尾張藩初代藩主）が入城した。大阪城に陣取る豊臣家の侵攻から尾張藩を守る軍事的目的で、1608～1609（慶長13～14）年、御囲堤が築堤された。1615（慶長20）年の大坂夏の陣で豊臣家が滅んだのちは、木曾川の洪水から尾張藩を守り、木曾川の水運権を行使することが御囲堤の主たる目的となっていた。美濃国側では、尾張側の御囲堤より3尺（90 cm）低い構造となったために、濃尾平野の西低東高の地形とあいまって、洪水は美濃国側に多発するようになった。木曾三川の河口部扇状地の美濃国の村々では、川と境する堤防、すなわち、輪中（わじゅう）を造って洪水に備えた。

一方、御囲堤で締め切られた尾張国の村々は、洪水の脅威はなくなったものの、農業用水の不足に悩まされた。そこで、尾張藩は農業用水路を建設し、今でも尾張各地に多く残るため池を整備した。

1610（慶長15）年、徳川家康の命によって、九男義直の居城、名古屋城の築城が開始され、1614（慶長19）年に完成した。この間に、清洲町民はこぞって名古屋城下に移転した（清洲越し）。徳川義直が駿河から名古屋城に移ったのは、1616（元和2）年だった。“天下普請”の命は、西国20カ国の外様大名に下った。このとき、外様大名だが加賀藩に次ぐ大藩だった薩摩藩は選ばれていない。1609（慶長14）年、薩摩藩は琉球王国に出兵して服属させ、琉球領だった奄美群島を薩摩の直接支配下に置いていた（琉球征伐）。

江戸中期1754～1755（宝暦4～5）年の15ヶ月間に、幕命により薩摩藩が行った木曾三川に対する治水（分流）工事は、「宝暦治水」と呼ばれる。濃尾平野を流れる木曾川、長良川、揖斐川の3大河川は濃尾平野で複雑に合流、分流を繰り返すため、洪水多発の原因となっていた。

1753（宝暦3）年12月、第九代将軍徳川家重は薩摩藩主、島津重年に“御手伝普請”と称する川普請工事を命じた。幕府の設計・計画のもと、薩摩藩がすべての資金を出し、人足の動員や資材の手配をする形だった。総勢1,000名もの人員が現地に派遣された。工事区間が延長112 kmに及ぶ難工事だった。河口の輪中地域が、一之手、二之手、三之手、四之手の4つの工区に分けられた。長良川と揖斐川、木曾川と揖斐川の合流地点に食違堤（食違堰）をつくって川を分流するねらいだった。

揖斐川西岸への水の流入を防ごうとすると長良川の水位が上がり、沿岸地域が水害の危険にさらされた。木曾川から長良川への流入を減らそうとすると、木曾川沿岸で洪水の可能性が高まった。結果的に、当時の技術では三河川を完全に切り離すことはできなかった。

幕府側は、食事を一汁一菜に規制し、蓑・草履も安価で売らぬよう地元農民に指示していた。1754（宝暦4）年4月14日、薩摩藩士の永吉惣兵衛と音方貞淵が自刃した。両名が管理していた現場で3度にわたって堤防が決壊し、現場で嫌がらせの指揮を執る幕府役人に対する抗議の自害だった。その後も、総計51名もの薩摩藩士が抗議の自害を果たした。割腹がお家断絶の可能性があったため、薩摩藩の総指揮者、家老平田靱負（ゆきえ）は幕府に届け出なかった。工事期間中、幕府側の現場責任者2名も自害した。

同年8月、粗末な食事と過酷な労働で体力が弱っていた薩摩工事方の間に赤痢が流行した。157名が病に倒れ、32名が病死した。翌年5月に工事が完了すると、総指揮平田靱負は責任をとる形で割腹自殺した。

薩摩藩が要した費用は40万両（現在の300億円以上）。大坂商人から22万両を借入し、返済は領内の税からあてられた。その際、奄美群島のサトウキビは収入源として重視され、住民へのサトウキビ栽培の強要と収奪が行われた。現地では、薩摩藩への恨みを込めて、この搾取と苛酷な圧政を「黒糖地獄」と呼んだ。

美濃（岐阜県）の人たちの薩摩（鹿児島県）に対する感謝の気持ちは今も受け継がれ、慰霊碑のほか、犠牲になった平田靱負を含む薩摩藩士を祭神とした治水神社が建立されている。最大の難工事だった四之手“油島（あぶらじま）堤防”（岐阜県海津市）には、藩士たちが国もと薩摩から日向松の苗木を取り寄せてつくった千本松原があり、治水神社はその松林の中に建立されている。この“油島千本松締切堤”は国の史跡に指定されている。現在、岐阜県と鹿児島県は姉妹県として交流を続けている。霧島市と海津市、鹿児島市と大垣市（難工事だった三之手、墨俣輪中がある）が姉妹都市である。直木賞作家、杉本苑子氏の「孤愁の岸」に、薩摩義士の歴史が詳細に描かれている。

## 有松絞りと有松の町並み

名古屋市緑区の名鉄線沿線にある有松の町には、有松絞りを商う古い町並みが保存され、名古屋市の“町並み保存地区”に指定されている。中でも最も老舗の竹田嘉兵衛商店の3番蔵はコンサート用に開放されている。店主竹田嘉兵衛氏の篤いご厚意で、筆者らは3番蔵でのオーボエとピアノによるミニコンサートを何度か開催させていただいている。ゆとりある配慮とすばらしい響きとともに、いつも楽しい時間を過ごさせてもらっている。感謝。

400年の歴史を誇る有松絞りの本拠地、竹田邸には、本宅や蔵のほかに、伝統の茶室がある。この茶屋には、江戸末期に第14大将軍、徳川家茂（1846～1866年）が立ち寄ったそうだ。入室の際に将軍や大名

に頭を下げさせないために、入り口の高さを高く改造したのが語りぐさになっている。1863（文久3）年のそのとき、家茂は弱冠満17歳。公武合体の一環として孝明天皇の娘、和宮と前年に結婚していた。3代将軍家光以来、229年ぶりの将軍の上洛だった。竹田商店から買い上げた有松絞りを、きっと仲むつまじかった和宮のお土産にしよう。ちなみに、家茂は第二次長州征伐のための3回目の上洛のとき、大阪城で脚気のため、波乱の一生を閉じた。満20歳だった。

江戸のはじめ、東海道沿いの有松地区は人家のない荒地であり、治安が悪かった。そこで、尾張藩は有松地区に集落をつくった。1608（慶長13）年のことだった。有松地区は丘陵地で稲作に不向きで、鳴海宿に近いため”間の宿”としての可能性も乏しかった。有松に移り住んだ竹田庄九郎は行動した。1610～1614（慶長15～19）年の名古屋城普請のため西国豊後（大分県）から遠路足を運んだ人足が着用していた絞り染めをヒントにして、地元阿久比産の尾張木綿に絞り染めをした手ぬぐいを、街道を行き交う人々にお土産として販売した。1655（万治元）年、豊後から移住した医師、三浦玄忠の妻によって豊後絞りの技術（三浦絞らないし豊後絞り）が導入され、有松絞りは技術的に進歩した。有松絞りが隆盛になると、隣町鳴海でも絞り染めが生産されるようになった。

1781（天明元）年、尾張藩は有松絞り保護の目的で、有松の業者に独占営業権を与えた。そのため、現在に残る豪壮な町並みがつくられることになった。西国の諸大名の参勤交代（帰国）の際に、有松に立ち寄って、反物や手ぬぐいを土産物とした。すぐ西隣に鳴海宿があったため、有松絞りは鳴海絞りとも呼ばれた。有松の店先で品定めをした品物を鳴海宿へと届けることも多かった。歌川広重は、東海道五十三次の錦絵に、鳴海宿として有松の町並みを描いた。現在に続く有松絞りと鳴海絞りの主導権争いは、1963～1964（昭和38～39）年に名古屋市緑区に編入されるまで、行政区として鳴海は愛知郡、有松は知多郡に分かれていたことにも関連する。有松・鳴海絞りは1975（昭和50）年に、愛知県で初めて、国の伝統工芸品に指定された。1992（平成4）年には、第1回国際絞り会議が名古屋国際会議場と有松・鳴海地区で開催された。

幕末には絞りの営業独占権が解除された。明治になって東海道線が開通すると、東海道沿いが交通の主要路からはずれた。これらが原因となって、有松絞りは一時的に衰退した。しかし、販路拡大や新技法が開発・特許取得によって息を吹き返し、現在に至っている。絞り技法は100種にも及ぶ。有松絞りは全国の百貨店・呉服店へと出荷される高級ブランド品。現在でも、宮中やNHKの大河ドラマでも使われている。伝統の力。浴衣用の反物が5万円～15万円（仕立代別）だそうだ。

少し、愛知県の鉄道の歴史を振り返ってみよう。東海道の宿場町として栄えた鳴海の町は、明治のはじめ、鉄道敷設に反対した。そのため、東海道線は海側の蒲郡～刈谷～大府を迂回するルートとなった。1886（明治19）年、知多半島にある武豊駅と熱田駅の間、中京圏初の鉄道が開業。翌年には熱田～大垣間が、1888（明治21）年には大府～浜松間が開業して、大府～武豊間は東海道線の支線となった（現武豊線）。東海道線が開業すると、東海道沿いの宿場町は一気に廃れてしまった。そこで、有松絞りの老舗有力者たちは愛知電気鉄道（現、名古屋鉄道）による神宮前～有松裏の鉄道敷設を強力に誘致・協力した。開業は1917（大正6）年だった（神宮前～吉田（豊橋）間の全通は1927（昭和3）年、岐阜～豊橋間全線がつながったのは戦時中の1944（昭和19）年だった）。



## 三行半

江戸時代の<sup>みくだりはん</sup>三行半は、夫が妻に出す離縁状で、離縁すること、その理由、再婚の許可を簡潔に書いた書状だ。当時の契約書や結婚の際に妻の実家に出す「娘もらいうけ状」の文章が7行だったため、離婚時にそれが半分に分かれるという意味で3行半にしたらしい。

しかし、三行半は夫が妻に一方向的に突きつけた三行と半分の去り状ではなかった。江戸時代の夫婦関係は契約関係でなかったため、社会倫理が働いており、媒酌人、親戚一同や向こう三軒両隣の人々が納得しない限り離婚できなかった。あえて強行すれば、当事者は社会制裁を加えられ、村八分状態になった。三行半は実は、女性の身分と権利を保障する声明書の側面があった。江戸時代は、社会常識を無視した行為を社会が許さなかった。

とはいえ、女性側から離縁を申し出ることはなかなかかなわなかった。神奈川県の東慶寺や群馬県の満徳寺といった“駆け込み寺(縁切り寺)”に駆け込み、理由を吟味してもらって夫に離縁状を出すように請求することが唯一、女性のできる行動だった。

## 縦長文化

日本古来の文化は、横よりも縦を重視する傾向がある。称して、縦長文化。文字は縦書き、封書も縦。習字は縦書きが大原則だ。着物の柄も縦方向に流れるものが多く、「筋」と呼ばれていた。江戸時代、粋な柄はだんぜん縦縞で、“横縞なんてのは野暮の骨頂”とされたらしい。横縞や格子柄が東南アジア方面から紹介され、広く普及したのは明治以降のことだ。昭和40年代以降、着物は晴れ着となり普段着として着られることは俄然少なくなってしまった。

ついでに、左右の比較も一言。日本では左が右より上にランクされる。左大臣は右大臣よりも上位だった。相撲の番付でも左側が「東」、右側が「西」で、当然、東の方が優位だ。地図の感覚だと、東西が逆なのだが……。左利きは右利きに比べて何かと器用だが、左利きの方が偉いという話はほとんど聞かない。

## 18歳の坂本龍馬と16歳の八百屋お七

18歳になる年の坂本龍馬(1836~1867年)は忙しかった。土佐藩の許可を得て江戸へ出た龍馬は、千葉定吉道場で北進一刀流の剣術修行に励んだ。江戸遊学のわずか1ヶ月後、浦賀沖へペリー率いる黒船が来航した(1853、嘉永6年6月)臨時招集された龍馬は、品川の土佐藩下屋敷の守備についた。衝撃を受けた龍馬は、同年12月、剣術修行の傍ら、当代の思想家、佐久間象山に弟子入り。砲術、漢学、蘭学を学ぶとともに、世界を知った。翌1854年(安政元年)、満18歳になった龍馬は、15ヶ月の江戸修行を終えて土佐に帰国した。当地の河田小龍を訪れ、国際情勢を学び、海運の重要性を教えられた。小龍は、単純な攘夷論を戒め、着実に国力を蓄える必要性を説いた。

幕末の当時、若者の情熱を受け止め、議論し、冷静に道を示す成熟した大人たちがいた。

天和2(1682)年、恋しい人に会いたいばかりに火付けの罪を犯した八百屋お七。裁きの場で南町奉行、甲斐庄正親がお七に優しく問うた。「小火といえども、付け火は重罪。極型で火あぶりだが、その方はまだ

15であったな？」お七の答えは、「もう 16 です。お宮参りの記録もございます。」結果的に、お七は火刑とならざるを得なかった。そう。江戸の日本では、数え 16 歳は大人と見なされた。

2015（平成 27）年 6 月、改正公選法が成立し、遅まきながら、18 歳選挙権が実現した。世界の 8 割以上で、選挙権は 18 歳で得られる。2007 年に 16 歳選挙権に引き下げられたオーストリアでは、中学校で「政治教育」が必須教科となっている。政治家を招いたディベートが行われるそうだ。

龍馬のように、自国や世界をみる 18 歳は、行動力も思慮も責任感もあるだろう。自らの理想を求めて行動できるはずである。その潜在能力を発揮できるように、千葉、佐久間、河田のようなしっかりとした大人が求められる。甲斐庄のような心優しさ・分別も必要である。

## 堪え忍び、祈る浦上キリシタン

1549 年、スペインイエズス会の宣教師、フランシスコ・ザビエルが薩摩（鹿児島）にキリスト教を伝えた。応仁の乱直後の混乱期にあつて、カトリックの教えと同時に伝えられた欧州からの武器・兵器が当時の戦国大名たちに魅力的だった。結果的に、多くのキリシタン大名が誕生した。織田信長は、南蛮貿易による経済効果と仏教に対する対抗勢力としての利用を目的に、大幅な布教拡大を認めた。

1587 年、豊臣秀吉はキリシタン禁令（伴天連追放令）を發布した。“神の御名において万民は平等である”とするカトリックの教えが不都合だったためである。しかし、南蛮貿易は公認されたことから、この政策は実質的に空洞化した。このころ上陸したフランシスコ会は南蛮貿易をちらつかせて強引な布教を行っていた。1596 年、サン・フェリペ号事件が勃発。態度を硬化させた秀吉は、1597 年、6 名の宣教師を含む 26 聖人の殉教を命じた。耳鼻をそがれた伴天連たちを大阪から長崎まで徒歩で移動させ、浦上からほど近い長崎市内（現西坂公園）で処刑した悪名高いキリシタン弾圧だった。

1598 年の秀吉の死後、徳川家と豊臣家の軍事的緊張が高まる中、キリシタン弾圧は一時的に弱まった。関ヶ原の合戦で、多くのキリシタン大名が味方した西軍が敗れると、キリシタン大名の発言力・政治力は著しく低下した。このころ来航したオランダは、宗教と経済を分離した施策を提案。家康にとって、政権獲得後の政情安定に魅力的であり、鎖国政策へと繋がった。江戸幕府は、1614 年に慶長禁教令、1916 年に元和禁教令を相次いで發布し、キリシタンへの宗教弾圧は苛烈を極めた。徳川家光が 3 代將軍の座についた 1623 年、「江戸の大殉教」が発生した。イエズス会神父を含む 50 名、ついで、女こども 37 名が辻の札刑場で処刑されたのである。弾圧は九州でとくに過酷であり、1637 年、キリシタンによる武装蜂起、島原の乱（天草四郎の乱）が発生した。1639 年には、ポルトガル船来航禁止令が發布され、鎖国状態は完成した。そして、キリシタンたちは「隠れキリシタン」として潜伏するようになっていった。

江戸期におけるキリシタン取り締まり（隠れキリシタン発見）の道具として、檀家制度、寺請制度が開始され、お寺が役所代わりになっていった。住民同士で互いにチェックさせ、内部告発を奨励する制度だった。日本の寺院の多くが「葬式仏教」施行者に成り下がってしまった理由の一つは、この役所化・権力化と努力しなくても檀家からお金がもらえる仕組みによるらしい。

天領である浦上を中心に、天草、五島、平戸、島原など九州各地で隠れキリシタンたちは、司祭なしの状況で営々と 7 代、250 年もの間、非常に正確に伴天連の教えを伝承していった。祈りの歌「オラシヨ」

(グレゴリオ聖歌の一種) も長く歌い継がれた。

浦上の地では、1790年、1842年、1856年の3回、浦上一番、二番、三番崩れと称されるキリシタン検挙事件が発生した。

幕末になり、開国後、長崎の地にフランスからの司祭が大浦天主堂が完成すると、その1ヶ月後、浦上の隠れキリシタンたちが「フランス寺」の司祭を訪問した。1865(平治2)年、欧米に名高い「信徒発見」であり、本年2015年(被爆70周年の年)が150周年にあたる。

祈りの場を得た浦上キリシタンが仏式葬儀をあげないことから禁令破りが発覚。その後、次々と発覚した浦上キリシタンを弾圧するため、1867(慶応3)年、ついに「浦上四番崩れ」が始まった。高木仙右衛門ら信徒68人が一斉に捕縛され、ひどい拷問を受けたのである。翌1968年7月、浦上キリシタンの中心人物計114人が津和野、萩、福山に流罪、幽閉された。厳しい拷問や飢餓状態によって多数が死亡した。弾圧側の中心人物は、沢宣嘉卿(長崎裁判所総督)、井上馨(外国事務係)だった。木戸孝允、大隈重信、大久保利通らの重鎮も弾圧を積極的に支持した。同年10月には明治新政府が成立(大政奉還)。旧幕府の方針を引き継いだ明治新政府は一段と強いキリシタン弾圧を行ったのである。

1870(明治2)年11月、今度は浦上村のキリシタン戸主700名、ひき続いて、女子供を含む村民全員を、名古屋以西の22の諸藩に預けるという世にも不思議な、徹底したキリシタン弾圧が行われた。「旅」に送られたのは約3,400名。金沢に500名、名古屋に300名など。計500名以上が拷問や飢餓や疫病で死亡したとされる。ちなみに、現在、名古屋、栄の男性牢獄跡、東別院の女性用牢獄は跡形もない。

激しい弾圧の理由は2つ。250年続いた異教に対する脅威の概念(思い込み)、それに新政府が採用した天皇(神道)中心主義。神仏分離政策が行われる中、多くの寺院が廃院となり、神社にある三重塔や五重塔が破壊された史上まれな文化財破壊行為が行われた時代である。寺請制度に代わる仕組みとして神社の「氏子制度」をつくったが、これは2年ほどで廃止となった。仏教の迫害が激しいくらいなので、キリスト教は絶対ダメという方針だった。

この間、欧米の使節たちは言われなき迫害に繰り返しくれームをつけ、宗教の自由を主張したが、日本の為政者たちは、原則、内政干渉と突っぱねていた。1868年5月の6時間にわたる英国公使パークス・大隈会談は、大隈重信(当時30歳)の出世のきっかけとなった。この会談の通訳はシーボルト。

1871(明治4)年11月より、アメリカ、イギリス、ベルギー、フランスなど列国を訪問した「岩倉使節団」(岩倉具視を大使、木戸孝允を副使とする欧米視察団)が、キリシタン弾圧政策が不平等条約の解消のネックになっていることを改めて思い知り、明治6年2月についに禁令を解くに至った。この際の中心的役割は、のちに宗教の自由を明治憲法に盛り込むことになる、伊藤博文が果たした。使節団訪問先のフランスから日本を守り、学制確立や廃藩置県に取り組む大隈重信や西郷隆盛に長い書簡を送ったのである。

解放された浦上キリシタンは、明治6年2月以降、2,000名あまりが帰村。先んじて、改宗に応じた約1,000名は明治5年に先に浦上に帰村していた。改宗したのは男性が多く、帰村後はとても居心地が悪く、すぐにキリシタンに戻ったようだ。帰村したキリシタンたちには厳しい生活が待っていた。住む家はなく、あるいはかろうじて残った家には家具がなく、さらに衣服も食料もなく、荒地にようやく育てた作物も台風で失うなどの苦労を重ねた。流行病の赤痢に倒れた人もいた。

浦上天主堂の信者たちは、毎年、山口県萩および島根県津和野にある殉教地を訪問している。2010年に

は、萩の埋葬地らしき休耕地を地主の許可を得て発掘し、2人の遺骨を掘り当てた。浦上キリシタンによる祈りの営みは長く引き継がれている。

浦上は昭和20年8月9日、原爆の爆心地となり、周辺に暮らしていた信者12,000人のうち8,500名が爆死した。今も浦上天主堂に残る被爆マリアは迫力がある。ちなみに、長崎医科大学（現、長崎大学医学部）も爆心地にあり、学生・教員の900名近くが爆死した（木造校舎で勉強中の1,2年生は全滅だった。医学部長も死亡）。浦上は本当にすさまじい聖地そのものといえる。

2014年8月10日（日）に、私たち（NPO法人びあサポートわかば会）は浦上天主堂において平和を祈るチャリティーコンサートを開催させていただいた。2015年8月16日（日）、2016年8月21日（日）にも浦上天主堂で祈りのコンサートを開催した。今後も毎年8月にコンサートを開催する予定である。筆者はクリスチャンではないが、それでも、被爆マリアへこころを込めたアヴェ・マリアを捧げることができたと信じている。

ちなみに、日本のキリシタンの歴史は、①フランシスコ・ザビエルに始まる布教の時代、②秀吉から家光に至る禁令の時代、③その後250年間の隠れキリシタンの時代、そして④明治期のキリシタン解放（法的自由は明治憲法で確立）の4期に分けられる。

## ペリー提督と小笠原諸島

米国ロードアイランド生まれの東インド艦隊司令長官マシュー・ペリーMatthew C. Perry (1794-1858) は、1853年（嘉永6年）7月8日、4隻の黒船（蒸気船）を東京湾浦賀沖に10日間投錨させた。7月14日には久里浜に上陸し、第13代アメリカ大統領ミラード・フィルモアの親書を浦賀奉行、戸田伊豆守氏、井戸石見守弘道に渡した。翌年2月13日に再訪したペリーは、3月3日に横浜において、下田と箱館の開港を記した日米和親条約（神奈川条約）を調印させた。4月14日には条約によって開かれた下田に、続いて5月17日には箱館に、6月7日には再び下田に寄港した。7月11日には琉球王国に立ち寄り、那覇条約を締結した。役目を終えたペリーは、香港で艦隊を降り、郵便船や汽車を乗り継いで、1855年1月にニューヨークに帰還した。そして、3年にわたる『アメリカ艦隊シナ近海および日本遠征記』の編纂作業を終えた3ヶ月に心臓死した。

実は、ペリーは浦賀来訪前に、琉球王国那覇（1853年5月26日）と小笠原父島の二見港（6月14日）に立ち寄っていた。そして、捕鯨基地としての小笠原諸島の重要性を主張し、小笠原の占領および米国領化を提言する書簡を残している。7月には、ロシアのプチャーチン提督が父島に寄港している。同じ頃、英国政府も小笠原の領有権を主張した（英国捕鯨船が母島に寄港したのは1823年）。米英が互いに牽制しあったため、小笠原は首尾よく欧米の植民地を免れた。それ以前の17～18世紀にも、スペイン船、オランダ船および英国のクック探検隊が小笠原を発見した記録を残している。

幕府が小笠原探検隊を派遣したのは、遭難ミカン船が母島に漂着した5年後の1675年（延宝3年）である。1785年には林子平が小笠原を無人島として紹介している。初の定住は英国人で1830年のことだった。日本が小笠原の占有を初めて主張したのは1861年（文久元年）、日本人入植は1862年に始まったが、生麦事件の影響でいったん1863年に撤回。明治9年（1876）、小笠原は正式に日本領となり、欧米系先住

民も日本所管を了承した。政府は正規の移民を開始するとともに、年 3 回の横浜～父島航路を開設した。その後、硫黄諸島、南鳥島への移住が開始され、1891 年（明治 24 年）と 1902 年（明治 35 年）にそれぞれ日本領が国際承認された。

終戦とともに小笠原～南鳥島は米軍に占領されたが、1968 年（昭和 43 年）に日本へ返還された。1972 年（昭和 47 年）には小笠原は国立公園化されている。さらに、2011 年（平成 23 年）には世界自然遺産（日本の第 4 件目）に登録された。

## 先島諸島を売り払おうとした明治新政府

江戸期の鎖国時代、幕府が長崎出島で交易していた外国は 4 つ。オランダ、中国、朝鮮、それと琉球王国。琉球王国は江戸の初期から薩摩藩に侵攻され、奄美群島（琉球王国に支配されたのは一時的）は、事実上、薩摩の直轄地としてサトウキビ栽培を強要されていた。家康は、薩摩藩による琉球の支配権を承認した。以降、琉球は薩摩藩の密貿易の拠点となっていく。嘉永 6（1853）年 7 月、浦賀沖に黒船（ミシシッピ号）で来航したペリー提督は、これに先立つ 5 月に琉球王国を、6 月に小笠原諸島をそれぞれ訪問していた。米国大統領のミッションに基づいて、ペリー提督はこれら島々を占有するつもりだったらしい。

明治新政府は、中央集権政策の一貫として、明治 2（1869）年から「廃藩置県」を押し進めた。明治 5（1872）年、大蔵大臣、井上馨は「琉球処分」（中山王府の廃止、外交禁止、藩王の華族化、藩王の上京）を建議した。このころ、新政府のトップは岩倉使節団として外遊しており、残った薩摩藩出身で、沖永良部島への島流しを経験していた西郷隆盛の影響力が強かった。明治 8（1875）年、使者、松田道之を首里城へ派遣。中国（清）への冊封（宗主国と朝貢国としての上下関係）の廃止、申告との絶交が正式に命じられた。明治 12（1879）年、新政府はしぶる首里城に軍隊・警察を派遣して、廃藩置県（沖縄藩を廃し、沖縄県を設置）を最終布告した。宗主国、清はこの動きに反発し、両国関係は悪化した。明治 13（1880）年、新政府は、「日清修好条規」への最恵国待遇条項の追加とともに、沖縄本島を日本領に、先島諸島（八重山諸島と宮古島）を清国領とする“先島諸島割譲案”を提案した。清国は、一度は仮調印したものの、結局、妥結に至らなかった。最終的な領有権問題の解決は、明治 27（1894）年の日清戦争後のことで、清・中華民国は、台湾とともに、先島諸島を含む沖縄県を日本領として正式に承認した。

もし、清国が日本政府の提案を一方的に反故にしなければ、先島諸島に人たちは、今ごろ、中国語をしゃべっていた可能性がある----

## 明治用水

愛知県は日本一の工業生産を誇るだけでなく、農業生産でも全国第 6 位である。農業を支え続ける原動力は、知多半島を木曾川の水で潤す愛知用水と、三河の台地を灌漑する明治用水である。

明治用水は西三河の安城地方（碧海台地）に農業用・工業用の水を供給する用水である。幕末から明治維新期に測量・開削が行われた近代農業用水であり、1880 年（明治 13 年）に開通すると、「明治」を冠

することが許されるほど高い評価を受けた。三河の地を流れ抜く矢作川から取水し、安城市、岡崎市、西尾市、刈谷市、知立市などに水を供給している。総長 88 キロに及ぶ 4 本の幹線と多くの支流 (342 キロ) よりなる。1889 年 (明治 22 年) に東海道線が開通し、翌年に安城駅ができると駅を中心に町が発展した。1901 年 (明治 34 年) には愛知県立農林学校 (現愛知県立安城農林高校) が開設された。大正時代になると、安城市が日本のデンマークとして教科書に記載されるほどになった。1971 年 (昭和 46 年) に矢作ダムが完成すると、農業用水のみならず、工業用水としても利用されるようになった。現在、その多くはパイプライン化されており、その流れをみることができない。

安城の地は、明治用水ができるまで”安城が原”と呼ばれ、いばらやアシが群生する荒地だった。「原」は水が乏しく、農業に適さない土地を意味する。あちこちに溜め池がつくられていたが、碧海台地はかつて、狐しか棲まない荒涼たる原野に近かった。もっぱら、薪や肥料としての下草を得る「入会地」として利用されていた。当然、農民の暮らしはとても厳しく、麦、稗、粟が主食だった。

明治用水は、江戸期の 1822 年、碧海郡和泉村 (現安城市和泉町) の豪農、都築弥厚によって計画された。1826 年には測量が完了した。翌年、開墾計画が「三河国碧海郡新開一件願書」として幕府勘定奉行に提出された。1833 年に幕府はこの計画を許可したが、この年都築は病没した。その後、しばらく計画は頓挫してしまった。1851 年、岡崎の庄屋、伊豫田与八郎は用排水計画を岡崎藩に提出したものの頓挫。維新後の 1872 年になって、伊豫田は額田県 (現愛知県東部) に再び計画を提案した。都築の計画を知った都築家所有の石井新田 (現安城市新田町) の開拓農民、岡本兵松は、1868 年、京都民政局に開墾計画を提出したが、行政区分の混乱から計画はたらい回しされた。1872 年、岡本は額田県あてに計画を再提出した。額田県庁の働きかけで伊豫田・岡本の 2 案は合併することとなり、この年、愛知県令あてに「用水路掘割溜池不毛地開拓再願書」が最終提出され、認可を受けた。

地元民の反対を押し切って、1879 年 (明治 12 年) 12 月、本流工事が開始され、翌 1880 年に上倉池までの本流 13 キロが通じた。都築の計画は 58 年をかけてついに実現した。同年、中井筋、東井筋が、翌年には西井筋も完成した。そしてこの年 (1881 年)、明治時代を代表する大工事と認められて「明治用水」と命名された。1885 年、安城市東栄町に明治川神社が建立され、都築、伊豫田、岡本らの用水建設功労者が祀られている。明治用水は、2016 年、国際灌漑排水委員会の灌漑施設遺産に登録された。

## 明治三陸地震

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災直後、被災者を励ます目的で、岩手県花巻市に生まれた宮沢賢治の”雨ニモマケズ”がしばしば朗読された。たとえば、kizuna311 のシリーズで俳優の渡辺謙が雨ニモマケズを朗読した。4 月 1 日に香港で行われた被災者支援のためのチャリティーイベントで、ジャッキー・チェンをはじめとする香港のスターたち 300 人が”雨ニモマケズ”を歌い上げ、ミュージックビデオが世界中に配信された。

実は、宮沢賢治は大地震に縁が深い。120 年前の 1896 年 (明治 29 年) 6 月 15 日 19 時 32 分 (賢治誕生の 2 ヶ月前)、明治三陸地震 (M8.5) が発生した。生後 5 日目の 8 月 31 日には直下型地震である陸羽地震 (M7.2) が秋田地方に発生 (死者 260 人)。そして、1933 年 (昭和 8 年) 3 月 3 日午前 2 時 30 分 (賢

治が 37 歳で亡くなる 6 ヶ月前)には昭和三陸地震 (M8.1) が発生した。

明治三陸地震は、三陸沖を震源地とするマグニチュード 8.5 の巨大地震であり、北海道から宮城県に至る範囲で夜間に大津波が襲来した。波の高さは 38 メートルに達した。死者は、岩手県を中心に 22,000 人に及び、家屋の流出・全壊が 11,700 戸、船舶被害は 7,000 隻に達した。犠牲者数は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を上回った。揺れが震度 2~3 程度と弱かったため津波を予測することが難しかったこと、津波が夜間に発生したこと、折しも日清戦争の戦勝祝賀行事と重なった地域があったことが被害の程度を大きくした。

こうした大惨事にもかかわらず、残念ながら効果的な防災対策がとられず、1933 年に発生した昭和三陸地震津波でも再度甚大な被害が発生した。30 メートルに及ぶ津波によって岩手県を中心に 1,500 人あまりが死亡した。そして、5 年半前の大津波。なんとと言っても重要な津波対策は、一刻も早く避難することにつきる。

## 高瀬川と西郷菊次郎

6 月、京都、高瀬川にはホテルが舞う。高瀬舟の通う高瀬川は、安楽死をメインテーマとした森鷗外の小説「高瀬舟」でも名高い。

高瀬川は、江戸時代のはじめ (1611 年)、京都中心部と伏見を結ぶ物資の輸送路として、角倉了以・素庵父子によって鴨川から水を引く形で造設された。小説「高瀬舟」にも描かれたように、高瀬川は流人を運ぶ護送する経路としても使われた。高瀬川が輸送路としての役目を終えたのは、明治期の大事業だった琵琶湖疎水の完成後、開設 300 年以上が経過した 1920 年 (大正 9 年) だった。

京都府知事だった北垣国道は、明治維新による東京遷都後に沈みきった京都に活力を取り戻すため、明治 18 年、琵琶湖疎水を計画した。難工事の末に明治 23 年 3 月に大津から鴨川合流点まで、明治 27 年 9 月に伏見まで第一疎水が完成した。その結果、京都の町に新しい工場が生まれ、明治 28 年には日本最初の路面電車が京都駅~伏見間を走った。その後、京都市民の水需要が急激に高まり、明治 41 年には第二疎水が着工された。第二疎水が完成したのは明治 45 年 3 月だった。水路延長は 7.4 キロに及んだ。第二疎水の指揮を執ったのは、第二代目京都市長の西郷菊次郎 (1861~1928 年) だった。京都市長に明治 37 年 (1904 年) に就任した菊次郎は、かの明治維新の英雄、西郷隆盛が奄美大島で設けた庶子長男である。17 歳の菊次郎は西南戦争で右足に銃創を負い、生涯義足をつけることとなった。京都市長としての菊次郎は、疎水で市民の飲料水を確保しただけでなく、水道事業と市電・幹線道路整備事業にも取り組み、京都近代化の礎を築いた。疎水は、現在でも水道用水のみならず、発電、灌漑、防火、工業用水など、多目的に利用されている。蹴上インクラインと南禅寺水路閣は国の史跡に指定されている。哲学の道のゲンジボタル生息地は京都市の文化財に登録されている。

菊次郎はこれ以前 (明治 28 年からの 5 年間)、当時日本領だった台湾の宜蘭県知事を務め、宜蘭河の反乱を防ぐ堤防 (西郷堤) の建築など、地元民のためのインフラ整備に最大限の努力を重ねていた。西郷堤は完成後 100 年以上が経過した現在も現役である。

菊次郎は 7 年あまり京都市長を務めたのちに鹿児島に戻り、さつま町の永野金山鉱業館長に就任した。従業員のこどもたちのために私費で武道館を建設し、3 年制の夜間学校も開設するなど、青少年に対する

文武両道教育に大きく貢献した。さつま町では毎年11月、西郷菊次郎顕彰剣道大会が開催されている。

現在、高瀬川には当時の運搬船が復元され、川面に浮いている。そして、その船上には小さな光が舞っている。台湾、京都、鹿児島と赴任先で実績を積み重ねた西郷菊次郎を蚩たちが愛でているのかも知れない。

## ちょんまげ

ちょんまげは、髷（まげ）の形がひらがなのくりかえし符号「一の字点（ちょん）ゝ」に似ていることに由来する。漢字の丁髷の「丁」は当て字。

ちょんまげは、兜をかぶったときに頭部が蒸れるのを防ぐために、前頭部を剃髪して月代（さかやき）をつくり、残りの髪を結った形。本来は髪の中の減った高齢者が結う小ぶりの髷を指した。力士の結う大銀杏は、厳密な意味ではちょんまげではないそうだ。

明治新政府が太政官命で「断髪令（散髪脱刀令）」を公布したのは明治4（1871）年8月9日だった。当時の太政官（だじょうかん）には、岩倉具視、三条実朝をはじめとする公家たちが名を連ねていた。幕末に西洋軍式の導入以来、髷を結わない風習が政府上層部を中心に広がりつつあった。断髪令は髷を禁止し、散髪を強制する訳でなかったが、一般庶民は激しく抵抗した。明治6年3月、敦賀県（現、福井県）で断髪令に反対する3万人が一揆を起こし、6人が騒乱罪で死刑になった。同月、明治天皇が散髪すると、一気に髪型の近代化が進んだ。明治22年2月、旧薩摩の島津忠義は髪を結ったまま、大日本帝国憲法発布式典に出席している。面白いことに、明治5年4月、東京府は「女子断髪禁止令」を出している。男性同様の短髪にする女性が増えてきたためらしい。

明治4年11月に横浜港から米国に向けて出発した「岩倉使節団」（使節46名、随員18名、9～16歳の留学生43名の総勢107名）では、副使の木戸孝幸孝允、山口尚芳、伊藤博文、大久保利通が断髪・洋装姿であるのに対して、太政官で正使の岩倉具視は髷を結び、和服を着用していた。米国各地で髷や服装をおもしろがられ、新聞で話題になったことを自覚した岩倉は、シカゴで断髪した。米国留学中の次男に「未開の国と侮りを受ける」と説得されたという。使節団は、欧米12カ国を訪問し、明治6年9月に横浜港に帰国した。一国政府のトップがこぞって2年近く長期外遊している間に、西郷隆盛、大隈重信を中心にした布陣で、明治天皇の散髪のほか、廃藩置県、学校制度、鉄道開業をはじめとするさまざまな重要政策が行われていた。征韓論も重要な国策テーマだった。

## あんパンと筑波山

パン屋の老舗は木村屋（現、木村屋総本店）。茨城県牛久生まれの初代当主、木村安兵衛は、明治2（1869）年に東京芝、日陰町（現在の新橋駅付近）に文英堂を創業。元士族の安兵衛は、次男の英三郎とともにあんパンを考案し、明治7（1874）年、木村屋は銀座へと進出した。

翌明治8年4月4日、花見のため向島の水戸藩下屋敷へ出向いた明治天皇に木村屋のあんパンが献上された。山岡鉄舟のとりはからいだった。こうして、宮内省御用達となった木村屋のあんパンの知名度は飛



躍的に高まった。洋食が市民に徐々に普及してきた明治 30（1897）年ごろには、和と洋を見事にブレンドしたあんパンは全国的にブレイクし、日に 10 万個以上売れたという。現在、4 月 4 日は「あんパンの日」に指定されている。

木村屋のあんパンは、パン酵母の代わりに、日本酒酵母を含む酒種（酒母）が使われている。酒まんじゅうの製法を見習った和菓子に近い製法を取り入れ、パンに馴染みの薄かった当時の日本人に親しまれるよう工夫された。中心のくぼみには、八重桜の花の塩漬けが飾られた。いわく、「酒種桜あんパン」。酒種パンは冷めても柔らかく、日保ちがよい。ほのかに日本酒の香りのするしっとりした生地が特徴である。2 代目木村英三郎の優れたアイデアだった。通常のイーストを使えば 5 時間で仕上がるあんパンも、酒種の場合は 30 時間を要するという。木村屋総本店では、創業 140 年の現在も、酒種による独自製法が守られている。

「西の富士、東の筑波」と称される茨城県のシンボル、筑波山と木村屋は切っても切り離せない関係にある。筑波山神社に安産祈願したところ、若き地元民安兵衛の願いがかなった。筑波山の 2 つの峰、男体山（標高 871 m）と女体山（標高 877 m）の山頂にある筑波山神社の賽銭箱は木村屋から寄贈されている。大切な酒種は筑波山の幸である。筑波山中腹の岩陰に炊いた酒米飯を置いて、山の酵母菌が舞い降りるのをじっと待つのだそうだ。

ジャムパンは木村屋 3 代目の儀四郎（初代の三男）が明治 33（1900）年に発明した。儀四郎が戦時携行食工場でビスケットにジャムを挟む作業をみて思いついたそうだ。クリームパンは新宿の中村屋が元祖である。シュークリームのおいしさに魅せられた創業者、相馬愛蔵が柏餅型のクリームパンを売り出したのは明治 37（1904）年のことだった。

日本の菓子パン御三家、あんパン、ジャムパン、クリームパンが誕生してすでに 100 年以上が経過している。古今東西おいしい食べ物が並ぶ中、ふと恋しくなる素朴な味。日本独特な食文化の代表。それが、歴史を積み重ねてきた菓子パンといえよう。

## 県名のなぞ

全国 47 都道府県のうち、県名と県庁所在地名が異なるのは 18。北から、北海道、岩手、宮城、群馬、栃木、茨城、埼玉、神奈川、山梨、石川、愛知、三重、滋賀、兵庫、島根、香川、愛媛、沖縄。これって、小学校の社会科のテストのヤマだった？

これらの地名の多くは、江戸期以前からある小さな郡（こおり）の名前だった場合が多い。愛知県の場合、仲のよくない尾張と三河が一緒になったので、その境界域にある「愛知郡」が県名に採用された。県名のうち、明治になって新たにつくられたのは、北海道、東京、静岡、そして愛媛の 4 つ。明治初期、廃藩置県に際して府県名として紛らわしい駿府に変わる新しい県名を中央新政府から求められた駿府藩庁は、現静岡市の中心部にある賤機山（しずはたやま）にちなんで、賤ヶ丘を選んだ。"賤しい"を"静か"に言い換えて登場したのが静岡だった。美人揃いの(?)伊予国が pretty girl となったのは、古事記に「伊予国は愛比売（えひめ）と謂ひ」とあることに由来する。

今の都府県の領域に相当する広域地方区分は「令政国」「旧分国」とよばれ、実に、奈良時代から江戸時

代まで 68 ヶ国が変わらず使われてきた。これら由緒正しき郷土は、いまだに地名・駅名として生き残る場合が少なくない。陸前高田、武蔵小杉、相模大野、尾張旭、三河安城、信濃大町、越後湯沢、伊予三島などなど。

明治 4 年の廃藩置県の立役者は、西郷隆盛。この年の終わり、明治新政府の重鎮の多くは、岩倉使節団として欧米への 1 年半にわたる長旅にでかけていた。明治新政府が地方権力を弱体化するために行った重要施策で、県令（県知事）は中央政府から派遣された。当初、原則として藩名を県名に置き換えたため、3 府 302 県が成立した。「県」は、その後合併に合併を重ねて、18 年後の明治 22（1889）年には、現在につながる 3 府 43 県 1 道へと再編された。北海道には、明治 15（1882）年に函館県、札幌県、根室県の 3 県が置かれたが、明治 19（1886）年に県を廃し、北海道庁ができた。ちなみに、現在の東京都三多摩地区は、もともと神奈川県だったが、明治 26（1893）年に東京府へ編入された。東京府と東京市を合併した東京都は、戦時中の昭和 18（1943）年に成立した。

実は、明治 14（1881）年には 3 府 34 県までに減っている。言い換えれば、明治期にいったん消滅した県があった。群馬県、富山県、福井県、奈良県、鳥取県、香川県、徳島県、佐賀県、宮崎県。それぞれ、熊谷県、石川県（富山と福井）、境県、島根県、愛媛県、高知県、長崎県、鹿児島県に含まれていた。各地域の涙ぐましい復活運動が実を結び、現在に至っている。

伊豆国は当初、小田原県の一部だった。仲のよい温泉町、神奈川県の湯河原町と静岡県熱海市が分離されてしまったのは明治 9（1876）年のことだった。平成の市町村大合併に際して、湯河原と熱海の合併話が持ち上がったが、県を超えた合併の壁はとても高かったようだ。広島県には府中が 2 つある。岡山県から編入された「備後国」の中心（現、府中市）と安芸国の中心（現、府中町）が併存するためである。淡路島（阿波への道）はもともと徳島藩に属していた。もともと淡路を仕切っていた稲田氏が北海道へ流された明治 3 年。淡路島は兵庫県に編入。翌年の廃藩置県では名東県（現、徳島県）に属した。最終的に明治 9 年に、神戸の港を擁する兵庫県に再編入されて決着した。鳥取県を豊岡県（播磨国：現、兵庫県の一部）に編入する案の代替策として、ときの内務卿、大久保利通の決断があったらしい。

## 緑の革命と稲塚権次郎

1960 年代、途上国の爆発的な人口増加に食糧増産が追いつかず、未曾有の食糧危機が懸念されていた。世界中の人々を危機から救ったのは、メキシコシティー郊外で育成された多収量の小麦の新品種だった。「緑の革命」と呼ばれている。この品種改良を主導した米国の農学者、ノーマン・ボーローグ氏は、1970 年にノーベル平和賞を受賞した。

実は、この革命には日本人農芸化学者の地道な努力なくしては実現しなかった。その人の名は稲塚権次郎（ごんじろう）。稲塚は 1897 年に富山県の貧しい農家に生まれ、1988 年に 91 歳で地元で没した。メキシコの奇跡の小麦は、稲塚が 1935 年（昭和 10 年）に育成した小麦農林 10 号（“ノーリン 10”）とメキシコの在来品種を交配することで品種改良されたのだ。実のつきのよいノーリン 10 は背丈が低いいため倒れない、日本農民のような品種だった。

東大農学部卒業後に稲塚は国の農業試験場に就職し、1920 年から 6 年間、秋田県大曲の陸羽支場に勤

務した。先輩、仁部富之助らの指導を受けた 20 代の稲塚は、水稻陸羽 132 号の育成に専従した。冷害に強く味のよい陸羽 132 号は、1929 年から 24 年間、東北地方の作付け第 1 位を記録した。かの宮沢賢治も激賞した陸羽 132 号は、現在でも特産品の賢治米として育成されている。稲塚はさらに 132 号を親株とする交配にも取り組み、水稻農林 1 号を開発した。水稻農林 1 号から、のちにコシヒカリ・ササニシキ・あきたこまちが改良された。

1926 年に岩手県立農事試験場に移った稲塚は、1929 年に小麦農林 1 号を開発し、1935 年の小麦ノーリン 10 の開発へとつながった。従来の小麦は人の肩の高さほどあったが、ノーリン 10 は 50 センチほどの背丈しかなく、大きな穂をつけて倒れにくかった。ノーリン 10 は小麦増産に大きく貢献し、1936 年には小麦の国内自給が達成された。

終戦直後の 1945 年 12 月、アメリカ人農学者の S.C.サーモンがノーリン 10 号の存在を知り、岩手農事試験場で収穫前のノーリン 10 を視察した。当時の米国の小麦は 15~20 センチ間隔で植えられていたのに対して、ノーリン 10 は 50 センチ間隔で植えられ、倒れることなく、たわわに実をつけていた。帰国したサーモンはノーリン 10 の種を米国の同僚農学者、O.A.フォーゲル博士に渡した。米国品種と交配してつくられた新品種”ゲインズ”が農家に配布され、各地に驚異的な収穫を得た。このゲインズ株がメキシコで小麦の品種改良に取り組んでいたポーローグ博士に渡し、緑の革命へとつながった。

稲塚は 1938 年に北京の華北産業科学研究所に赴任し、洪水・日照り・イナゴ被害で悩む華北農民のために、再び小麦の品種改良に努力した。稲塚は、戦後、乞われて北京に残り、農業指導を続けた。帰国したのは 1947 年（昭和 22 年）だった。

1981 年（昭和 56 年）、日本育種学会に 84 歳の稲塚と 67 歳のポーローグ博士が招かれて、講演とともに交流した。平成 2 年、ポーローグ博士は富山県城端町にある稲塚の生家を訪問し、2 年前に亡くなった稲塚を偲ぶ記念講演をした。

現在、富山県ではノーリン 10 を使った「権次郎そうめん」が人気である。ノーリン 10 題する映画が仲代達矢主演で演じられたのは 2015 年のことだった。稲塚の遠縁にあたる稲塚秀孝氏が監督を務めた。

緑の革命には大きな批判もある。開発されたハイブリッド品種は、化学肥料と農薬の大量使用を前提としていた。茎が太く短い株は根も小さく、化学肥料依存性が高かった。丈夫でよく繁った葉には虫が付きやすかった。こうした環境破壊に加えて、大がかりな灌漑施設が要求されたため、設備投資の難しい小作農家の切り捨て、富農と貧農の差別化につながった。

## 韓国、近くて遠い隣人

豊臣秀吉と伊藤博文。この 2 人の共通点は？と問われて、即答できる日本人はどれほどいるだろうか。同じ質問を韓国の人たちにしてみよう。多くの韓国人が、この 2 人の「悪者」の所業を正確に答えるだろう。さらに、李舜臣（イ・スンシン）と安重根（アン・ジュンクン）って誰？と問われて、答えられない韓国人はまずいないのに対して、正確に答えられる日本人はどれくらいだろうか。

「韓国の教科書の中の日本と日本人」（尹学順監修、筒井真樹子編訳、一光社、1989）を通読し、恐ろ

しいまでの“ズレ”を感じた。この本は、当時の韓国の国民学校（小学校）から高等学校までの教科書、いずれも文教部が刊行した国定教科書に記述されている日本と日本人に関する部分が訳出されている。日本に関する記述量が尋常でない。高校用国史の中の近代史では、「日帝」が韓国を植民地支配してゆく過程が克明に記述されている。日本の教科書では数行で終わっている部分が、延々と数十ページにわたって、まるで日本史物語を読んでいるかのようなようだ。

国民学校 4 年生用の国語教科書には、韓国のジャンヌ・ダルク、愛国学生の亀艦、弱冠 16 才で日本軍による拷問から死亡した柳寛順（ユ・クァンスン）が、5 年生用国語では、独立の英雄として広く敬愛される安重根義士が、それぞれ憎き敵「日帝」にどのように立ち向かい、全世界に向けて韓民族の独立精神の気迫をいかに示し、そして、結局どのような仕打ちを受けたのかが、わかりやすいハングルで詳述されている。寛順の言「日本は私を裁けない」。

1909 年（明治 42 年）10 月 26 日午前 9 時 30 分、満州国ハルビン駅一番線ホーム。安重根が至近距離から放った 6 発の銃弾に倒れた 68 歳の伊藤博文については、「わが国（韓国）を日本の植民地にするためにありとあらゆる策略をめぐらし、その結果、われわれの外交権を剥奪する乙巳（ウルサオ）保護条約を締結させた敵であった」と表現されている。明治憲法の草案者、初代内閣総理大臣、そして初代韓国統監として日韓併合の推進役を務め、かつて千円札を飾ったこの明治維新の雄は、韓国人にとっては、「日帝」の手先に過ぎないきわめて不愉快な存在である。一方、日本の高校で使われている文部省検定歴史教科書の多くで、この「韓国の一青年」、かの名高き「暗殺者」の名前をみつけだすことは難しい。

時代は遡る。14 世紀ごろから、朝鮮半島は殺人・掠奪を繰り返す和寇（日本の海賊）の侵略に悩まされていた。和寇に対抗するために、長年にわたり硝石・火薬作りの研究を続け、ついに 500 隻の和寇船団を黄海で撃退した崔茂宣（チェ・ムソン）は、4 年生の国語「偉大な人々」の 2 人目として登場する。16 世紀の終わり、明の征伐という口実で豊臣秀吉が派遣した日本軍は、火縄銃という新兵器で武装した陸戦において、韓半島を破竹の勢いで席捲・蹂躪した。そのとき、わずか 12 隻の装甲船「亀甲船（コブクソン）」を率いて、133 隻の木造船よりなる日本水軍の大船団を撃退し、それまでの陸戦での圧倒的な不利を断ち切った「偉大なる」李舜臣将軍に関する美談は、6 年生の国語の教科書を飾っている。明の滅亡と清朝の新興、徳川幕府の成立、そして、朝鮮国土の荒廃と国民の疲弊。東洋の三国を大きく揺さぶったこの大戦乱「壬辰倭乱（イムジン・ウェラン＝文禄の役）」について、韓国高校国史の教科書は次のように評価している。「東アジアの文化的後進国であった日本は、わが国から、活字、書籍、陶磁器、絵画などの文化財と人材を掠奪して行った。朝鮮の性理学（注：儒学の根拠をなす学問体系＝朱子学）が伝わって、日本文化の発展に大きな影響を与えた。」事実、壬辰倭乱は、当時「焼き物いくさ」とも呼ばれたし、有田焼、萩焼などは朝鮮から連行された多数の陶工たちとその子孫の作品が始まりである。

殉国の士、安重根が中国旅順の監獄で絞首刑となったのは 1910 年 3 月 26 日。日韓併合は同年 8 月 22 日。当時、旅順（関東州）は、ロシアに代わって日本が租借・管轄しており、旅順監獄はいわば植民地統治のシンボリック的存在だった。31 歳のこの若きインテリは、達筆で「一日読書せざれば、口中に荊棘（けいきょく）を生ず」と記した。この年の 10 月、石川啄木は、「地図の上、朝鮮国にくろぐろと墨を塗りつつ秋風を聞く」と詠んだ。大韓帝国の国号が抹殺され、国名なき日本の属国「朝鮮」、通称名「京城府」、を強制された不合理に対する悲憤を込めた詩である（斎藤充攻著「伊藤博文を撃った男．革命義士安重根の

原像」、時事通信社、1994)。啄木は、韓国でも民衆詩人として人気が高い。

知り合いの韓国人女性の話。韓国で悪名高い日本人は何といても秀吉と伊藤だが、征韓論を唱えた西郷隆盛や板垣退助、脱亜論（アジア民族劣等論）を展開した福沢諭吉といった錚々たる維新の要人・文化人の評判も芳しくない。再び、韓国の高校国史の教科書に登場願おう。「朝鮮は、長い間守ってきた鎖国政策を捨てて、1876年（明治9年）、日本と江華（カンファ）島条約、すなわち丙子（ピョンジャ）修好条約を締結した。しかし、侵略的意図をもって接近してきた日本と不平等条約を結び開港したことは、結果的に、列強が侵略しやすい道を開けてやったことになり、これ以後わが民族は、歴史上かつてない試練にさらされたのである。」このときの明治政府の首脳は、薩長出身の大久保利通、木戸孝允と公家出身の岩倉具視。われらの隣人が、小児期から国定教科書で繰り返し教育されている、その彼らの「常識」に関する日本人の無知——。

8月15日の蟬時雨と玉音放送。すべてを失ったうつろな暑い夏の晴れた空。それが、ほぼ固定化された「終戦記念日」に対する日本人の心象風景だ。しかし、英国や米国では、この日は日本に勝った日"VJ (Victory over Japan) day"であり（米国では時差の関係から8月14日）、韓国人にとっては、長く待ち望んだ日帝からの開放の日、すなわち独立記念日なのだ。この国民の祝日「光復（クァンボク）節」は、1940年9月に中国重慶で組織された抗日軍＝祖国開放軍に因んだ名称である。

## わんちゃんたちの受難史

江戸時代、町や村には犬たちが住み着き、住民がエサを与えてみんなでかわいがっていた。野良犬とはひと味違う「里犬」（町犬、村犬）だった。こどもたちと遊び、吠えて不審者の侵入を知らせてくれた、いわば、里の番犬だった。幕末に日本が開国すると、日本に滞在した外国人たちが多くの洋犬を連れてきた。かの黒船のマシュー・ペリー提督もタウゼント・ハリス公使も愛犬を同伴していた。人気となった洋犬たちは、これまでの日本の習慣と違って、個人で飼われていた。これが里犬の受難の始まりとなった。外国人たちにとって、犬は家族と同様に手厚く飼育するのが当然だった。

明治維新政府は、飼い主のいない犬が町をうろつくのは文明国家にふさわしくないとして「畜犬規則」を定め、飼犬を奨励した。飼い主の名札のない”無主の犬”は次々と殺処分されていった。明治維新は、犬にとってとても厳しい激動の時代となった。こうして里犬が減ると、在来の日本犬は絶滅の危機に陥った。現存する6種の日本犬はいずれも天然記念物として保護されている。（仁科邦男著「犬たちの明治維新、ポチの誕生」、草思社、2014）

当初、洋犬は「カメ」と呼ばれた。カムヒアとかカムインと声をかけられていたからだ。家で飼われるようになった犬の名前には”ポチ”が多かった。ポチの由来は、フランス人が小さい犬をプチ（petit）と呼んだためとも、”これぼっち”しかない小さい犬に対する愛称とも言われている。明治19（1886）年の小学校の国語教科書に、洋犬のイラストとともに、「ポチハ、スナホナイヌナリ」という文章が掲載され、ポチは広く犬の代名詞となっていった。♪裏の畑でポチが鳴く♪と歌う唱歌「花咲翁」（幼年唱歌初編下巻、明治43（1910）年）にも登場するようになった。同年の朝日新聞によると、犬の名前は多い順に、ポチ、ジョン、マルだった。

犬たちにとって、次の受難の時代は大東亜戦争だった。戦時中、「犬の戦時供出」が求められた。シェパード、ドーベルマン、エアデールの3種は軍用犬（軍犬）として“出征”した。帝国軍用犬協会が軍犬の軍への売却を仲介した。いっぽう、多くのペットは“毛皮供出”の対象となった。日本軍では、大正時代以降、犬の毛皮を防寒具として広く利用していた。多くの自治体に、野犬駆除、廃犬買い上げに始まる犬皮生産分業システムができあがった。その最大の利用者が軍隊だった。野犬やペットを自治体が殺処分し、皮革業界が製皮・集荷し、商工省が配給し、そして日本軍が利用した。実際には、商工省（軍需省）、厚生省、農林省、陸軍省と警察が通達・認可して、各自治体が飼い犬を飼い主から強奪した。「お国のために毛皮にしろ」。犬の「献納運動」の美名のもとに全国展開された“犬のジェノサイド”だったといえよう。

戦時中も保護対象だった秋田犬や土佐犬にも大いなる受難が降りかかった。秋田犬は、古く昭和6(1931)年には天然記念物に指定されていた。戦時中、日本は極端な食糧不足に陥っていた。大型犬である秋田犬はとてもひもじかったに違いない。かたくり粉や野菜だけを食べていた秋田犬はやせ細り、こどもを産めなかった。ジステンパーなどの伝染病にも弱かった。飼い主は、犬にエサをやるだけでも国賊呼ばわりされた。大型犬は人目をひく分、風当たりも強かった。大型洋犬であるシェパードとの交配も進み、血統保持が難しくなったという。終戦時、純血の秋田犬はわずか十数頭にすぎなかったそうだ。

## Victory Day

8月15日、日本と日本人にとってもの悲しい終戦記念日。この日は、韓国が日本の植民支配から開放された日（光復節）、すなわち、独立記念日でもある。時差の関係で一日遅れの米国では、8月14日が、通称、VJ（Victory over Japan）Dayと呼ばれる戦勝の日であり、終戦の翌年はほぼ全州が祝日だった。

驚くべきことに、戦後60年近くたった現在でも、この日、いやこの日を含む週（8月の第2週）の月曜日を公式の休日とする州が全米50州のうちたった一つある。ロードアイランド州。ブラウン大学のある東部の小さな州だ。この休日、Victory Dayが廃止される見通しはない。以前、Providence Journal-Bulletinという1829年創立の由緒ある地元紙の1995年8月14日づけの記事に目を通す機会があった。Victory Dayの意味を解説したEditorialとともに、“Fifty years later, the war isn't over for Japan”, “Why we should keep Victory Day”, “Holiday's name is a good reminder”と題されたcommentary<sup>3</sup>編が掲載されていた。

「Victory Dayは決してJapsやNipsを蔑視するracist holiday, VJ Dayではない。私たちは歴史を、そして平和の重要性を、後世に伝える義務がある。年に一度くらいは過去を振り返る日があってもよい。」

ロードアイランド州の多くの人びとにとって、この日は「朝寝坊できる日」であるに過ぎない。7月4日のIndependence Dayでさえ、「独立に関係した何かがあった日」程度の認識の国民が多いらしい。Memorial Day（5月の最終月曜日：戦死者追悼の日で、もともとは、ナポレオンの百日天下終焉を導いたワーテルローの戦い、1815年6月18日、の戦死者を1866年に追悼したのが始まり）やVeterans Day（11月11日：第一次大戦の休戦記念日＝1918年にドイツがコンピエーニュの森で降伏した日）も、米国のfederal holidaysである。考えてみれば、いずれも戦争に関係した記念日だ。

なぜ、一州だけが、という疑問は残るが、このVictory Dayの存続に関して、私たち外部者が口をはさむべきでないだろう。とりあえず、一般にあまり知られていない事実を記述しておきたい。Providence

Journal-Bulletin のコメンテーター諸氏が意図したように、あらためて歴史を振り返る絶好の機会が、他ならぬこの 8 月 15 日なのではないか。この日は、蟬時雨と照り返す太陽といったイメージが定着した私たちだけの「終戦記念日」ではない。世界の中の日本を意識する視点を忘れてはならないだろう。

ちなみに、5 月 9 日はロシア、ウクライナ、カザフスタンやフランスの祝日 Victory Day である。ナチドイツが降伏した日であり、第二次世界大戦で死亡した 2000 万人の名誉を称える日である。12 月 16 日は Bangladesh の独立記念日（勝利の日、1971 年）である。8 月 30 日はトルコの、12 月 23 日はエジプトの独立記念日 Victory Day だ。

(医学のあゆみ 175 : 750, 1995 を改変)

## 東条英機の遺骨

愛知県幡豆郡の三ヶ根山（さんがねさん）の山頂付近に「殉国七士廟」がある。ここに、第二次世界大戦後の連合軍 11 ヶ国による極東国際軍事裁判（東京裁判）で死刑判決を受けた東条英機（昭和 16 年 10 月～19 年 7 月、第 40 代内閣総理大臣）をはじめとする A 級戦犯の遺骨が納められている。GHQ 司令官マッカーサーは、遺体は言うまでもなく、遺骨も家族に渡さず、極秘のうちに処分・投棄する方針だった。A 級戦犯遺骨奪回計画は、小磯国昭大将の弁護人だった三文字正平によって進められた。決死のドラマだった。

東京裁判の開廷は昭和 21（1946）年 4 月 29 日（昭和陛下の誕生日）、絞首刑の判決は 2 年半後の昭和 23 年 11 月 12 日、処刑は皇太子の誕生日、12 月 23 日の早朝だった。巣鴨刑務所で処刑された 7 名は、土肥原賢二、松井石根、東条英機、武藤章、板垣征四郎、広田弘毅、木村兵太郎。火葬は横浜市の久保山火葬場で行われた。

当日の夜、久保山にある興禅寺の市川伊雄住職と火葬場長の飛田は協力して、米軍の厳重な監視の眼を盗み、7 名それぞれの遺骨の一部を骨壺へと回収することに成功した。しかし、隠した場所に密かに焚いた線香が原因で計画が露見し、梱包し搬出寸前だった遺骨は再び米軍に奪われてしまった。そして、遺骨は一つに混ぜ合わされ、鉄製の鉢の中で鉄棒を用いて骨を粉碎した上で、米兵が持ち去った。残った骨片は共同骨捨て場に投棄された。

残骨脱灰作戦は 12 月 25 日の夜に決行された。クリスマスで、米軍の監視の気がゆるんだ隙をつく作戦だった。漆黒の闇の中、市川住職、飛田火葬場長と三文字正平の 3 名は、頭から外套をかぶり、身をかがめつつ作業を始めた。暗がりの中で音を立てないように、根気よく手探りで遺骨を探し集めた。7 人の遺骨の一部は、大きな骨壺に一杯分集められた。まさに決死行だった。

火葬場から奪回された遺骨は、湿気をとるために再度焼かれた。骨壺には、三文字の甥で、上海戦線で戦死した三文字正輔の名前が書かれ、いったん興禅寺に預けられた。その後、伊豆山中の興亜観音に隠されたのち、昭和 35 年 8 月、三ヶ根山に「殉国七士廟」が建立された。「殉国七士廟」の書は、第 56・57 代総理大臣、岸信介による。

## 報道されなかった大災害

真珠湾攻撃の翌日、昭和 16 (1941) 年 12 月 8 日から、ラジオの天気予報が放送されなくなった（陸・海軍大臣による気象報道管制実施）。軍事機密として、中央気象台に送受信される気象情報はすべて暗号化された。そんな中、1942 年 8 月 27 日、発達した台風が長崎県に上陸し、山口県を中心に戦争中最大の被害をもたらした（死者 1,158 名）。戦後、ラジオの天気予報が東京で再開されたのは、1945 年 8 月 22 日のことだった。このころ、地方気象台の機能はまだ麻痺状態だった。9 月 17 日深夜～18 日未明、原爆投下で麻痺状態の広島地方を襲った“枕崎台風”は呉市を中心に 2,000 名を超える死者をだす巨大台風だった。さらに、10 月 10 日に鹿児島県阿久根地方に上陸した“阿久根台風”は、兵庫県に大被害（死者 200 名以上）をもたらした。

1943 年 12 月から 1945 年 9 月にかけて、北海道の有珠山麓を激しい地震と地殻変動が襲った。一日 60 センチのペースで地面が隆起し、麦畑が標高 398 メートルの山に変貌した。現在、国の特別天然記念物に指定されている昭和新山の誕生だった。農作物は全滅したが、幸い人的被害はなかった。国民の戦意低下を恐れ、災害情報は伏せられた。昭和新山の誕生を国民が知ったのは戦後のことだった。現在、昭和新山は支笏洞爺国立公園内に位置し、世界ジオパークにも指定されている。

1943 年から 1946 年にかけて 4 年連続で日本列島を襲った超巨大地震「戦中戦後の 4 大地震」もまた、ほとんど報道されなかった。

1943 年 9 月 10 日夕方、鳥取地方をマグニチュード 7.2、震度 6 の巨大地震が襲った（鳥取大震災）。鳥取市中心部では住宅の 7 割以上が全半壊した。古い町並みは失われ、死者は 1,083 名に達した。

1944 年 12 月 7 日午後 1 時過ぎ、三重県沿岸部にマグニチュード 8.0、震度 6 の昭和東南海地震による大津波が襲来した。地震発生 10 数分後のことで、多くの死者・行方不明者が避けられなかった。さらに、授業中の学校や軍需工場を中心に被害が広がり、死者総数は 1,223 人に達した。

そのわずか 37 日後の 1945 年 1 月 13 日午前 3 時、今度は内陸直下型の三河地震（マグニチュード 6.8、震度 7）が発生した（東南海地震の余震ともされる）。未明の発生だったため、死者は 2,652 名に達した。中部工業地帯の軍需産業の拠点が壊滅状態となり、敗戦を早めたとも言われている。この地震により、愛知県幸田町に延長 20 キロに及ぶ深溝（ふこうず）断層が出現した。

1946 年 12 月 21 日午前 4 時過ぎ、昭和南海地震（マグニチュード 8.1、震度 6）が発生した。紀伊半島から四国を中心に南海沿岸の広い範囲に被害が及んだ。4～6 メートルに及ぶ津波が襲来し、死者・行方不明者は 6,603 名に達した。徳島県や高知県ではあちこちで町が消失し、田畑は砂河原と化したという。和歌山県新宮では大火が発生し、高知市では地盤が 1 メートルほど沈下した。現在、高知県四万十市、徳島県海南町や牟岐町には南海大地震記念碑が建てられている。

## 原爆投下と報道規制

1945 年 8 月 6 日（月）午後 6 時の NHK ラジオ放送は、原爆投下の第一報としてこう伝えた。「8 月 6



日午前 8 時 20 分、B29 数機が広島に来襲、焼夷弾を投下したのち、逃走せり。被害状況は目下調査中。」

日本時間 7 日午前 1 時半過ぎ（原爆投下 16 時間後）、トルーマン米大統領がホワイトハウスで声明を発表。サンフランシスコ放送が、最初に英語で、続いて日本語で伝えた。「16 時間前、米国の航空機 1 機は日本の重要軍事基地、広島に 1 個の爆弾を投下した。その爆弾は TNT 火薬 2 万トンより強力で、戦争史上最大の爆弾たる英国のグランドスラムの 2000 倍以上の爆破力を有する。（中略）。これは原子爆弾である。宇宙に存在する基本的な力を利用したものである。太陽のエネルギー源になっている力が、極東の戦争をもたらしたものの者たちに対して放たれたのである。（中略）。日本政府が降伏しなければ、さらに原爆で攻撃すると警告している。」

7 日づけニューヨーク・タイムズは、「初の原子爆弾を日本に投下。トルーマン、敵に“破壊の雨”を降らすと警告」という見出しで 10 ページの大特集を組んだ。

7 日、軍部は、①敵の原子爆弾使用の声明は虚構の謀略宣伝かも知れない、②原子爆弾の報道は国民の心理に強い衝撃を与える、という理由で、真実の公表に反対した。

朝日新聞東京版は「広島へ敵新型爆弾。B29 少数機で来襲攻撃。相当の被害、詳細は目下調査中」と報道。「落下傘つき。空中で破裂。人道を無視する惨虐な新爆弾」として解説するも、“敵は新型爆弾使用開始とともに各種の誇大なる宣伝を行い、既にトルーマンのごときも新型爆弾使用に関する声明を発表しているが、これに迷うことなく各自はそれぞれの強い敵愾心をもって防空対策を強化せねばならぬ」と結んでいる。

8 日 17 時、NHK ラジオは「ソ連、対日宣戦を布告」を報道した。

9 日 14 時 45 分、「長崎市に新型爆弾。大型二機侵入・被害僅少」と西部軍管区司令部が発表した。

9 日 23 時 50 分に御前会議が開かれ、10 日午前 2 時に「天皇の国法上の地位を変更しないこと」を条件にポツダム宣言受諾を決定した。連合国への最終通達は 14 日 23 時だった。

10 日の毎日新聞大阪版、9 日に撮影した原爆写真 2 枚を初掲載。

11 日の朝日新聞・東京版に新聞紙上初めて「原子爆弾」の文字。

20 日になって、中国新聞が広島「被災」の写真を初掲載。読売報知は、「死傷 19 万超ゆ。広島・ナガサキ、原子爆弾の残虐」と報道。

23 日の毎日新聞。「世紀の恐怖・原子爆弾。残虐性更に暴露さる。傷も漸次悶死。今後 70 年間は生物の棲息不能。廢墟両市、戦争記念物に。」

30 日、マッカーサー元帥が厚木海軍飛行場に到着。

9 月 2 日、東京湾のミズーリ艦上でポツダム宣言受諾の調印式。正式な終戦となる。

5 日、マッカーサー元帥が「特派員が占領の急先鋒となるのは米軍の方針ではない」として外国人記者による自由な取材を禁止。海外向けのニュースは占領軍によって管理され、日本の同盟通信社が発信することとなった。

そしてまさにこの日、英国と米国で原爆直後の惨状が世界で初めて報道された。

「デイリー・エクスプレス」（ロンドン）に、オーストラリアのウィルフレッド・バーチェット記者の記事が掲載された。「広島では、最初の原子爆弾が都市を破壊し世界を驚かせた 30 日後も、“原爆病”としか言いようのない未知の理由によって、いまだに不可解かつ悲惨にも亡くなり続けている。」

「ニューヨーク・タイムズ」はウィリアム・ローレンス記者の記事を掲載した。「倒壊し瓦礫と化した広島。そこは8月6日、世界で初めて、宇宙そのものの力を利用した秘密兵器が破壊の動因として使用された。原子爆弾はいまだに日に100人の割合で殺している。」

6日、米政府は素早く隠蔽工作に動いた。被爆の実相を知られてしまったら、非人道的兵器を使用した責任を問われる。マンハッタン計画副責任者のトーマス・ファール准将が、東京・帝国ホテルでの連合国の海外特派員記者会見で次のような虚偽の声明を発表した。「広島・長崎では、死ぬべきものは死んでしまい、9月上旬現在において、原爆放射能のために苦しんでいる者は皆無である。」

19日、連合国軍総司令部（GHQ）が「プレスコード」（SCAPIN33）を発令。「公安を害する事項」「占領軍に対する破壊的な批判、不信や怨念を招く事項」の掲載を禁止した。以降、一切の原爆報道が禁止されてしまった。事実、この日「原爆使用と病院船攻撃は国際報違反であることは否定できない」という記事を掲載した朝日新聞にGHQは2日間の発行停止を課した。

以後、原爆関連記事は世界中で見事に激減した。真実を知らされなくなった米国民は、米国政府の原爆投下正当化論を信じ、核政策を支持した。この真実隠蔽策は、米ソの核兵器競争を明らかに助長した。真実が世界に伝わり、核廃絶の国際世論が正当性を得るまでに、実に長い長い時間が必要となってしまっている。

## 原爆に倒れた米兵

2016年5月、伊勢志摩サミットに際して来日した米国のオバマ大統領が、演説後に肩を抱き寄せた被爆者がいた。その人は、広島市の歴史研究家、森重昭さん（79歳）。森さんは8歳で被爆。1970年代以降40年にわたり、会社勤務の傍ら、日米の資料を分析、市民への聞き取りを重ねたのは、原爆で死亡した米兵たちのことだった。森さんは2008年8月、「原爆で死んだ米兵秘史」（光人社）を出版した（2016年10月、第64回菊池寛賞を受賞）。

死亡したのは撃墜された爆撃機の乗務員で、捕虜として広島に抑留されていた計12名の米兵たちだった。彼らは、1945年7月下旬の呉軍港攻撃の際に撃墜され落下傘降下し、広島市中心部の憲兵隊司令部に収容されていた（機長は東京へ送還されたため、被爆を免れた）。年齢は19歳から30歳。即死した人のほか、吐き気と痛みを苦しみながら13日後に亡くなった人もいた。森さんは米兵の遺族と交流を続けた。生き残った機長とは20年以上にわたって100通もの手紙を交換した。こうしたようすを米国人監督が撮った映画「ペーパー・ランタン（灯籠流し）」は2016年春に完成し、11月の広島国際映画祭に出品された。

米国政府は当初、この事実を認めようとしなかった。原爆で自国の兵士が犠牲となったとなれば、世論の批判が予想されたからだろう。被爆米兵の存在を米国政府が公式に認めたのは1983年だった。この記録映画を通じて、自国民を巻き込み、無差別に殺戮する原爆の非人道性について、国籍を問わず、改めてみつめなおしたい。

原爆投下の日、ドームそばの相生橋近くの電柱に針金でくくられていた米兵捕虜がいた。広島市が1971年に編纂した「広島原爆戦災史」に短い記述が残る。どうやら、市民になぶり殺されたらしい。被爆のため抵抗できなかったのかも知れない。

長崎でも捕虜の被爆が記録されている。長崎の連合兵捕虜収容所の1つは三菱の兵器工場の中に設置された。そして、8月9日の被爆によってオランダ人捕虜7人とイギリス人1人が死亡した。不思議なことに（奇跡的に）、米兵捕虜は1人も死亡しなかった。鬼塚英昭著「原爆の秘密（国内編）昭和天皇は知っていた」（成甲書房、2008）はこの奇跡の理由を探ろうとした。

1979年発行の「長崎の証言」には以下の記述がある。米国人捕虜、フィレディー・ティーフは22歳のときに長崎で被爆した。1942年にフィリピンで捕虜となったティーフたち200名は、1943年のはじめに福岡に輸送され、炭鉱で強制労働を強いられた。1945年8月1日、炭鉱の杭木を伐採するために4名が選ばれ長崎へと送られた。4名の捕虜のうち3名は被爆死し、生き残ったティーフは福岡の病院へ運ばれた。終戦後は故郷サンフランシスコで治療を受けて命をつないだ。

## 戦時災害保護法

「戦時災害保護法」は、太平洋戦争開戦の翌年（昭和17年）に制定された。軍人と一般国民とを区別せず、すべての戦時災害（空襲被災）者およびその家族・遺族を援護することがうたわれた。1938（昭和13）年の「国家総動員法」によって全国民を動員する総力戦体制を下支えする法律だった。この法律で、

大戦中、民間人（一般戦災者）が広く扶助の対象となった。支援は、昭和 17 年 4 月 18 日の B25 爆撃機 16 機による日本本土初空襲（「ドゥリットル空襲」）で初適用された。このとき、東京、川崎、横須賀、名古屋、四日市、神戸の街が空襲された。東京第一陸軍造兵廠との誤認により、東京、早稲田中学の学生 2 名が死亡、19 名が重軽傷を負い、さらに住宅 50 棟が崩壊した。

1946（昭和 21）年 9 月、GHQ が指示した非軍事化政策の一環で、戦時災害保護法は、軍人恩給、軍事扶助法とともに廃止された。戦争被害の救済は、生活困窮者に対する生活保護などの社会福祉制度によることが原則とされた。

1952（昭和 27）年に、政府は「戦傷病者戦没者遺族等援護法」を制定して、軍人軍属とその遺族に対する手厚い援護・補償を開始した。軍人は「国が徴用して国家のために武器を持って戦った」から国家補償が当然というのが政府の論理だった。同法は、1953 年に復活した軍人恩給精度で恩給対象からはずれた軍人軍属が救済対象となった。国家の命令に従った者に限って救済される仕組みである。民間犠牲者については、中国残留孤児などに限った救済措置がとられたが、空襲被害者は放置されてしまった。国民が国の主権者と定める平和憲法では、平和のもと、国民が平等に生きる権利を保障している。旧憲法下で「お国のための軍務に服した」者のみを援護する現行制度は、この憲法の理念に矛盾する。

1945 年 10 月 8 日、長崎市三ツ山に開設された被爆者救護所で治療を続けた永井隆博士の医療記録、原子爆弾救護報告書は次の一文で終わりを告げた。「法廷救護期間 2 ヶ月を経過し、ここに医療機関としての責任を果たして、吾が救護班は 10 月 8 日解散した。」この日、「戦時災害保護法」に基づいて市内に開設された救護所が一斉に閉鎖された。永井博士の救護所も撤収せざるを得なかった。法の適用期間の延長を、混乱中の政府は無慈悲にも打ち切った。医療支援を受けられなくなった被爆者たちは、放置されたままに冬を迎え、数多くが死亡していった。そう、地獄の長崎に 1946 年の正月はこなかったといえよう。

## 太平洋戦争後のレンバン島とシンガポール島における日本兵抑留

太平洋戦争の終戦時、海外にいた日本兵は 367 万人（陸軍 330 万人、海軍 37 万人）と推定されている。民間人 321 万人も各地に残されていた。総計 688 万人にのぼるこの膨大な数の「敗者の帰還」が必要となり、日本政府は、戦後、引き揚げ用の海軍艦艇の修理、新船の建造に直ちに着手した。そして、昭和 24 年末までに、9 割以上に当たる 625 万人が帰還できた。引き揚げは、当然、満州方面が優先された。

シンガポールをはじめとする南方戦線には、終戦になっても引き揚げ船はなかなか来なかった。南方で生き残った兵隊たちは、シンガポールに収容不可能だったために、戦後数ヶ月のうちに多くはレンバン島へ移送され、抑留された。レンバン島は、シンガポールの南南東 60 キロ、赤道直下に位置する無人島だった。南北 35 キロ、東西 20 キロのこの離島（面積 166 平方キロで、宮古島＝159 平方キロや小豆島＝153 平方キロとほぼ同じ大きさ）に 7 万人もの日本兵が抑留された。別名、「死の島」、レンバン島（“恋飯島”、マレー語ではレンバン＝窪地、水が漏れる場所を意味する）での生活は、言語に絶する原始生活だった。

兵隊たちは人跡未踏のこの島を焼き畑・開墾し、道路をつくった。肥料には、ホンダワラ（海草）やヒトデを腐らせて使った。タピオカ、甘藷、カボチャ、カンコンなどの収穫が頼りだった。海があるのに魚は捕れなかった。サソリが多く、動物はヘビとネズミしかいなかったが、たちまち兵隊たちの餌食となっ

た。英軍から食糧給付がようやく始まったのは、昭和 21 年 3 月ごろだった。昭和 21 年 6 月、飢えと病いとけがに苦しんだ日本兵たちは半年以上の抑留生活を終えて帰国した。ようやく待望の引き揚げ船が来たのだ。現在、レンバン島には日本人抑留記念碑が建てられている。

一方、シンガポール島にも数千人の日本兵が抑留された。対象者は、シンガポール占領作戦を担当した部隊が中心だった。昭和 17 年 2 月の日本軍によるシンガポール占領後、チャンギー刑務所が民間人および英国兵・オーストラリア兵の捕虜収容所となっていた。収容所では、約 850 名の英軍捕虜が抑留中に死亡した。泰緬（タイメン）鉄道（タイとビルマを結ぶ鉄道）の建設に動員されて命を落とした捕虜も少なくなかった。戦後になると、シンガポールで戦犯裁判があった。B 級、C 級戦犯の裁判が行われ、多くの日本人将校が当地で絞首刑になった。抑留された日本人兵士たちは、乏しい食事のもと、強制労働を強いられた。計 6 カ所の収容所に収容されていた日本兵は、海軍と陸軍の混成軍だった。記録上、延べ計 10 万人の投降日本兵が使役されたとされている。

シンガポールでの強制労働は、1 年半にも及んだ。道路工事、橋の修復、採石場の作業、兵器廠での兵器の手入れ、ガソリン缶の野積み作業、蒲鉾型倉庫の組み立て、戦死した英軍兵の墓を移す仕事もあった。

戦後の抑留に関して、シベリア抑留が悪名高いが、実際には南方でも、シンガポールをはじめ、インド、ビルマ（現ミャンマー）、マレー半島でも多くの日本兵が抑留と強制労働の憂き目に遭っていた。こうした各地には、日本人墓地がある。

## 痛恨の日・屈辱の日

昭和 26（1951）年 9 月 9 日の”菊の節句”は、何を隠そう、筆者がこの世に生を受けた日である。この日、米国サンフランシスコ市中心部に立つオペラハウスで、日本の首席全権を担う首相、吉田茂が、連合諸国との戦争状態の完全終結を告げる「講和条約」に署名した。米国時間で 9 月 8 日のことだった。翌年 1952 年 4 月 28 日に発効し、日本は本来の主権を回復するとともに、独立国としての歩みを始めた。1960 年 1 月 19 日にワシントン D.C.で締結された”新日米安保条約”への更新（同年 6 月 23 日発効）を経て、1960 年代の高度経済成長期を迎えるに至った。かつての軍事大国が経済大国として生まれ変わり、日本は世界の表舞台へと復帰した。

講和条約に署名した同じ日に、吉田茂はもう一つの条約を調印した。日米安全保障条約である。会場を質素なプレジディオ国立公園の下士官用クラブハウスの一室に移し、たった一人で調印式に臨んだ。他の同行者は欠席した。同行した池田勇人蔵相に「この条約はあまり評判がよくない。君の経歴に傷がつくといけないので、私だけが署名する」と伝えたそうだ。

2013 年 4 月 28 日、日本の主権回復と国際社会復帰 61 年目のこの日、「主権回復・国際社会復帰を記念する式典」が日本政府主催で開催された（同年 3 月 12 日に閣議決定）。会場は、東京・永田町の憲政記念館だった。政府は、全都道府県知事を式典へ招いた。知事 26 名が出席、21 府県は副知事などの代理者が出席した。「沖縄抜き」の式典だった。内閣官房長官、菅義偉による閉会の辞のあと、出席していた天皇・皇后が退席するとき、出席者の誰かが「天皇陛下万歳！」の声をあげた。安倍晋三首相らも 2 度目の「万歳」からは万歳を三唱した。天皇・皇后は立ち止まり、出席者に会釈しながら退席した。この日、第二次

安倍内閣は4月28日を「主権回復の日」と定めた（ただし、いまだ休日ではない）。

1952年4月28日は、サンフランシスコ講和条約と日米安全保障条約が発効した日であると同時に、連合軍最高司令官総司令部（GHQ）の撤退、日本と中華民国（台湾）の平和条約調印の日でもあった。

当時、冷戦による米ソ対立が深まる中、1950年6月25日に朝鮮戦争が勃発し、日本における米軍駐留基地の重要性が増していた。同年8月10日には警察予備隊（のちの陸上自衛隊）が創設された。講和条約発効後にも米軍が引き続き日本国内に駐留し続けることを可能としたのが日米安保条約の本質だった。そのために、基地として重要な、沖縄、奄美群島と小笠原諸島はアメリカ領として分断されてしまった。1960年12月に始まったベトナム戦争は15年間に及び、この間、沖縄の軍事基地は米軍にとって重要な役割を果たし続けた。

奄美群島が日本に復帰できたのは翌年1953年12月25日。1968年6月26日に小笠原諸島が復帰。沖縄返還は1972年5月15日まで待たねばならなかった。2015年現在、在日米軍基地（専用施設）の74%が沖縄県に集中し、沖縄県総面積の10%、沖縄本島の18%を米軍基地が占拠しているのが現状である。

戦後日本の始まりを象徴する4月28日を、奄美の奄美連合復帰対策委員会は「痛恨の日」として弔旗を掲げることを決めた。沖縄県祖国復帰協議会は、この日を県民にとっての「屈辱の日」と定めた。一方、東京都下の世界遺産、小笠原諸島は特別な宣言をしていない。政府の唱える「主権回復の日」は“奄美・沖縄抜き”の無神経な記念日といえよう。

ちなみに、1953年以降、韓国が武力行使によって竹島（韓国名、独島）を占拠し、以後実効支配を続けている。1957年には、ソ連国境警備隊が色丹島・歯舞諸島を占領、実効支配した。しかし、いずれにも日米安保条約による米軍の援助はなかった。当時の米軍にとって微妙な政治・戦略判断だったのだろう。現在、一時利用を含む米軍施設総面積の33%は実は北海道にあり、22%の沖縄よりも多い。ソ連軍による歯舞・色丹の占領の際、軍事的圧力になり得なかったことが、何とも残念である。

## ナイジェリアという国、イボという民族

ナイジェリア連邦共和国は、アフリカ西部に位置するイギリス連邦加盟国である。首都はアブジャ、最大の都市はラゴスである。1億7千万に人口を擁する大国で、乾燥地帯でイスラム教を信じる北部と、熱帯雨林地帯でキリスト教の広がった南部の落差・確執が無視できない。南東部のニジェール川デルタでは石油が豊富で、石油を巡る内紛が絶えない。

1472年、ポルトガル人がラゴスの街を建設して奴隷貿易の拠点とすることで、ナイジェリアの植民地化が始まった。17～19世紀を通じて、ヨーロッパの貿易商人たちはナイジェリアの海岸部を「奴隷海岸」と呼んだ。20世紀初頭、ナイジェリア全土が英領植民地となった。1960年、北部州・西部州・東部州の3地域の連邦制国家として独立した。250以上の部族が居住する多民族国家であり、北部のハウサ人、南西部のヨルバ人、南東部のイボ人が3大勢力である。前2者はイスラム教徒である。北部を拠点とするイスラム過激派組織「ボコ・ハラム」による内戦・テロが頻発している。2014年4月、ボルノ州のキリスト教系公立女子学校において、ボコ・ハラムにより276名に及ぶ女子生徒が拉致され、性的奴隷として売買された悲惨な事件は記憶に新しい。

ナイジェリア南東部に住むキリスト教徒、イボ族は戦う民族である。大航海時代、海岸沿いに住むイボ族は真っ先に奴隷狩りの標的にされた。やがてイボ族は奴隷商人と手を結び、北部での奴隷狩りを行うようになった。イギリスの植民地時代にキリスト教に改宗して英語教育が進んだため、イボ族は植民地官吏として優遇され、商人として国内各地に進出した。こうして、イボ族は他の民族から「黒い白人」と呼ばれ、対立を深めた。こうした歴史的な怨念から、独立後の主導権争いの中、1966年にイボ族襲撃事件が発生した。1967～1970年、イボ族を主体とした東部州がビアフラ共和国として分離・独立を宣言した。この内戦、ビアフラ戦争によってビアフラ地方が孤立し、食料・物資の供給が断たれたため、200万人にのぼる飢餓者が出た。飢餓に苦しむイボ族の子どもたちの映像が世界に大きな衝撃を与えた。

1803年5月、ビアフラ地方で犬のように奴隷として捕らえられ、船で荷揚げ“されたイボ族の男たち75人が、米国南部のジョージア州サヴァナの奴隷市場で競りにかけられた。イボ族の黒人は独立心が旺盛で、世話の焼ける奴隷として、ひとり100ドルという安値で売買されたらしい。セント・シモンズ島にある大農園に向かうべく、ヨーク号という帆船の甲板上で鎖でつながれていた男たちは、機をみて反乱を起こし、船を制圧した。奴隷商人たちをペンシルバニア州ダンバー川へと突き落とし、船を座礁させた。この場所は現在、イボ族の上陸地（Igbo landing）として知られている。奴隷となることを拒んだ彼らは、川の中を歩き続け、集団自殺をとげたという。

イボ族出身の敬虔なキリスト教徒、ベネット・オマル医師は、米国で法医学医師として活躍し、アメリカンフットボールのプロ選手にしばしば認められる「慢性外傷性脳症」を確立した人物として、米国で映画化された。有名なプロアメフト選手の多くが、引退後に徐々に性格が変わり、認知症状が進むのは、繰り返す頭部外傷（脳震盪）によって、大脳皮質に多数の老人斑が生じるためであることを明らかにした。ジーン・マリー・カラカスの著書「コンカッション（脳震盪）」（小学館、2016）を読んでほしい。

## バングラデシュという国

2016年6月、ラマダン（断食月）のさなか、バングラデシュの首都ダッカの高級飲食店が、過激派組織イスラム国（IS）によって襲撃された。人質となっていた20人が殺害された。紛争の芽を摘み、平和に貢献しようと真摯な支援活動を行っていた日本人7名も犠牲となった。どうやら、欧米への報復が襲撃の理由だったようだ。比較的警備の手薄な「ソフトターゲット」を狙った無差別テロだった。

バングラデシュの国旗は緑一色の背景に赤い丸。1971年12月の独立後、建国の父をされるムジブル・ラーマン初代大統領が日の丸を模して制定した。緑は豊かな大地、赤は昇りゆく太陽と独立のために流された血。パキスタンからの独立に際しては300万人にのぼる犠牲者がでた。西パキスタン政府による武力弾圧と反独立派のイスラム過激派組織による大量虐殺だった。さらに、1975年と81年にはクーデターで大統領が2代続けて暗殺された。1977年9月28日にはダッカで日本赤軍によるハイジャック事件も起きた。そして、その後もクーデターや政情不安が絶えない。

いっぽう、バングラデシュ（ベンガル人の国）を世界に先んじて独立国家として承認し、援助・支援を継続してきた日本に対して、国民は友好的だった。実際、ダッカの街角に立ってみると、多くの市民が日本語で話しかけてくる。多くの日本企業が進出し、経済成長を支え続けている。そんな親日国でのあまり

にも悲しい事件だった。

国土は日本の40%にすぎないが、人口は公称1億6千万人。ダッカの町を走り抜けるリキシャやオートリキシャの総数と同じく、実は人口2億人を超えるかもしれないとは知り合いのバングラ市民の言。こどもが多く、ダッカの町の印象は、とにかく若い！ベンガル川河口に近く、平坦な土地が広がる首都ならではのリキシャの群れと躍動力。単一民族単一言語の国。イスラムの教えから酒を飲まないため、飲み物の主役はいつも砂糖たっぷりのチャイ（紅茶）。というわけで、市民の体形はどうしても大きめ。糖尿病対策が国民の重要課題となっている。そう、かつての「アジア最貧国」は今や大きく変貌し、織物産業や薬剤関係を中心に経済成長が著しい。

しかし、国民の間の経済格差はあまりに大きい。2013年、ダッカ郊外で縫製工場に入る違法建築ビルが崩壊し、死者が1,000人を超えた。犠牲者の多くは、バングラの輸出の主力部隊として工場で働く貧しい女性たちだった。確かに、街には貧困層があふれている。バングラの「グラミン銀行」が2006年のノーベル平和賞を受賞した。農村の貧困者に少額を融資する”マイクロ・クレジット”。この仕組みが、高利貸しの毒牙から彼らを守ると同時に、女性の起業を助け、結果的に貧困と前向きに闘えるようになったと評価された。

そんな活気あふれる可能性を秘めた国で起きた無差別な殺戮行為によって、善意の日本人までが標的となってしまった今、今後支援をどう続けてゆくか、暗雲が漂いはじめている。

## 日本初の成人式

終戦直後の混乱と虚脱感が深刻だった昭和21年11月22日、当時の埼玉県蕨町（現蕨市）では、再結成されたばかりの青年団が20歳を迎えた青年たちの前途を祝す会を開催した。今こそ、青年が英知と力を結集し、祖国再建の先駆者として自覚をもって行動すべきときと激励した。復員者を温かく迎えるために、駅前にテントを張ったのがきっかけだった。食糧不足と住宅難が追い打ちをかける状況の中、テントに集まる復員者の表情は暗く沈んでいた。そして、若者の奮起を鼓舞するために、“青年祭”が提案された。

会場となった国民学校の校庭には、国民服やもんぺ姿の若者や一般町民が集まった。冒頭の成人式に引き続いて、野球大会や復員相談が催され、菓子も振る舞われたそうだ。

JR日豊本線の日向市駅から北西におよそ30kmの位置、国道327号線沿いに諸塚村がある。この村で、昭和22年4月3日、第1回諸塚村成人祭が開催された。敗戦によって失われた希望と誇りを取り戻すために、男子満20歳、女子満18歳の青年たちを集めて10日間の合宿をしながら、成人のための講座を行い、最終日には修了証書を手渡された。当時の村長、藤井長治郎氏が、村の乏しい予算を私費で補い、寄付集めにも奔走して実現した催しだった。

20歳の節目に決意と自覚を促すこうした式典の趣旨と意義は国に高く評価され、昭和23年7月、国民の祝日として「成人の日」が制定された。そして、昭和24年1月15日が、祝日法にもとづく初の成人の日となった。蕨市と諸塚村にはともに、成人式発祥の地の記念碑が建てられている。



## 祝祭日に国旗を掲げる習慣と横浜駅 3 代の歴史

米国では祝祭日に星条旗を掲げる習慣が広く根づいている。日本に比べて、国旗に対する愛着心が強い。日本でも、公共施設では祝祭日に日の丸を掲げるし、玄関先に日の丸を飾る家もあるだろう。その原点を探ってみたい。

明治 5(1872)年 5 月 7 日、横浜・品川間に最初の汽車(陸蒸気)が 35 分で走った。当時の「横浜ステーション」は現在の桜木町駅である。JR 桜木町駅構内(改札口手前の壁)には、初代鉄道建築師長だったエドモンド・モレルの肖像がある。近くには、鉄道発祥記念碑がある。当初、横浜・品川間はノンストップの運転だったが、6 月 5 日、途中の川崎駅と神奈川駅(現在の京浜急行線神奈川駅付近)が開設された。

同年 9 月 12 日、横浜・新橋間が開通し、汽車は 53 分で走った。この日、明治天皇が臨幸して開業式が盛大に挙行された。神奈川 権令、大江卓は、横浜の家々に日の丸と日の丸ちようちんを揚げさせた。金を使わずに祝う苦心の方略だった。これがなかなか好評で、祝祭日に国旗を掲げることが正式採用になったという。

明治 22(1889)年、東海道本線が全通した。列車は神奈川駅から横浜駅に入り、そこで蒸気機関車をつけかえて同じ線路を程ヶ谷(保土ヶ谷)駅まで向かわねばならず、大変非効率的だった。明治 27(1894)年に神奈川と程ヶ谷を結ぶ短絡線が敷設され、明治 33(1901)年にはその間に平沼駅が開設された。明治 41(1908)年、横浜線が開通し、神奈川駅の東 1 km の位置に東神奈川駅が開業した。大正 4(1915)年 8 月、現在の高島町にレンガ造りの第 2 代横浜駅が建築され、従来の横浜駅は桜木町駅と名を変えた。昭和 3(1928)年 9 月には、現在の横浜駅の位置に鉄筋コンクリートの近代的駅舎が完成した。それに伴って、新装横浜駅から 1 km しか離れていない神奈川駅は 56 年の歴史を閉じた。東京方面から横浜駅に列車が到着する直前で道路が湾曲している場所が神奈川駅の跡地で、現在、線路脇に碑が残されているそうだ。

今日、大ショッピング街となっている西口一体は、第 3 代目横浜駅開業後も長く砂利・材木置き場だった。敗戦後米軍に接收された西口一帯が昭和 27(1952)年に変換され、ようやく昭和 30 年代になって本格的な開発が行われた。

「浜っ子」である昭和 26 年生まれの著者が子供のころ、横浜駅は確かにいつでも工事中だった。高島町の海側(現在のみなとみらい地区)の国道 1 号線沿いには、蒸気機関車の方向を変えるためのターンテーブル舎があったことをよく覚えている。そういえば、亡くなった祖父が以前何気なく漏らした言葉が懐かしい。大正時代の話だ。「おれが若かりしころ、横浜駅西口の辺りの土地を買わないかという話があったんだが、あんな草ぼうぼうの野っ原をだれが買うものか! といって断ったことがある。」やれやれ。

## 神奈川と横浜の関係

神奈川と横浜の関係をちょっと説明しよう。安政 5(1858)年、井伊直弼(なおすけ)が強行した日米修好通商条約では、神奈川を開港するとある。しかし、当時、攘夷熱が高まる中、宿場町・港町として賑わっていた神奈川(現在の東神奈川駅と横浜駅の間あたり)では外国人とのトラブルが心配された。

勝海舟の門人、佐藤政養(せいよう)は東海道を外れたひなびた漁村、横浜村を強く推薦した。1859 年、開港と同時に横浜に 2 つの栈橋がつくられ、外国商館はすべて横浜へ移った。1860 年には掘割工事が行わ

れ、みなと横浜は長崎の出島風に変えられた。おかげで、神奈川はもぬけのからとなってしまったという。一方、JR 横浜線（現在、JR に珍しい黒字路線）は、八王子に集まる生糸を東神奈川の埠頭に運ぶために、明治 41（1909）年 9 月に単線路線として敷設された。明治 44 年には、埠頭（“海神奈川”）まで臨港貨物線（昭和 34 年に廃止）が延長された。こうして、神奈川の機能は東神奈川へと移っていった。

著者は横浜出身の生粋の“浜っ子”なのです。ちょっとばかりローカルな話題で失礼。

## 万博の歴史

2005 年の 3～9 月までの期間、愛知県の長久手と瀬戸で開催されている愛・地球博（2005 年日本国際博覧会）には、“自然の叡智”をメインテーマに、過去最高の 120 ヶ国以上が参加している。日本では、高度成長期真っ只中の 1970 年、大阪万博以来の開催である。1851 年にロンドンで始まった万博の 150 年の歴史を振り返ってみよう。

最初の 50 年はモノや珍品奇品の博覧会、次の 50 年はお国自慢の博覧会、その次の 50 年は最先端技術を披露する企業の博覧会だった。ニューヨークの港に立つ「自由の女神」の建設資金は 1876 年のフィラデルフィア万博と 1878 年のパリ万博での部分展示が功を奏したそう。完成は 1886 年だった。1889 年のパリ万博では、当時世界一の鉄塔、エッフェル塔が登場、1893 年のシカゴ万博では世界初の大観覧車や動く歩道が登場した。

近代オリンピックを創設したクーベルタン男爵は無類の万博好きで、1889 年のパリ万博への参加を通じて「運動博覧会」を開催したいと思ったそう。第 1 回オリンピックは 1896 年にアテネで開催された。1900 年～1908 年の第 2～4 回オリンピックは万博の中のイベントとして開催された。オリンピックの金、銀、銅のメダル制度は、当時の万博の制度が流用された。

万博でメダルとすることで評判が確立されたブランドに、ルイ・ヴィトン、エルメス、ティファニー、バカラがあげられる。現代人に身近な飲み物や食べ物も万博の産物が結構ある。1876 年のフィラデルフィア万博ではクリームソーダやポップコーン、1904 年のセントルイス万博ではホットドッグ、ハンバーガーやアイスティアーが登場した。アイスクリームコーンは万博会場でのアイスクリーム容器不足が生み出した副産物だった。ワッフルを売っていた人がワッフルを薄く焼いてアイスクリームの容器に流用したことが大評判になったという。今にひきつぐ昔の物語だ。

## 三大太郎

三大太郎と称せられる人物を紹介しよう。桂太郎、岡本太郎、武見太郎の 3 氏だ。

桂太郎（1848～1913）は長州藩出身の軍人・政治家で、拓殖大学の創始者でもある。第 2 代台湾総督、陸軍大臣を経て、1901 年、第 11 代内閣総理大臣となり、日露戦争を乗り切った。その後、さらに 2 回の軍事政権を組閣した。第三次内閣での尾崎行雄（東京市長、衆議院議員、「憲政の神様」）の弾劾演説は有名である。明治 44 年に明治天皇の「済生勅語」で提案された済生会中央病院の建設（大正 4 年 12 月、初代院長＝北里柴三郎）に際しては、全国から多額の寄付を集めた。

岡本太郎（1911～1996）は、絵を描き、彫刻と格闘し、万国博の「太陽の塔」をはじめ巨大なモニュメントや壁画を創作した現代美術家である。2003 年 9 月に、行方不明だった縦 5.5 m、30 m の巨大絵画「明

日の神話」がメキシコで発見されて話題となった。表参道に「岡本太郎記念館」、川崎に「岡本太郎美術館」がある。

武見太郎（1904～1983）は慶応大学医学部卒の内科医で、昭和14年に開業した銀座の診療所のドアに「急病人、80歳以上の老人、現職の国務大臣は優先、謝礼は随意」とはり紙した。昭和32～57年まで日本医師会長として、医療界のドンといわれた。開業医の全国一斉休診や保険医総辞退などの先述により医師優遇税制を獲得した。健康診断の重要性を強調した武見だったが、自身は検診を受けず、80歳で進行胃癌にて死亡した。嫡男で参議院議員の武見敬三氏は著者の同級生である。

## 夫婦別姓の歴史

日本で庶民が苗字（名字）を名乗るようになったのは明治以降である。それ以前は、武士と公家以外（農工商）は原則として許されなかった。ただし、紀伊国屋文左衛門、高田屋嘉兵衛や大黒屋光太夫など、江戸期の商人はしばしば屋号を苗字代わりに使っていた。

明治政府は、明治8年（1875年）に「平民苗字必称令」（太政官布告）を出して、苗字を名乗ることを義務化した。姓の多く（85%）は地名由来なのは、こうした事情による（相談された名主や住職はさぞかし困ったに違いない）。現在でも、住民の多くが加藤姓だったり、黒岩姓を名乗る集落が少なからずある。明治政府はこのとき同時に「父子兄弟姉妹は同一苗字たるべし」とも布告した。ここには「妻」も「母」もない。当時、石川県が夫婦の苗字の扱いを政府に問い合わせている。明治9年3月17日、太政官は、古来の慣習に則って答えた。「婦女、人に嫁するも、なお所生（実家）の氏を用ゆべきこと。」つまり、夫婦別姓である。明治31年（1898年）に明治民法が公布・成立し、欧米式家父長制度に準じた夫婦同姓が法制化された。たかだか、120年前のできごとである。明治民法では、夫婦の姓に関する直接の規定をおかず、「家」制度を採用して、夫婦ともに「家」の氏を称すべきとした。

現在、夫婦同姓を法律で定めている先進国は日本だけである。2015年12月16日、夫婦同姓を定める民法の規定について、最高裁は憲法違反ではないと判断した。男女間の形式的な不平等はないとの見解に基づいている。96%が夫の姓を名乗っているのは現実である。少なくとも、夫婦同姓が「伝統」であると言えないことだけは間違いない。

ちなみに、ミャンマーの国民の大部分は今でも苗字をもたない。アウンサンスーチーさんのアウンサンは親の名前であり、姓ではない（ミャンマーの親は自分の名前の一部を入れ込んで子どもを命名することが多い）。名前しかないので、結婚して姓が変わることもない。アウンサン・スーチーという「・」を用いる表記は誤りともいえる。ユニークなのは、生まれた曜日をあらわす文字を子どもの名前の頭文字に使う点にある。たとえば、ア行なら日曜日、ガ行ないしガ行なら月曜日、サ行ないしザ行なら火曜日といった具合。だから、スーチーさんのお父さんは日曜日生まれ、スーチーさん自身は火曜日生まれとなる。知り合いのカインさんは月曜日生まれといえる。なお、ミャンマーの曜日は、水曜日を午前と午後とに分けるため、7つではなく計8種類となるのが特徴。そのうえ、ミャンマー人は複数の名前をもつ人が多い。江戸期の日本の武士のように、年齢に応じて改名するのが普通だからだ。通常、学校へ通うようになると新しい名前がつけられるそうだ。ビルマ語で名前は「ナメー」。日本語の「なまえ」、英語の「name」との

語感的な共通性が強い。

## 年賀状の歴史

「年賀の書状」は奈良・平安の時代から貴族の間にある程度広まっていた。戦国期には駅伝・飛脚制度が確立しはじめ、徳川家康を筆頭とする戦国大名の書いた賀状が数多く残されている。江戸期には、識字率の高かった庶民たちが町飛脚を利用して、賀状を出していた。

明治3年(1870年)、旧幕臣の前島密は明治新政府に郵便事業の整備を提案した。英国における郵便事業を視察した前島は、帰国後に本格的に郵便事業に取り組んだ。明治5年には全国に渡るネットワークを構築し、翌明治6年には全国一律料金の郵便制度ができあがった。そして、郵便局や郵便ポストが全国に普及していった。この年、「郵便はがき」が発行された。明治18年(1885年)には逓信省が設立された。

ちなみに、「郵便」、「切手」、「葉書」はいずれも前島の造語である。また、前島の墓のある三浦半島西海岸の浄楽寺は、郵政民営化を断行した小泉純一郎氏の選挙区にある。

明治5年の12月はたった2日間だけで、明治5年12月3日が明治6年1月1日となった。明治新政府が、旧暦(太陰暦)を欧米にあわせた太陽暦に変更したためだった。しかも、変更通知はわずか1ヶ月前。当然、この年はたとえ出そうと思っても、年賀状はどうてい間に合わなかっただろう。幻の12月3日はカレンダーの日に指定されている。

郵便制度の普及に伴って、明治20年ごろまでには、年賀状を出すことが国民の間に普及していった。明治32年(1899年)には「年賀郵便」の郵便局での特別扱いが始まり、年末に投函された年賀状の消印はすべて1月1日とされた。明治40年(1907年)には「年賀」と表示すれば、賀状の郵便ポストへの投函が可能となった。その後、年賀状の枚数は激増し、私製はがきに年賀切手を貼れるようになった昭和10年ころにピークを迎えた。

その後、戦時体制による物資不足が影響して、年賀状は減っていった。昭和15年(1940年)には年賀郵便の特別扱いは中止され、昭和16年以降は賀状の自粛が呼びかけられ、昭和20年(1945年)の正月には年賀状はどの家庭にも届かなかった。

昭和21年の正月には郵便制度が復活していないため、賀状はみかけなかったが、翌年には戦後の生存確認の意味合いをもつ年賀状が復活しだした。年賀郵便の特別扱いが復活したのは、戦後の本格的な復興ムード漂う昭和23年(1948年)のことだった。翌昭和24年にはお年玉つき官製年賀はがきが初登場した。これは京都在住の民間人、林正治氏(当時42歳)の郵政省への提案がきっかけだった。年賀状の復活を願い、年賀状に賞品のあたりくじをつけ、料金に寄付金を付加して社会福祉に貢献するという優れたアイデアだった。これが戦後復興を求める国民に広く受け入れられ、新年の祝賀を思う日本の伝統的な文化が復活した。ちなみに、当初の特等賞はミシンだった。ちなみに、平成に入ってからあたりくじは、海外旅行、最新式テレビ、パソコンなど数点の中から選ぶ方式になっている。

京都新聞の2016年12月15日の「凡語」に知られざる裏話が載っている。昭和24年12月に発行された世界初のくじつきはがきは、実はこの年ほとんど売れなかった。提案者の林氏は制度の廃止を恐れて、土地を売った費用で大量の売れ残りを引き受けた。幸い、翌年から人気が出て制度は存続した。林家には

年賀はがきが山積みになっていたらしい。

昭和 30 年（1955 年）には米軍占領下の沖縄でも年賀はがきが発行された。昭和 36 年（1961 年）には年賀郵便の消印が省略されるようになった。昭和 43 年（1968 年）には郵便番号制度が導入された。平成元年（1989 年）にはくじつき年賀切手が発行された。インターネットの普及に伴って、年賀郵便は平成 9 年（1997 年）の 37 億通をピークに微減傾向にある。

## 安全神話

1986 年 1 月 28 日、アメリカ合衆国のスペース・シャトル「チャレンジャー号」が射ちあげられ、わずか 73 秒後に分解して、7 名の乗組員が全員死亡した。胴体に光が走るやいなや粉々になって空の藻屑と消えた。あの事故から 30 年が経過した。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の直後に発生した福島第一原発事故からは、はや 5 年。

いずれにも共通するのは、「安全神話」にすぎない姿勢。”自分たちに都合のよいデータを用い、科学を軽んじて政策を押し通す”上層部の姿勢。

1965 年のノーベル物理学賞受賞者、米国の理論物理学者、リチャード・ファインマン氏は、チャレンジャー爆発事故の調査委員を務めた。著書「困ります、ファインマンさん」で、当時の NASA 高官の安全神話信仰を指摘している。彼は一線の技術者から聞き取りをした。委員会のスケジュールに従わない調査スタイルは、ウィリアム・ロジャース調査委員長を困らせ、「ファインマンは悩みの種だ」とまで言わせたようだ。そして、次のような事実をつかんだ。失敗の確率が高まっていることを上層部は聞き入れず、甘く見た。打ち上げ責任者に安全率に関する決定的な誤解があった。部品の冷える寒い朝に打ち上げるのは危険なのに打ち上げを決行した。

人は誤るもの、それを補うのが科学のはずである。良識と権力を隔てる溝の大小は大きすぎる。

## セラード

ブラジルの中西部にセラードと称される原野が広がる。かつて”不毛の地”とされていたこの地方は今や世界有数の大豆の生産地となっている。日本の大豆輸入は、米国とブラジルに頼っているのが現状である。

1974 年、セラード開発に国際協力を申し出たのは、当時の首相、田中角栄だった。その前年、不作を理由に米国が大豆の禁輸措置に踏み切ったために、日本の醤油や味噌が高騰した。田中は食糧確保の多核化をねらった。実は、田中は大豆の醤油好きだった。すきやきに醤油と砂糖をたっぷり入れた濃厚な味を好んだ。雪深い新潟の山村で育ち、戦後復興の中で、高等小学校出からの裸一貫で首相にまでのぼりつめた男の”夢の食生活”の象徴が醤油、そして大豆だったのかも知れない。

「戦後最大の疑獄」ロッキード事件から 40 年。没後 20 年になる田中角栄元首相は、人心をつかみ、官僚を巧みに使った手計に優れた政治家だった。30 本以上の議員立法を成し遂げた衆議院議員でもあった。田中語録に彼の官僚との接し方が記されている。「手柄はすべて与えてやれ。泥は当方がかぶる。叱るとき

はサシでしろ。褒めるときは大勢の前で褒めてやれ。」偉ぶることなく、誰にでも胸襟を開く。かゆいところに手が届く気配り。現在の政治家たちにぜひ真似てほしい手腕といえそうだ。

## 家族殺人

インド北部の山間部では、結婚持参金が少ないというだけの理由で、嫁が殺される事件があとを絶たない。2012年の統計で、実に8233件が記録されている。最近では、家族の意向に反して異なるカーストの男性と結婚した女性を兄弟が焼き殺した事件がインドで報じられた。

2010年3月、筆者はインド北部のウッタラカンド州デラドゥン県のヴィカスナガール地区を訪問した。この地方の女性たちの多くは10代で結婚する。学校教育は乏しく、家庭内で水をくむ、薪を集める、牛糞をこねるといった重労働はすべて若い女性たちのしごと。食事は父親、息子、妻の食べたあとの残り物。当然のように、多くの女性たちは貧血を患っている。月経痛に悩む女性がとても多い。彼らの楽しみを訊くと、掃除、洗濯、炊事。重労働でないかららしい。家族殺人は、こうした女性蔑視が根付いている地方でのできごとなのだ。

パキスタンでも、2016年6月、家族が認めない結婚をしたとして17歳の娘を焼き殺した母親と母親を手伝った息子が逮捕された。母親は容疑を認めているが、「後悔していない」と話しているそうだ。

親族の名誉を汚したという理由で身内を殺害するこうした「名誉殺人」は南アジアを中心に頻発している。パキスタンで起きた名誉殺人は優に年間1,000件を超える事件の氷山の一角に過ぎないらしい。現行法で名誉殺人は禁止されているものの、社会通念上、名誉を重んじる行為として容認されているからだという。

日本でも、江戸時代の侍には「恥の文化」があった。面目を保つための自害は、本人だけでなく、家族を巻き込むこともあった。「敵討ち」も公式に容認されていた。終戦間際の一般市民を巻き込んだ集団自殺も「侍の心」を強要された結果だったのだろう。

少しニュアンスが異なるが、米国で銃規制強化の行方が不透明なのは、「自分の身は自分で守る」考え方が憲法で保障されているためである。その結果、2016年6月にフロリダ州で起きたような銃乱射事件があとを絶たない。この乱射事件では、死者49名と史上最悪の被害となった（容疑者は警察に銃撃され死亡）。社会通念を変えることは本当に難しい。

## 社会貢献のスケール

欧米では、寄付は日常的で身近な行為である。キリスト教精神のもとに長年根づいた習慣、自然に身についた考え方という側面のほか、税制の違いが大きい。日本では寄付控除が受けられるのは、認可を受けた特定の団体が、特定の名目のもとで（冠つきで）募集する場合に限られるが、欧米では寄付した金額は原則として控除の対象となる。税金でもっていかれるのなら、寄付しようというモチベーションが高まる仕組みである。日本もぜひそのように変革してほしい。事実、米国ではGDPの1%以上が慈善活動にあてられ、日本の6倍とされている。

2015年12月、驚きのニュースが世界中の話題となった。世界最大のインターネット交流サイト、フェイスブックの最高責任者のマーク・ザッカーバーグ氏が妻と共有する同社株式のほぼすべてを「次世代のための社会貢献活動」に生涯にわたって寄付すると発表した。時価総額は5兆5千億円だそうだ。

マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏と妻メリнда・ゲイツ氏は、2000年に設立した世界最大の慈善団体「ビル&メリнда・ゲイツ財団」は、これまでに約5兆円を集め、ポリオ・マラリアやエイズなどの感染症対策や発展途上国の農業開発支援、米国の教育支援「米国プログラム」に貢献してきた。ビルが発案した学生向けITコンテスト「イマジンカップ」は、世界150以上の国と地域から35万人以上の参加者を集める大会であり、若い世代のイノベーションを後押ししている。2014年のスーパープレゼンテーション(TED)で、「ビル&メリнда・ゲイツ財団」を通じて、9兆5千億円とされる個人資産の95%を寄付することをビルは誓約した。氏いわく、「資本主義は格差是正の方向へ自動的に動くことはない。不平等の是正には、多くのお金をもつ人がもたない人に渡すことしかない。」

グーグルの共同創業者、ラリー・ペイジ氏とセルゲイ・ブリン氏も、慈善活動を目的とした「グーグルオルグ」に資金を提供し、開発途上国における企業設立やケニアでの児童死亡防止のための研究支援をしている。グーグルは年間利益の1%をチャリティーへの貢献に用いると誓約している。

この流れは、石油ビジネスを通じて世界一の富豪となった米国の実業家、ジョン・ロックフェラー氏が、1918年に創設したロックフェラー記念財団を通じて、世界一の慈善事業家として社会に多大な貢献をしたことに発している。

日本では、2015年4月、内閣府の肝いりで日本財団が「子供の未来応援基金」を立ち上げた。発起人には、安倍晋三首相や財界人トップの名が連なる。安倍首相の唱導する「一億総活躍国民会議」でも重要テーマとして議論され、広報宣伝費として約2億円の国費が投入された。2016年4月からの活動開始に向けて、億単位の資金を予定していた。ところが、集まった寄付金総額は、2016年2月末時点でたったの1,949万円だそうだ。大口寄付はないという。この格差は悲劇的でもある。米国では、あくまで富豪個人の自主的な活動であるのに対して、日本はいつも国が主導権を握ろうとする――。

ちなみに、日本を代表する企業、トヨタ自動車の東日本大震災に際しての寄付金は3億円。ホンダ、任天堂、キヤノン、JT、武田薬品、日立、日本郵政グループ、生命保険協会の寄付額も3億円。寄付額がすべてではないけれど、2兆円を超える純益を生む国際企業としては、ちと寂しい。トヨタ自動車は「社会貢献推進部」を通じて、多様な社会貢献をしているのは間違いのない事実なのだが――。

## 2. お役に立つ雑学

### 英語の三拍子と日本語の四拍子と

日本語の文章表現の基本は「起承転結」の四拍子だが、英語の論理構成は三拍子である。

英文論文は、Introduction(テーマの提示)、Body(具体的情報の記述)、Conclusion(著者の意見を表現)が求められる。各パラグラフも同様の三拍子よりなる。科学論文の考案で、日本人は知らず知らず、

“ところで―” “ちなみに―” とテーマを展開する。これは欧米人に馴染めない。一方、西洋音楽は四拍子（付点四分音符＋八分音符：長さ3対1）、四つ足の騎馬のリズムが基本である。日本人に染みつく固有のリズムは、阿波踊りのチャンチャチャチャ、チャンチャチャチャ、2対1の三連符である。筆者にはこの対称がとても面白い。

それにしても、へぼオーボエ吹き私にとって、西洋音楽の四拍子のリズム感はなかなか難しい。阿波生まれではないのに、といくら嘆いてもダメ。なぜか、知らないうちに身につけている日本人のリズム感を乗り越えるためには、そう、ただ練習あるのみ！

## 黄金分割比 $\phi$ とフィボナッチ数列

フィボナッチ Fibonacci は12世紀イタリア、ピサ生まれの商人である。彼はウサギの殖産の発想から「フィボナッチ数列」を考案した。1つがいの親ウサギから毎月1つがいの子ウサギが生まれ、2ヶ月で子を産めると仮定した。1ヶ月目と2ヶ月目は1つがい、第3月には2つがい、第4月には3つがい、第5月には5つがい、第6月には8つがいとなる。数列としては、1、1、2、3、5、8、13、21、34、55、89、144―と表される。各数字はその前の2つの数字の和となり、 $f_{n-2} + f_{n-1} = f_n$ と表現できる。 $f_n / f_{n-1}$ の値は1.618033988―に収斂する。この値は「黄金分割比  $\phi$  (ファイ)」と呼ばれ、 $\phi^2 - \phi - 1 = 0$ の根、すなわち $\phi = 1 + \sqrt{5}/2$ に相当する。 $\phi$ は円周率 $\pi/2 = 1.570795$ ―に近似するとともに、 $\pi = 4/\sqrt{\phi}$  ( $= 3.144605$ ―) という近似式が成り立つ。

長方形では短辺と長辺の比が1： $\phi$ となる場合が一番美しいという。正五角形の辺と対角線の比が $\phi$ になる。フィボナッチ数列の特徴は自然界の諸現象にビルトインされている可能性がある。たとえば、収縮期血圧と拡張期血圧の比、K/Na や Ca/Mg の原子量比（それぞれ、1.629 と 1.649）、および温帯地方における年間の日照時間（薄明を含む）と非日照時間の比が $\phi$ に近似するという。生物進化のリズムと関係しているやもしれぬこの数字 $\phi$ 。興味をもってもらった数学好きは、ぜひ、金沢光男氏（柏崎中央病院理事長）の書かれた「 $\pi$ と $\phi$ ．進化のリズムとメロディ」（考古堂書店、1999）に目を通してほしい。

## 森の話

米国留学中に、キャンピングカーを利用して、ユタ・アリゾナ地方を家族で旅行した。ブライスカニオンの煉瓦色の不思議な魅力の虜になったあと、パウエル湖のレインボウブリッジを訪れた。そのとき、アリゾナ州ではサマータイム制を採用していないことを初めて知った。この世界の七不思議を見るため待つこと1時間（ユタ州の9時はアリゾナ州の8時だったのだ）。そして、なぜこの地方がロッキーマウンテンと呼ばれるかをあらためて納得した。「山に木がない！」

以前、何かで読んだ。その人は地図帳を見るたびに、山岳地帯が茶色で表示されているのを常々変だと思っていた。しかし、外国をあちこち旅行してみて、ようやくその理由がわかったそうだ。山が茶色はごく普通なのである。わが国がたまたま「森の国」であり、“山には緑がいっぱい”が常識と日本人が思い込



んでいるだけなのだ。ケニアのサバンナ地帯を訪ねたときも、この高原地帯はやはり茶色で表現するのが適切だと感じた。お隣の韓国でさえ、山は茶色をしていることが多いそうだ。そういえば、秋の紅葉の素晴らしさを誇るボストン地方の森でのサマーキャンプ。何か物足りないと感じた。しばらくしてわかったのは、そう、期待される蝉時雨がなかったことだった。

故山本七平氏の「日本人とは何か」(PHP文庫)にこんな記述がある。”ユーラシア大陸は、文明生態史的構造からみて、中央の砂漠帯の周囲を、ナラ林、照葉樹林、熱帯雨林という3つの単位に分けられる。日本は照葉樹林に属す。西ヨーロッパと韓国はナラ林で、ここへ有畜農業が入るとナラ林は破壊されて再生しない。一方、カシやシイなどの照葉樹林は食物が豊富で、一度破壊しても二次林として再生する。国土に対する森林面積の比は、今でも日本が世界一であり、この点は昔も今も「森の国」であろう。”日本人は、豊かな自然にすっぽり包み込まれるのを好むため、縄文式の食文化が根強く残っている。事実、縄文時代の遺跡の食物残渣を調べると、栗、銀杏、貝、川魚、沢ガニ、エビなどが発掘されるそうだ。これに弥生式のコメが加われば、今も昔も食べているものは同じということになるだろう。

今度は、渡部昇一氏の「かくて歴史は始まる。逆説の国・日本の文明が地球を包む」(クレスト社)から引用させていただく。日本人には、森に神聖さを感じる「第二の天性」が刷り込まれている。日本では、神社のあるところ、必ず鎮守の森があり、逆に、森があるところには神社がある。渡部氏は、自然との共存の知恵をもつことが日本文化の精神の特質であり、日本人がハゲ山を作らなかったのは、きわめて例外的な歴史といえる点を強調する。

草木、魚や昆虫に関する日本語の語彙の豊富さをみれば、日本人がいかに自然と仲良く付き合ってきたのかがわかる。著者の知る米国人は、花をみればflowerかblossom、魚はみなfish、昆虫はbugかbeetleが普通だった。ある有名な病理医にセミcicadaの話をして、タンポポdandelionといっても、彼はその単語を知らなかった。著者の発音の問題だけではないと信じている。dogwood(ハナミズキ、コブシ)といった当地で普通の樹木名については、当然彼は知っていた。birch(カバ)は、小学校でも教えてられていた。やはり、日本人は、自然との触れ合い方にとくに年期が入っているといえよう。

「都市は森林を食べて成長する」そうだ。一つの文明が栄えるとき、その国土から森林が消え去るのは世界史の通例らしい。木が燃料に化けるためだ。ジュリアス・シーザーが、紀元前55年に、ブリテン島に遠征した理由の一つは、船の原料となるカシの木を手に入れるためだったという。現在のイギリスでカシの木を見つけるのはむずかしい。西洋文明の基幹となるキリスト教では、教会は木を伐り払った広場に建てられる。森の中の教会という概念はない。ヨーロッパ文明の原動力は、むろん、この自然征服の欲求にあったといえるだろう。現代の中国でも森林の減少は深刻で、毎年のように襲う洪水被害を食い止めることは至難のわざである、と渡部氏は嘆く。

もしかして、スギの花粉症に悩まされることのできる日本人は、幸せなのかもしれない。確かに、日本のスギに対応する英語はないですね。cedarはヒマラヤ杉だしー。聞くところでは、今大量に振りまかれているスギ花粉の多くは、戦後植樹された促成型株の人工林からのプレゼントらしい。著者が留学した米国ボストン地方では、当地に多い落葉樹、メープルmapleやカシoakの花粉のアレルギーが多発していた。イギリスの花粉事情はどうなのだろう。それにしても思い出されるのは、夏のスコットランドのハイランド地方。嵐が丘に登場するような小高い丘が延々と続くのだが、そこを彩るのは、低灌木ヒースの紫色の

花々。あの紫色の丘はみごととしか言いようがなかった。そう、確かに、スコットランドには森がなかったですね。きっと花粉症もないのでしょう。

最近の花粉症の異常増加に対する東京医科歯科大、寄生虫学の藤田紘一郎教授の説は面白い。回虫や蟻虫といった消化管寄生虫症が姿を消したのと反比例して、花粉症が出現した。体内で寄生虫対策に使われなくなった IgE が暇になったため、花粉に反応するようになったと。IgE には非特異的作用があるというのだ。真偽のほどは別だが、著者が花粉症と無関係なのは、小学生時代に回虫症や蟻虫症の常習犯だったせいなのかもしれない。黄色い駆虫剤を飲まされたあとの夏の日午後、涼しい森の中で蟬取りをしていた著者は突然催した。そして、心臓が止まるほど驚いた。木の根本に排泄されていたのは、まるでうどんかスパゲッティのような、死んだ回虫の白い塊だったのだから。

(医学のあゆみ 178: 841-842, 1996 より)

## 塩の話

永禄 12 年 (1569) 1 月 11 日、越後の上杉謙信 (1530-1578) は仇敵、甲斐の武田信玄 (1521-1573) に塩を送った。信州、川中島での 4 度にわたる痛み分けの戦い (1553、1555、1557、1561) のあとだった。上杉に引き続いて上洛をめざす武田信玄は、太平洋側から東海ルートで都をめざし、駿河の今川義元と対立した。1567 年 8 月、今川は駿河から甲斐へ向かう商人の往来、とりわけ塩の移送を禁止した。海のない甲斐国に塩が入ってこないのは死活問題だった。ライバル武田に日本海の塩をプレゼントした「義塩の美談」は、今川の経済封鎖から 1 年 5 ヶ月後のことだった。

塩は人間を含む動物にとって生活必需物質である。米や砂糖と違って、代替物がないのが特徴といえる。岩塩に乏しい日本では、海辺の村で海水からつくられた塩が牛や馬や人の背に乗って山深い奥地まで運ばれた。

日本海に面した糸魚川では古くから製塩が行われていた。この塩が「塩の道」に沿って内陸部へと運ばれた。この「北塩」は、新潟県糸魚川を起点に、姫川に沿って長野県塩尻に至る延長約 120 km (30 里) の古道である。この北陸道の脇街道は、松本街道、信州街道、千国(ちくに)街道、糸魚川街道などと呼ばれた。歩荷(ぼっか)や牛方(うしかた)と呼ばれた輸送職人が、雪深い冬の険しい山々を越えて塩や海産物などの生活必需品を運んだ。

塩の移入路の終点地を意味する「塩尻」は、新潟県糸魚川からの上記「北塩(裏塩)ルート」と、静岡県相良から掛川を経て秋葉街道(伊那街道)をたどる「南塩(表塩)ルート」が接する地点にある塩のターミナルであった。なお、三河沿岸から足助(あすけ)を通して信州へと向かう塩の道も伊那街道(飯田街道)と呼ばれていた。

塩の輸送は、馬でなく牛が使われることが多かった。日本の馬は小さく、大きな荷を運ぶのに適さなかった。馬は野宿が苦手、馬宿の整備が必要だった。藩による管理も厳しかった。道草を食べる牛は、反応こそ遅いものの力が強く、野宿ができた。馬の通れない道も牛ならば通行できた。こうして、人と牛しか通れない「塩の道」は日本全国で裏街道ネットワークをつくり、表街道の賑わいから忘れられかけた村々の生活を支え続けていた。

なお、街道の宿は軒先の両脇に塩を盛ることが多かった。荷を背負う牛が塩をなめるために止まるのが理由だった。草食動物の牛は塩が不足しがちであり、塩場にひきつけられる習性があるのを巧みに利用していた。

## 鬼門

鬼門は万事に忌むべき方角で、十二支でいう<sup>うし</sup>丑と<sup>とら</sup>寅の間、すなわち北東（<sup>うしとら</sup>艮）を指す。鬼は丑の角と寅のパンツをはいているという。現在でも、家の中央からみて鬼門の方角には、門、蔵や水屋・便所・風呂など水を扱う場所を置くことを忌む風習が残っている。関西の私鉄のうち、京阪沿線の開発が一番遅れたのは、この線が北東と南西方向（鬼門筋の方位）に伸びるためだと言われている。

784年（延暦3年）、桓武天皇は仏教勢力の強い平城京から都を長岡京（京都府長岡京市）に遷都し、さらに794年（延暦13年）に平安京に遷都した。平安京（京都）の鬼門の方角には比叡山が位置する。比叡山のふもとに生まれた19歳の若き最澄は、785年（延暦4年）、比叡山頂近くに、自刻の薬師如来を安置した草庵（現在の<sup>こんぼんちゆうどう</sup>根本中堂）を建立した。804年、伝教大師最澄は唐に1年間留学し、中国天台宗とともに密教や禅宗を学んだ。こうして、鎮護国家の聖域道場として発展した比叡山天台宗は、806年（延暦25年）1月、鬼門を守る寺として公許された。最澄が56歳で没した翌年の823年（弘仁14年）、比叡山寺に「延暦寺」の寺額が贈られた。200を超える堂塔坊舎が比叡山全山に広がった延暦寺はその後、仏教の総本山の役割「日本仏教の母山」を演じた。12～13世紀の鎌倉時代に活躍した浄土宗の法然、臨済宗の栄西、浄土真宗の親鸞、曹洞宗の道元、法華宗の日蓮、時宗の一遍や弁慶といった名僧たちはみな延暦寺で修行した。

元亀2年（1571）9月12日からの4日間、織田信長は反対勢力となっていた比叡山全山を焼き討ちし、西塔北谷の小さな瑠璃堂1つを残してすべての堂宇が焼き払われた。死者は数千人にのぼった。天正12年（1584）、豊臣秀吉から山門再興の許可があり、江戸初期に延暦寺は再建された。1994年、世界文化遺産に登録された。2005年10月、延暦寺開設1200周年（慶讃大法会）が盛大に祝賀された。

江戸の都には、徳川家光が鬼門の方角に位置する上野に寛永寺を置いた。寛永寺は延暦寺系列の天台宗関東総本山であるとともに、徳川将軍家の祈祷所・菩提寺である。徳川歴代将軍15人のうち6人（家綱、綱吉、吉宗、家治、家斉、家定）が寛永寺に眠っている。5代将軍徳川綱吉は巨大な根本中堂を建てた。慶応4年（1868）の彰義隊による上野戦争の際、主要伽藍が消失した。なお、裏鬼門の位置にある芝の増上寺も将軍家の菩提寺で、将軍6人（秀忠、家宣、家継、家重、家慶、家茂）が葬られている。

## 残心

「残心」は剣道、柔道、相撲、合気道、少林寺拳法をはじめとする日本武道の精神性を表わす基本的態度である。心残りではなく、「心を残すこと」、「心が途切れないこと」ことを指す。技が決まったあとに気を抜かず、間合いを読み続けることが残心の極意とされる。

優しく言い換えれば、試合に勝利した直後にガッツポーズをしたり、喜びの表情を表わすことが禁止さ

れている。剣道では、技や勝利が決まったあとで、喜びの態度をとると勝利が取り消されるそうだ。大相撲でも、勝利したあと、土俵上では力士はにこりもしない。日本武道の美学といえそうだ。確かに、戦いの場においては、剣で一人を切って安心していたら、横から別の剣士にすぐに切られてしまうだろう。

しばらく前に、剣道修行中の2段の高校生が、6段の父親に挑戦するテレビ番組が放映された。結局、息子が勝つのだが、勝利後に親子ともににこりもしない。淡々とあいさつをして剣道場を去っていた。あまりに衝撃的な潔さに、こころを深く揺さぶられた。

国際化した柔道では、試合直後に選手がとるガッツポーズがかっこよく放映される。サッカーや野球でも勝利の喜びを爆発させる選手たちにスポットライトが当てられ、盛り上がりをも後押しする必須の映像として放映される。そういった意味では、精神性が重視される日本古武道はスポーツと言わない方がいいかもしれない。

国技の大相撲でも、残心が少しずつ忘れられつつあるかも知れない。筆者自身を含めて、それを許すテレビの前の一般市民がいることも確かだ。

千利休は、「何にても置き付けかへる手離れは、恋しき人にわかるると知れ」と詠んだ。茶の動作を終えるときは、恋人との別れを惜しむような気持ちになりなさいという。残心は茶道にも通じる日本の美しい伝統と言えそうだ。

なお、講道館柔道のもとになった古武道、天神真楊流柔術では、ワザを決めるための3つの心を教えている。ワザを繰り出す前の「前心」、ワザをかけているときの「通心」、そして「残心」。

## 無関心

150年以上前に書かれたアンデルセンの童話「マッチ売りの少女」。

大晦日の町を裸足で歩く少女に一人も振り返らない。行き会う人から「寒いでしょう」の言葉かけはない。だれもマッチを買ってくれない。やがて少女は売り物のマッチを擦る。ほんのひととき、幻を観て安らぎを感じる。マッチがなくなったとき、少女は愛する祖母の待つ天国へと旅立つ。

1979年のノーベル平和賞受賞者、マザー・テレサ(1910-1997)の言葉。「愛の反対は憎しみではなく、無関心」

The opposite of love is not hate, it's indifference.

“indifference”を考えてみよう。differenceの前にin-「反」がつく単語で、本来は違いや偏りのない意味で使われたが、現在では、ものや人に対して衝動的な欲望を欠くこととして使用される。無関心という訳より無感情の方が近いかも知れない。

1986年にノーベル平和賞を受賞したボストン大学教授のエリ・ヴィーゼル(Elie Wiesel)(1926-2016)はこんな言葉を残している。

The opposite of life is not death, but indifference between life and death.

「生の反対は死ではなく、生きていても死んでいるともつかない無感情な状態」

ヴィーゼルはナチスの強制収容所の生き残り、家族全員を収容所で亡くしている。indifferenceの意味を考えてみたい。

## 食育

1871（明治4）年、文部省が創設され、翌年に学制が施行され、独立自尊と実学の必要性を説いた福沢諭吉のベストセラー「学問のすゝめ」が出版された。1880（明治13）年、英国の社会学者ハーバート・スペンサー（1820～1903）の著作、「斯氏教育論」が翻訳された（第一章は教育内容論、第二章は Intellectual education、第三章は Moral education、第四章は Physical education）。そして、教育の基本は「知育・徳育・体育」の三育と言われるようになった。

1890（明治23）年に公布された「教育勅語」では、徳育（「修身」）が最重要視され、知育と体育は縮小された。その後、大正・昭和を通じてこの順位が変わることはなかった。

軍医、石塚左玄（1851～1909）は、1896（明治29）年に出版した「化学的食養長寿論」の中で、「食育」の重要性をはじめて提唱した。明治のベストセラー作家、村井弦斎（1864～1927）は1903（明治36）年、「食道楽」という滑稽小説で「食育論」を展開した。学者や政治家が、「徳育」や「体育」を堅苦しい論文で発表していたときに、村井弦斎はそれよりもっと大事なのは「食育」だと主張して読者を笑わせた。

「食育」は、食を通して生きる力を育むことを目指している。日々の食事の栄養バランスや食材の知識を持つことに加えて、家族との食事のあり方、箸の持ち方をはじめとする食事マナーも教えられた。

一昔前までは、箸の持ち方で親の躰がわかると言われた。思いやりのこころを育て、人格を養う日本の食事文化の原点は、箸の持ち方を中心とした食事マナーから学ぶ「躰＝食育」にありそうだ。ちなみに、「躰」という漢字は、江戸時代の武士社会でつくられた和製漢字「国字」である。身だしなみを美しくすると書く。国字なので、当然、音読みのない漢字である。中国の概念にない、日本の美の一つといえるかもしれない。

## アカウントビリティー

円周率は「身一つ世一つ生くは無意味いわくなく」、鎌倉幕府開設は「いい国」、卵巣腫瘍中間悪性群腫瘍「きみ男か」（奇形腫、未分化胚細胞腫、男化腫瘍、顆粒膜細胞腫）。こんな覚え方ができるのは日本語独特だ。日本語の細かいニュアンスを作り出すのはくり返しことば。さらさら、ざらざら、さわさわ、どろどろといった表現法は、日本語を学ぶ外国人にとって一番の難関らしい。

日本語の大きな特徴に、外来語の翻訳しやすさがあげられる。杉田玄白と前野良沢は解体新書の翻訳に際し、中国の五臓六腑にない脾臓の翻訳に苦労し「大機里爾」と称した。「脾」という文字は、宇田川玄真により考え出され、中国に逆輸出された。

ちなみに、江戸期には漢字の多くは訓読みだった。現在でも、名前や地名の多くは訓読みだ。音読みする名前の多くは「藤」がつく。斉藤、加藤、佐藤、近藤、遠藤、安藤、内藤、後藤などなど。藤原氏に由来するそうだ。関東地方の地名で音読みするのはごく少数。東京（もとは江戸）のほかは、草加、座間、日暮里、東横線の「白楽」駅（私の地元でもある）くらいだろうか。愛知県には音読みの地名がやたらに多いのが特徴。愛知、知立、安城、知多、東海、日進、碧南、わが藤田保健衛生大学の最寄り駅は名鉄線

の前後だ。

明治維新以降、漢字用法は音読み主体に変身を遂げた。その原動力は、福沢諭吉、西茜（あかね）を中心とする知識人たちだった。従来の日本語になかった概念を表す社会、愛情、家庭、演説といった音読み単語が次々と創生された。

残念ながら、一部のことばは本来もつ英語のニュアンスの違いが無視されてしまった。その代表が「情報」英語には、インフォメーションとインテリジェンスの2種がある。後者は知的情報という意味だ。福沢諭吉がなぜインフォメーションを情けに報いると訳したのかは謎が深い。少なくとも著者には意味不明である。日本には知的情報を守る習慣がどうも乏しい。

もし福沢がきちんと訳していたら日本社会が変わったかもしれない重要なことばに「アカウントビリティ」がある。辞書には責任とあるが、レスポンシビリティと区別がない。アカウントビリティはしっかり説明をする責任（説明責任）という意味だ。政治でも医療でも、現代日本に欠けているのがこのアカウントビリティ。これこそ、インフォームド・コンセントの原点だ。

## 同音異義語

日本語には、とくに漢語の中に同音異義語が数多く、いや無数にみられる。

日本語は発音パターンが最も少ない言語の一つらしい。あいうえお、かきくけこに始まり、みやみゆみよ、ぴゃぴゅぴょ、びゃびゅびょまで入れても100あまり。だいぶ以前に聞いた講演「日本語再発見」で、上智大の故金田一春彦教授は、日本語は世界一発音の簡単な言語だと断言していた。一方、中国語には、中古漢語で約3500個音、広東語では約1800個音、現代北京語でも約1200個音もあるそうだ。中国語を表わす文字である漢字を日本語に導入する際、中国語で発音の異なる漢字に対して、日本語では同じ音を割り当てざるを得なかった。その結果、同音異義語が相当な数になった。もともと、古代日本語にはwa、wi、wu、we、woやfa、fi、fu、fe、foが使われていたし、普通の会話で使う音読み漢語の数はそれほど多くなかった（明治以前、漢字は訓読みが主体だった）。漢語による造語が必須となった幕末～明治期の文明開化の時代に至って、同音異義語は爆発的に増えた。現在、その数は、世界の言語の中でダントツの一位である。

調べてみると、もともと同音異義語の多い読み方は「こうしょう」だそうだ。広辞苑には、交渉、考証、工匠、高尚、鉦床、口承、厚相、哄笑、公称、工廠、公証、公娼、校章など、なんと50種が記載されている。いどう（移動、異同、異動など）、きかん（期間、機関、器官、気管、帰還、基幹、季刊など）、こうてい（校庭、皇帝、高低、行程、肯定など）、さんか（参加、賛歌、酸化、傘下、惨禍など）、しこう（嗜好、思考、志向、至高、歯垢など）、せいか（製菓、成果、盛夏、生家、聖歌、生花、正貨、聖火など）。確かに、きりが無い。

へんざい（偏在、遍在）、れいぐう（礼遇、冷遇）、ばいしゅん（売春、買春）のように、正反対の意味の言葉が同音になる場合もあり、とてもとても紛らわしい。しばしば、だじゃれのネタにもなる。「貴社の記者が汽車で帰社した」。間違いなく、パソコンの変換ミスの原因ともなっている。これまでに私が真っ青になった変換ミスを少し紹介したい。東海大学のつもりが”倒壊だ医学”。名古屋までのつもりがなぜか”名

古山で”。黄痘で真っ黄色と書きたかったのに、“末期色”！

入試の山となる同音異義語の御三家を紹介しよう。たいしょう（対称、対象、対照）、かんしん（関心、感心）、ほしょう（保証、保障、補償）だそうだ。なあるほど。

ついでに、テストに出やすい「同訓異字」も紹介する。はかる（計る、測る、量る、図る、諮る、謀る）、かわる（変わる、代わる、替わる、換わる）、おさめる（収める、納める、治める、修める）だそうだ。なかなか難しい。

## 中国へ逆輸出された和製漢熟語たち

幕末～明治初年にかけて、膨大な量の西洋の知識・概念が流入し、それを日本語に翻訳する必要が生じた。そこで大活躍したのが、福沢諭吉、西周（にしあまね）を中心とする「明六社」の人たちだった。仏教用語を除いては「訓読み」主体だった江戸期までの日本語は、明治以降、新たにつくられた二文字熟語に頼る「音読み」主体の言語へと大変身を遂げた。

演説、討論、会社、社会、国家、政府、封建、組織、家庭、愛情、恋愛、情交、健康、衛生、保険、精神、礼儀、近代、文明、美術、芸術、文化、科学、化学、物理、文学、哲学、美学、自然、抽象、心理、識字、汽船、原則、権利、義務、版權、教育、開発、服務、申請、解決、宗教、定数、存在、経営、政策、政治、経済、方針、商業、商社、銀行、為替、簿記、技術、階級、競争、軍事、革命、法律、憲法、民族、個人、自由、理性、品性、人格、主観、客観、修身、原則、介入、撤回、理論、帰納、情報、責任、常識、抽象、人民、共和、民主、主義、などなど。

これらの多くは中国に逆輸出され、広く使われるようになっていった。ただし、「精神」は中国では「元氣、健康」という意味で使われる。福沢諭吉の「演説」はスピーチ、堂々と意見を述べて相手を納得させることをさすが、以前からあった中国語固有の「演説」は、やさしくていねいに解き明かすという意味である。

面白いことに、国名「中華人民共和国」の人民と共和は輸入概念だし、「朝鮮民主主義人民共和国」にいたっては、輸入されていないのは朝鮮と国だけである。

福沢諭吉は education の訳語として「開発」をつくったものの、森有礼による「教育」とが広く受け入れられた。「開発」は development の訳語となった。

「権利」の熟語はいわくつきである。Duties を「義務」、Rights を「権利」と訳したのは西周だった。福沢は“権力をもって利する”「権利」の語は誤訳であり、「通理」や「通義」と訳すべきだと主張した。その理由は2つ。「権利」には能動的な意味が込められているが、「Rights」は本来、受動的な力であること。そして、Right のもつ「正しいこと、正義」という意味が「権利」の語には含まれていない。「Rights」を「権利」と訳せば、個人が自らの利益のために主張することができる一切の利権という意味になってしまう。「Rights」は、個人の好き勝手を認める概念ではなく、誰がみても妥当な、正当性のある概念をさす。なぜ、結果的に「権利」が生き残ってしまったのだろうか？ 徳川慶喜のブレインで、のちに文部大臣になった西周の「権利」が優先された結果なのだろうか？

## 権利、究極の誤訳

明治期の国学者、西周（にしあまね）は、英語の「Right」を「権利」と訳した。

この「権利」（権力・力をもって利する）という訳に、福沢諭吉は明らかな誤訳だと強く噛みついた。「Right」は「通義」ないし「通理」と訳すべきだと説いた。「権理通義」とも訳している。その上で、「権利」の訳は、必ず未来に禍根を残すと指摘した。

「権利」という単語は能動的な意味が強いが、「Right」は本来、受動的な概念なのである。「Right」には“正しいこと”“正義”“善”“道理”といった意味が含まれるが、「権利」という造語にはそのニュアンスが全くない。その上、「権利」という言葉には、どこか後ろめたいネガティブな語感が伴う。本来、「Right」は誰がみても無条件に正しい（神から与えられた）一般的確実性と普遍的妥当性を兼ね備えた正義、道義的に正しい行ないを指している。決して、自分勝手に許される能動的な概念ではない。日本における権利意識・人権意識の大きな間違いは、この誤訳に始まっている。「権利」の順序を入れ替えて「利権」とすると、本来の「利益と権利」という意味よりも、業者が公的機関と結託して得る権益といったニュアンスが強い。この“究極の誤訳”が日本社会に定着してしまったことは、何とも、とても残念だ。

諭吉の訳、「通義」は、一般的確実性と普遍的妥当性に裏づけられた正義という「Right」の語感を正確にとらえている。福沢は、「通義という訳字を以って原意を尽すに足らず」と述べているが---

翻訳家の松野町夫氏（リベラル 21 所属）は、「権利」の代わりに「権理」とすることを提唱している。「権」は人を従わせる力（実権・政権・権威・権力）ないし法的な力（棄権・人権）であり、力づくの押しつけがましさが感じられる。「利」には、利益、利害、実利など、エゴイスティックな印象がつきまとう。「理」なら、ことわり、理知、真理という意味になる。「権理」なら、“けんり”という発音を保ちつつ、「権」の文字は従来通り使用するので、権利に関する用語（人権・著作権・所有権など）に影響することもない。

## ヤフー

yahoo. 英和辞典には獣のような人間、無骨者、田舎者とある。この妙な英単語は、かのジョナサン・スウィフト Jonathan Swift (1667~1745) が今から 270 年も前の 1726 年に書いたガリバー旅行記 Gulliver's travels の第 4 話フイヌム国(馬の国)渡航記に初登場する。

アイルランド生まれのイギリス人であったスウィフトは、英国国教会の聖職者でもあった。彼は、オリバー・クロムウェルによる流血の清教徒革命(1642~49 年)の記憶が消えず、オレンジ公ウイリアムスが無血で迎えた名誉革命(1688 年)を経て、「権利章典 Bill of Right」が法律化され(1689 年)、議会政治と「英国の世紀」が確立されてゆく変革の時代を生きた。議会に清教徒の流れをくむ非国教派が再び台頭する中、諷刺や逆説が自由に楽しめる「良識の時代」でもあった。ガリバー旅行記は、英国の社会や政治に対して、さらに人間の存在そのものに対して、諷刺的批判を加えようとして執筆された。あらためて原作(平井正穂訳、岩波文庫、1980)を通読してみると、子供たちの絵本に登場する小人の国や巨人の国を中心とするあのガリバー氏のイメージとはあまりにも違う作者の意図に驚きを感じざるを得ない。



ガリバー旅行記執筆の直接のきっかけは、スウィフトが軽蔑していた非国教会派の写実主義小説家であるダニエル・デフォーDaniel Defoe(1660～1731)が1719年にロビンソン・クルーソーRobinson Crusoeを発表して好評を博したことであった。当時未開の地であったアメリカ東海岸のボストン地方から命からがら逃げかえってきた若者の誇張話「海の向こうには巨大な化け物が住んでいる」を聞いたことがヒントになっただけらしい。ガリバーは、「愚者」という意味をもつが、その若者の名がガリバーだったとどこかで読んだ記憶がある。

ガリバー旅行記は4つの冒険記よりなっている。有名な小人の国(リリパット国)、巨人の国(プロブディンナグ国)は、それぞれ第1話、第2話だ。第3話「浮島」には、この物語唯一の現存する地名である日本が登場する。スウィフトにとって、黄金の国「日本」は架空の存在だったに違いない。太平洋に浮かぶ「浮島」はラピュタ Laputa と称されているが、この島の名は宮崎駿のアニメ「天空の城ラピュタ」に流用されている。

さて、問題のヤフーの登場する第4話「馬の国」は皮肉・自嘲の塊である。ヤフー(人獣)は、この国の主人である馬(フーイヌム Houyhnhnm)に飼われている醜悪無比な家畜として描かれている人間のことなのである。スウィフトは、ヤフーを「これほど醜悪な動物を見たことも、また、これほどただもうわけもなくむかむかするような嫌悪感をいだかせる動物もなかったように思う」、「顔は平べったくただ広く、鼻はぺちゃんこで、唇は分厚く、口が大きいことを除いては、自分(ガリバー氏)にそっくりである」と表現している。いや、姿形が醜いのみでなく、反抗的で御しがたく、悪辣無残であり、少しでも監視の目を怠ると、猫を食うやら燕麦をさんざん踏み荒らすやら、さまざまな悪行を重ねる。陰険で復讐心に富み、臆病、傲慢、卑屈、残酷であり、色好みで意地悪である。また、我慢のならない悪臭を発する。雌のヤフーが妊娠中でも平気で雄を受け入れる、雄が雌を相手に猛烈に喧嘩するといった2つの振舞いは、その破廉恥なことまさに野獣性の極致といってよい……。

どうやら、yahoo は「ヤーyah」と「ウッフ ugh」という“嫌悪”を表わす2つの間投詞から合成されたらしい。

いっぽう、インターネットの世界では「Yahoo!」はたいへん便利でよく知られた情報ネットワークである。この分野別に階層化されたデータベースは Netscape の上で公開されている。しかし、なぜその名がヤフーなのだろうか。”Yet Another Hierarchical Officious Oracle”(いま一つの階層化されたおせっかいな託宣)の略(こじつけ)というより、“Yahoo!”の創始者であるスタンフォード大学のDavid Filo氏とJerry Yang氏が自分たちを「ヤフー」とみなしたためである旨、“Yahoo!”のinformation“Yahoo! History”に記載されている。しかし、そのあとにちょっと問題な記述が続いている。Yang氏の当初のワークステーションの愛称が“akebono”であり、Filo氏のコンピュータは“konishiki”と呼ばれていたと。彼らからは、いったい曙関や小錦関がヤフーにみえたのだろうか？

(医学のあゆみ 180(4):240, 1997より)

## ロビンソン・クルーソーとガリバー

南米チリ沖合700キロの太平洋にロビンソン・クルーソー島がある。スコットランド人の船乗り、アレクサンダー・セルカークが1704年から4年4ヶ月を一人で生き抜いた場所だ。伊豆大島の半分程度のこの島には、現在、600人あまりが暮らしている。2005年、秋田県出身の探検家、秋田県高橋大輔氏らによってセルカークの建物跡が発掘された。

セルカーク氏を救い出した英国公認の海賊船の船長、ウィリアム・ダンピアは、1697年に「世界周航記」を出版した。この書物にヒントを得て、1719年4月25日、59歳のダニエル・デフォーはロンドンで「ロ

ビンソン・クルーソー漂流記」を出版した。家出したロビンソン・クルーソーの乗る船が難破し、一人無人島に流されて、27年2ヶ月の間暮らした冒険物語である。発売直後から大きな反響を呼び、4ヶ月間に5回増刷された。

当時、広義のピューリタンで非国教徒だったデフォーは、金のためなら何でも書く政治ジャーナリストとみなされていた。1667年にダブリンに生まれたジョナサン・スウィフトは、カトリックの強いアイルランドで英国国教会の牧師をしていた。スウィフトはデフォーを政敵とみなし、軽蔑していた。そして、1726年11月8日、59歳のスウィフトはロンドンで『ガリバー旅行記』を発表した。船医ガリバーの冒険記(全4話)の形をとったこの本は、決して子供用のおとぎ話ではなく、当時の英国社会や人間の愚かさを辛辣に批判した内容だった。当時の英国ウォルポート政権のアイルランド統治を厳しく批判する文筆活動の一貫であるとともに、デフォーに対する対抗心が大きな原動力だった。

旅行記の主人公ガリバーは、船長ダンピア氏の従弟の船医に設定されている。そう、ガリバー旅行記の着想は、ロビンソン・クルーソーと同一人物から得られている点が面白い。「ガリヴァー(Gulliver)」という名前は、「愚か者」(gull:だまされやすい人、gullible:だまされやすい)の意味の造語である。当時の新世界、アメリカ東海岸のボストン地方から命からがら逃げ帰ってきた若者(“馬鹿者”)の誇張話をロンドンで聞いたのが執筆の直接のヒントになったらしい。

## スペイン人気質

2006年6月に訪れた初めてのスペインで驚いたことは、何といても、夜中の1時に町の中でたくさんの人々が語り、歩き回っていることだった。レストランの道端の座席は人でいっぱいだった。若い女性たちも多かった。学会のついでに訪れたログローニョ、グラナダ、マドリードの3都市に共通だったので、スペインどこでも同じなのだろう。学会は朝8時からしっかり始まるのだから、とても不思議だった。

おそらく、その秘訣は「昼寝」だろう。昼食タイムは1時半から。4時ごろまでは多くの店が閉まってしまう。町のレストランが再開するのは夜の9時から。学会のパーティーも公称9時始まり(事実上、10時近く)で、終了は1時近い。サマータイムのおかげで、10時頃まで明るいのだからリーズナブルなのがー。

いやはや、スペイン人は元気だ。

## トルファン不思議

2006年8月にウルムチで開催された国際学会のついでにトルファン(吐魯蕃、Turpan)を訪れる機会があった。

トルファンという古い町は、中国の奥地、新疆(しんきょう)ウイグル自治区の東部にある。シルクロードの中継基地として栄えた場所だ。この町から西に向かうシルクロードは、広大な砂漠や山脈を避けて、南北3つのルートに分かれる。中世に栄えた2つの故城(交河故城と高昌故城)は、石と日干しレンガでできた壮大な廃墟だ。あの静けさは、中国の雄大さそのものだ。交河故城は、7世紀に三蔵法師がインド

への旅の途中で立ち寄ったところ。

それにしても、夏のトルファンは暑い。古来、「火州」と呼ばれ、夏の平均最高気温は38度を越える。トルファンの北にある赤い山、火焰山の夏の気温は50℃に達する。火焰山は、三蔵法師率いる孫悟空が鉄扇公主と戦った場所として「西遊記」に描かれている。

トルファン盆地は標高5,000 m級の天山（テンシャン）山脈の南麓にある。トルファンとはウイグル語で窪んだ地という意味だそうだ。トルファン盆地は中国でも最も標高の低い地域で、底に当たるアイデン湖の湖面は海面下154 mにある。死海のマイナス399メートルに次いで世界で2番目に低い土地だ。予想を超える低地だ。周囲には、草がわずかにはえる荒地が広がる。年間降水量が平均17 mmと雨はほとんど降らない。水源は、北にそびえる天山山脈の雪解け水を地下水道（カレーズ）に通して引いている。この水でオアシスが維持され、ブドウが栽培されている。

この地方にはミイラが多い。アスターナ古墳群にはミイラが展示されている。エジプトミイラと異なり、内臓を抜くことをしていない。あまりの乾燥状態に、埋葬後そのまま干からびるのだそうだ。だから、この自然乾燥ミイラはいくらでもでる。日本の博物館に少し売れば、すぐ博物館が建つと案内の方がつぶやいていた。ミイラの所有権はいったい、どうなっているのだろうか。

郊外の交河故城は、その名の通り、二つの川が交わる場所にある。けっこう水量は多い。その水が水面下の町に流れ込んだら大洪水、と思いきや。その川は、走行途中で地下へと消える。地図で確認すると、この地域の川はすべからく、途中で消えている。うむ、納得。

地図に一段と濃い緑色で表示されているトルファン。ぜひ一度どうぞ。

## 贈り物

会社や官庁が年に2回ボーナス（賞与）を出すのは、7月のお中元と12月のお歳暮という国民的行事に対する経済的支援といえそうだ。時季になると、各百貨店には必ずギフトセンターが開設される。贈る人は成人の9割を超える。一年の締めくくりのお歳暮はお中元より贈る品物の値段がやや高めだそうだ。さらに、餞別、お土産、香典。現代日本は“贈与の帝国”といえる。

これだけ贈り物が大好きな国民は世界に珍しい。日本では、中元・歳暮の習慣は江戸期に庶民に普及した。お隣韓国では、旧暦8月15日（中秋の名月）と旧正月に肉類や調味料を贈る習慣がある。中国でも旧暦8月15日に月餅を贈る習慣がある。ミャンマーでは、10月にお世話になった人に食料品やロンジー（スカートのような民族衣装）を贈る。

年賀状と暑中見舞いも日本経済に貢献すること大きい。こちらは、明治6年に始まった郵便制度の発達とともに定着してきた挨拶習慣である。年賀郵便の制度は明治39年に始まり、昭和24年にはお年玉付き年賀はがきが発売された。暑中見舞いはがきは大正時代に始まった。クリスマスにせよ、バレンタインデーにせよ、心をつなぐ贈り物文化を大切にする日本人ならではの価値観といえよう。

生活保証金的な一時金としてのボーナスが月給の3ヶ月分程度、年2回（会社によっては3回）定期的に支払われる国は珍しい。欧米の賞与は、あっても月給1ヶ月分程度である。ボーナス払いでの購入ができるユニークな国、それがわが日本といえそうだ。

## 貴重品

「貴重品はございませんか？」

ホテルや学会のクロークでよく訊かれる言い回しだ。重たいから、とりあえず邪魔だからといった理由のほかに、専任者がいて第三者が侵入しにくい場所に保管されるからこそ預けたいと思うのが利用者にとっての当然の心理である。貴重品だからこそ預ける場所のはずなのに！このマニュアル通りの事務的な質問に大いなる違和感を覚える。

預けてもらっては困る物品を具体的に述べるのはどうだろう。たとえば、10万円以上の現金、爆発物、刃物類といったところか？でも、現金を預ける人はまずいないだろうし、爆発物や刃物は持ち歩いてもらうこと自体が何か怪しい。

そもそも「貴重品」なのかどうかは人によって違う。鞆そのものが記念品だったりする。他の人にとっては価値のないものが、その人にとっては何物にも代えがたい場合も少なくない。「貴重品はございませんか？」の声かけ自体が、相手の立場を考えていない、サービス業の根幹に関わる問題発言といえないだろうか。

## リンスインシャンプー

石けんは高級脂肪酸塩であり、長いアルキル基と電離したカルボキシル基をもつ。疎水性のアルキル基が油成分に結合し、親水性のカルボキシル基が油成分を水に溶かす。石けんはアルカリ性を示すため、石けんで頭を洗うと髪がバサバサになってしまう。

シャンプーはカルボキシル基の代わりに、硫酸エステルやスルホン基が導入された界面活性剤であり、水中ではマイナスに荷電する（アニオン界面活性剤）。ナトリウム塩は中性に保たれるため、髪に優しい。

リンス（ヘア・コンディショナー）には、逆性石けんと呼ばれる界面活性剤が含まれる。テトラアルキルアンモニウムイオンがプラスに荷電する（カチオン界面活性剤）。アンモニウムイオンの部分が親水性で、長いアルキル基は疎水性である。髪の毛を構成するタンパク質はマイナスに帯電しているため、プラスに帯電するリンス分子が結合する。そして、疎水性のアルキル基が髪の毛の表面に外向きに並ぶ結果、髪の毛のゴワゴワ感が解消する。

単純にシャンプーとリンスを混ぜるとプラスとマイナスの分子が互いに結合して、双方の効果が消失してしまう。さて、ではリンスインシャンプー（two-in-one shampoo）とはどんな構造体なのだろう？

リンスインシャンプーでは、リンス分子をプラスに荷電する高分子量にしている。高分子量リンス分子のプラス荷電にシャンプーのマイナス分子が結合している。水（お湯）で髪の毛を洗うとき、分子量の小さいシャンプー分子はリンス高分子から離れて水中へと溶けてゆく。そして、シャンプーの効果を発揮する。一方、高分子量のリンス成分は水溶性が低い。シャンプー分子が洗い流されたころ、リンス分子がおもむろにマイナス荷電の髪の毛の表面に結合する。濃度が下がると水溶性が増す性質をうまく利用している。

2 度洗いする手間が省け、必要なお湯の量が少なくてすむエコなリンスインシャンプーだが、髪の毛の汚れを落とす成分と髪を保護する成分のバランスが工夫されている製品であるため、髪や頭皮をしっかりと洗いたいという目的には向かない。

## ゴールデンエイジ

ゴールデンエイジ (golden age) とは、こどもたちの運動能力が著しく発達する期間を意味する言葉で、スポーツの英才教育理論に基づく概念である。言い換えれば、運動神経を磨き、スポーツがうまくなるために大切な時期を指す。幼児・学童期の 3～14 歳に相当する。

ゴールデンエイジはさらに 3 つに区分される。①3～8 歳のプレゴールデンエイジ、②9～11 歳のゴールデンエイジ、③12～14 歳のポストゴールデンエイジ。それぞれの時期に適した運動の練習方法がある。

プレゴールデンエイジ (小学校低学年) の時期には、「歩く」「投げる」「引っ張る」「跳ぶ」といったいろいろな運動を経験して、基本的な運動動作を身につけておくといよい。運動神経を積極的に刺激して、俊敏さ・柔軟さといった動作の調整力を養う。スポーツの楽しさを伝えて、動くことが好きになるようにしたい。

ゴールデンエイジ (小学校高学年) の時期は、自我が芽生え、競争心が旺盛になるとともに、思う通りに体を動かせるようになる。プレゴールデンエイジに基本動作を身につけておくと、動きをみただけで体がすぐ理解して、技術を習得できるようになる。運動技術と運動センスがともに成長する。いわゆる「運動神経」の質が決定する。筋力は未発達なため、強さ・早さでなく、「技術」を身につけることが目的となる。

ポストゴールデンエイジ (中学生) の時期には、自尊心が強くなり、中学校の部活が本格化する。骨と筋肉の成長バランスが一時的に崩れるため、技術的上達が滞ることがある。反復練習によって、これまでに身につけた技術の質を高め、「考えながら練習する」質の高いトレーニングが求められる。第 2 次性徴の終わるこの時期の後半には、筋力を養成するウェイトトレーニングが導入できる。

運動音痴の筆者にとって、確かにゴールデンエイジに体をトレーニングされた覚えがない。鉄棒で逆上がりはできたが、蹴上がりはどうしてもできなかった。懸垂も全く不得意だった。運動に自信がなく、体育の授業が不安だった。中学では運動部に入る勇気がなかった。少し教わっただけで、いとも簡単に鉄棒や球技が上達する仲間がとても羨ましかった。その後、テニスやスキーを始めたが、やはり上達が何とも遅く、悔しい思い出もある。競わずに楽しめばいいと思えるようになるには相当に時間がかかったかも知れない。

## 3. 生きもの編

### 肉食動物の栄養補給

ライオンやチーターなどの肉食獣にも植物繊維の補給は必要である。ライオンたちはいったい、どうやって植物由来の栄養素を得ているのだろうか。

肉食獣は草食獣を食べるとき、どのような順番で食べるだろう。彼らは、草食獣の胃や腸から食べ始める。消化管の中には、植物性繊維が詰まっている。こうして、肉食獣は植物繊維を補充している。

以前、ケニアのサバンナを訪れたとき、川から離れたカバがライオンに襲われた、無残な姿を目撃した。食べられていたのは、見事に内臓だけだった。なるほど、納得。

## アンモニア臭のする食べ物

蛋白質を構成するアミノ酸の代謝過程で、アミノ基転移酵素（肝機能検査に用いられる ALT、AST が代表）の働きによって脱アミノ化が生じると、アンモニアが生成する。この毒性の強いアンモニアは、一部がアンモニアイオンとして尿中に排泄されるが、大部分は肝細胞の保有する尿素サイクルで毒性が低く水溶性の高い尿素へと変換され、腎臓から排泄される。肝硬変症で尿素サイクルの機能が低下すると血中アンモニア濃度が増加して肝性昏睡に至る。

一方、核酸由来のプリン体はキサンチンを経て尿酸へ代謝される。その他、尿酸は 5-ホスホリボシルピロリン酸とグルタミン酸から直接合成され、アミノ酸代謝と連動している。

水中に住む魚類や両生類では窒素はアンモニアの形で排泄されるのに対して、陸生が長い両生類や哺乳類では尿素が、爬虫類や鳥類では尿酸が主たる窒素排泄型である。ヒトやサル（霊長類）以外の哺乳類では、尿酸はウリカーゼの作用でより水溶性の高いアラントインへと代謝されるため、痛風という疾病はヒトの特徴といえる。ヒト、鳥類、爬虫類、両生類にはウリカーゼ活性がない。

ところで、韓国の夏の結婚式でふるまわれる高級料理に「ホンオ・フェ」というエイの刺身料理がある。これは、強烈なアンモニア臭がする。軟骨を含むエイの肉を 10 日ほど発酵させるらしい。初めての人はとても食べられない料理だそうだ。日本のクサヤ、ヨーロッパのウォッシュチーズ、台湾の臭豆腐とならぶ、クサイ料理の代表格だそうだ。

日本人の好きなイカもアンモニア臭プンプンのものが少なくない。一般に食用になっているヤリイカ、スルメイカ、モンゴウイカ、ホタルイカなどは筋肉内にアンモニアは乏しい。しかし、体長 1~4 m に達する巨大なイカであるダイオウイカの筋肉内には大量のアンモニアが含まれている。イカは浮き袋をもたないため、筋肉を含む体内のハニカム構造内に大量の塩化アンモニウムを貯留して浮力をつけている。イカの仲間にはこのような種類が多いそうだ。肉に締まりがない上、ものすごく塩辛くアンモニア臭くては、とても食用にはならない。

## イヌはタマネギとチョコレートが苦手

タマネギは鱗茎を食用とする辛味と香りのあるユリ科の野菜である。加熱すると辛みはなくなり、甘みが出る。カレー、グラタン、スープといった煮込み料理になくってはならない。タマネギの硫化アリルが気化して、目・鼻の粘膜を刺激するために涙がでる。水につけながら切ると硫化アリルが水に溶けて気化し

なくなる。ヨーロッパでは古くから食用にされていたが、日本では 1878（明治 11）年に札幌で栽培されはじめた。

タマネギは人が食べても無害だが、イヌやネコなどの他の動物が食べると、硫化物（n-propylthiosulfate）が中毒をひき起こすことがある。霊長類のヒヒにもタマネギ中毒を認めたとする報告がある。還元型グルタチオンの生成を妨げることがハインツ小体性溶血性貧血の発生につながる。ただし、高感受性個体は意外に少数である。一般に、ペットにはカレーの食べ残しなどのタマネギを含む食品を摂取させない注意が必要となる。長ネギやニンニクにも要注意である。

タマネギ中毒に感受性の高いのは、Na、K-ATPase が細胞膜に大量に分布する赤血球（HK 型赤血球）を有するイヌである。HK 型イヌ赤血球は、高カリウム、低ナトリウムのイオン勾配の働きにより、細胞内アミノ酸含量や還元型グルタチオン含量が高く維持されており、ヘキソキナーゼやピルビン酸キナーゼのような酵素活性も高い。この形質は常染色体劣性に遺伝する。感受性個体にタマネギを含むウスターソースやラーメンスープを一口食べさせるだけで、翌日には高度のヘモグロビン尿をきたす。この赤血球はバベシア原虫（ダニ媒介性の赤血球感染性原虫）が発育しやすい特徴もある。

イヌやネコはチョコレートも苦手である。チョコレートに含まれるカフェイン類似物質であるテオブロミン（theobromine）が自律神経系を刺激して嘔吐、下痢、けいれんをひき起こす。テオブロミンはココア、コーラやお茶にも含まれる。イヌ体重 1 kg あたりの致死量は 250~500 mg で、製菓用のチョコレートの 20~40 g に相当する。

## サケ、生物界における物質循環の使者

サケは、淡水で生まれ、大洋で育ち、そして 2~4 年後に、大胆にも再び生まれ故郷の川に回帰してくる。サケ、マス、ウナギ、ニシンといった淡水と海水を行き来する魚たちは、特殊な体液塩分濃度の調節機構を有しているはずである。頸部の甲状腺に接して存在する小さな内分泌器官、さいきゅうたい 鰓弓体の C 細胞からは、血中カルシウム濃度を低下させるホルモンであるカルシトニンが分泌される。合成されたサケないしウナギカルシトニンは、高カルシウム血症や こつそしょうしょう 骨粗鬆症の治療薬として広く用いられている。

元長崎大学医学部解剖学の中根一穂教授が米国デンバー市にあるコロラド大学で教鞭をとられているころ、つぎのようなテーマで研究費をえたことがあると伺った。「川を遡上した雌雄のサケが産卵・射精のあと死亡するのを防止するにはどうしたらよいか」。

彼いわく、産卵・射精後に親サケが死亡するのは、急激な性腺刺激ホルモン分泌による えんし 脳下垂体壊死につづく急性の汎下垂体機能低下症が原因である。同じニシン目の魚でも、イワナやニジマスは複数回の産卵が可能である。サケのこの自殺的内分泌現象をうまくコントロールすれば、水産資源の再利用につながる可能性がある、という趣旨の研究であったそうだ。人間でいうシーハン症候群の集団治療プロジェクトである。発想の大胆さにしばし唾然としたことを覚えている。残念ながら、うまくいったという話はきかないが---

さて、サケの生態記述を中心として、地球における生命活動の多様性と循環性を論じたいへん興味深い論文にであえたので、ここに紹介させていただきたい。その論文は、京都精華大学の柴谷篤弘学長が書

かれた「サケはなぜ川を遡上するのか」(中央公論 1992年4月号、pp. 286-295)である。

サケは北の海で成長し、川を遡る。この間、淡水中では一切エサをとらず、筋肉がしだいに痩せて、逆に生殖腺が発育してくる。オスは、遡上中に吻がカギ形に長くのびるため、「鼻曲がり」と称されるそうだ。

産卵時のメスにおける卵(すじこ・イクラ)の総重量は、体重(4キロ)の18%、卵の数にして約2500個に達する。卵1個は0.3グラム、河口での稚魚は1.3グラム、すなわち、川から海へ運びだされる生体重量は稚魚一尾あたり1グラムである。稚魚の生存率は8%と見積もられている。雌雄2尾、8キロの成魚から、 $2500 \times 0.08 = 200$ 尾、すなわち、200グラムの稚魚が海に入る。これは、成魚重量のわずか2.5%にすぎない。つまり、サケは、地球の重力に抗しながら、大量の「海の幸」を、身をもって陸上に運び上げる役割を担っているとみなされる。

地球における生物生存に必要な環境条件の持続には、物質循環が必須である。動植物、微生物の形成と活動に欠かせない無機塩類、とくに、生物の代謝、遺伝、エネルギー転換や諸種の細胞機能に必須のリン酸塩は、水に溶けて地球を巡り、生物の食物連鎖を通じて流転する。重力の大きい地球では、無機塩類は、最終的には海に流失し、生物の死骸とともに海底に沈む。有機物はそこで分解され、無機物は海水に溶けこむ。

サケは、けなげにも、このたいせつな地球の幸を海底から地上に汲み上げるポンプ役を果たしていることになる。サケの死骸は、陸上動物や鳥類の食物となることを通じて、淡水水系を含む陸上の生態系に寄与するのだ。もっとも、ホッチャレと称される産卵後の個体は、美味しさに欠けるのだが——。こうした地球の重力に逆行する物質循環の担い手には、ほかに、ハクチョウやツルのような大型の渡り鳥もあげられる。

サケ・マス漁は、自然の豊饒性に対する大きな脅威となりうる。バナナを食べても、皮まで食べない。エビを食べても、頭や殻は残す。それらの幸を結局、霞ヶ浦や琵琶湖に捨てて、バナナやエビの育った土壌や海に帰さないわれわれ人間は、循環性を支えようとしないう点で、サケや渡り鳥にはるかに劣る。

生命系に敵対しないためには、サケがやっていることを人間がやり直せばよいはずである。人糞尿を下水に捨てずに田畑に返し、あるいは原野に戻せばよい。あとは、植物と昆虫と鳥たちが、重力に抗してこれを陸の高みに運びあげてくれるだろう。地球の砂漠化を防ぐ実行可能な妙案かもしれない。

なぜ、サケは淡水遡上するのだろうか。この集団的な習性が、世紀を単位とする長い期間を経て初めて、地球の生態系に有利な過程であることが実証されるのだとすれば、それには、自然選抜の概念は適応できないだろう、と柴谷教授は述べている。神の手によるランドデザインか？未知の原理が存在するのか？いずれにせよ、何とも素晴らしく魅力的な生態学説ではないか。

サケ、君たちは実に神秘的な地球の仲間だ。

(医学のあゆみ 174: 272、1995より)

## みさご

「みさご」はタカに似た肉食の猛禽類(全長60センチ前後)で、おもに魚を食べることから、魚鷹の別名もある。日本を含む世界中に分布し、とくに海岸線沿いに暮らしている。獲物を捕らえるとき、空中



でホバリングしてから一気に下降し、水面近くで脚を伸ばして両足で魚をつかむのが特徴である。みさごが岩陰に隠したために発酵してうまみを増した魚を人間が食べたエピソードから、「みさご寿司」の名が全国に分布している。ただし、実際にはみさごにそのような習性はないらしい。

みさごは英語で *osprey*。最近話題の高速で長距離を移動できる垂直離着陸機「オスプレイ」(MV-22)は、みさごのようにホバリング状態を保ったり、水面をゆったりと移動する姿から名づけられたのだろう、きっと。2016年12月に米軍基地から飛び立ったオスプレイが沖縄の海岸で不時着(?)、いや墜落した事件は、オスプレイの安全性に大きな疑問を投げかけた。オスプレイは水面着陸できる航空機ではないので、みさごのように海面に突っ込まないでほしいものだ。

インターネットによると、江戸時代から続く東京小石川のみさご寿司が2013年に閉店したらしい。ほかにも閉店するみさご寿司が見出される。オスプレイのタタリでないといいのだが。

## ハト

著者が好きな小話をひとつ。東京郊外の団地の3階に親子が住んでいた。幼稚園に通う子供が、団地の庭の方向を指して、「ママ！ハト」と短く言った。洗濯物をとりこんでいた母親はその方向をみたけれど、はとはみつからなかった。「ああ、ハトね。よかったね。」翌日もまた、子供は「ママ！ハト」と庭の方を指さす。でもハトはいない。おかしいな、と思った母親は子供の目線まで腰を下ろして庭をみた。そしてわかった。子供の目線からだ、松の木の間からイトーヨーカ堂のハトのマークがみえることを。みなさん、相手と同じ目線でものがみえる医療者になりましょう。

イトーヨーカ堂は日本では中規模都市の象徴的存在のようなデパートという印象がある。中国、北京にきて、ガイドさんに聞いた。北京市内にはイトーヨーカ堂が東西南北に4箇所あり、大型で高級感のあるデパートなのだそう。と、脈絡のない話でした。失礼。

## せみ

夏のせみしぐれは落葉樹の多い日本の特徴だろう。ボストン留学中、夏のピクニックに出かけると、林の中がしんとしていることに違和感を覚えた。ボストンにせみはいない。冬の寒さを幼虫が耐えられないためだ。アフリカでも中国でも、せみの鳴き声が周囲に響き渡ることは少ないようだ。

名古屋に移り住んだ最初の夏、関東地方とのせみの鳴き声の違いに驚いた。白状すると、名古屋のアブラゼミは名古屋弁でなまって鳴いていると思った。実は、名古屋のせみはクマゼミが多く、アブラゼミやミンミンゼミは少ない。クマゼミは羽が透き通っている上、木の高い位置にいるらしく、その姿を確認しにくい。ある虫好き病理医(T氏)にそう言ったところ、それはしろとだから見えないだけ！と一蹴されてしまった。最近、夜中にせみの鳴き声が響く。T氏いわく、水銀灯のせいだという。夜中に鳴き、アパートの明かりに寄ってくるのは、名古屋でもアブラゼミばかりのような気がする。昼も夜も鳴くのは、せみも疲れきってしまうのではないかと老婆心ながら心配している。

## トンボ

日本は「瑞穂の国」と呼ばれるように、弥生時代以来、稲作の田んぼが開拓された。この水田を発生源として、「赤とんぼ(アキアカネ)」が多数飛び交い、稲の害虫を捕食してきてくれた。トンボの古名はアキツ(蜻蛉、秋津)で、日本国はアキツシマ(蜻蛉洲、秋津島)と称された。アキアカネは代表的な人里昆虫であり、農村の原風景である。日本人の“トンボ文化”は、童謡「赤とんぼ」の根強い人気の高さからも明らかだ。

トンボは姿形がスマートで色彩・模様が美しい。水辺に生きて清涼感があり、飛びながら蚊やハエをみごとに捕食する。その勇ましさ、巧みさから、鎌倉時代以降の武士社会では、トンボは「勝虫」や「勝軍虫」と呼ばれ、武運や勝利のシンボルとして兜や陣笠の装飾にも使われた。日本人のトンボのイメージは大変良好である。一方、欧米でのトンボは形勢不利である。トンボの英語は dragonfly(竜の飛び虫)で、この竜は悪竜である。

赤とんぼ、夕焼け、田園、故郷という一連のイメージは、日本人独特のノスタルジア。コオロギの声に秋を感じ、ホタルの光に郷愁をおぼえ、セミの鳴き声に静けさを感じる日本人は、世界にまれな「虫を愛でる民族」だ。「閑さや、岩にしみ入る蝉の声。」この歌を理解できるのは日本人独特の感性なのだろう。

## ホンチ遊び

ホンチ遊びと聞いてわかるのは、横浜で育った 60 代以上の男性だけかも知れない。

ホンチとはネコハエトリという黒いクモのオスの成虫のこと。桜が終わった新緑の季節に限って、マサキの葉っぱにみつかった。1 センチ大で、ハエや蚊をエサとして捕食した。ホンチはオス同士が出会うと戦う習性があることから、マッチ箱や専用のホンチ箱に入れて、マイホンチを戦わせた。戦うときに“ケン”を振り上げる姿が勇壮だった。そう、昭和 30 年代に小学生だったわが年代の浜っ子男児のユニークな遊び、それがホンチ遊び。昭和 39 (1964) 年の東京オリンピックのころには下火になったようだ。おそらく、宅地開発が進み、ホンチが少なくなったからだろう。懐かしいローカルな思い出だ。

## 色へのこだわり:イデユコゴメ

温泉に行くたびに疑問に思っていた色がある。露天風呂などで温泉のお湯が流れでてくる場所がしばしば緑色をしている。あの色は、硫化物の沈着なんだろうなあと漠然と思い込んでいた。しかし、調べてみても、硫化鉄、硫化銅などはいずれも黒と書かれている。

あるとき、草津温泉を訪ねる機会があった。町の中央部にある湯畑の滝をみてびっくり。みごとに緑色に輝いている。温泉資料館を訪問した。そこに、緑色の理由が記述されていた。イデユコゴメという大きさ約 3  $\mu\text{m}$  の青緑色の藻が生育しているという。温泉の温度は約 50°C、pH は約 2.0。こんな劣悪な条件でも生きる植物がいたのだ。展示されている顕微鏡写真がとても美しい。

東京理科大学理学部教養学科生物学研究室の長島秀行教授にお願いして写真を送っていただいた。草津温泉はイデユコゴメの希有なる宝庫だ。

## イチョウとギンナンの話

硬式庭球部に所属した医学生時代、神宮外苑のイチョウ並木をよく走った。晩秋、走っていてギンナンを踏みつぶすとすべって危なかったし、あの独特のにおい（カルボン酸臭）がテニスシューズにつくのがいやだった思い出がある。

1994 年はじめ、JICA（国際協力機構）の短期派遣研究者として、著者はケニア国の首都、ナイロビにいた。当時の在ケニア大使は佐藤ギン子氏だった。日本大使館でのパーティーに参加したとき、佐藤氏によるイチョウの植樹祭が催された。挨拶で、“イチョウは英語で **gingko tree**、私の木です。”

実は、イチョウの英語名は **gingko** で **gingko** は誤用らしい。原産地中国で、葉の形をアヒルの足に見立てて「鴨脚」（イアチャオ）と読んだことからイチョウとなった。**Ginkgo** の学名は銀杏（ギンキョウ）由来である。北米や南米の温帯地域にも分布するが、本来アフリカには分布しない。ヨーロッパには、日本誌の著者、ドイツ人医師のエンゲルベルト・ケンペル（1651～1716 年）によって、1692 年にギンナンが長崎の出島から持ち帰られ、ドイツを中心に植えられた。1817 年、かのゲーテが「銀杏の葉」という恋愛詩を残している。発音しにくい **gingko** は、どうやらケンペルが **ginkjo** を **gingko** と誤記したことに由来するらしい。

ちなみに、イチョウは英語で **maidenhair tree**、「娘（**maiden**）の毛の木」とも呼ばれる。女性の陰毛を前から見た形に葉の形がよく似ているためだそう。不思議なことに、イチョウは広葉樹でなく、針葉樹の仲間に分類されるそう。

イチョウは、日本では街路樹としてよく見かける雌雄異株の大型樹木である。日本に薬種として伝わったのは室町時代で、おもにお寺に植えられた。火に強い性質があるため、江戸時代、火除け地によく植えられた。神奈川県出身者としては、鎌倉、鶴岡八幡宮の大銀杏が当時からあったと信じたい。1219（建保 7）年 1 月 27 日、源頼家の子、公暁がこの銀杏の木「隠れ銀杏」で待ち伏せて源実朝を討つたとされる。しかし、樹齢を考えると、当時まだ人が隠れるほどには成長していなかった——。1955（昭和 30）年、この大銀杏は神奈川県の天然記念物に指定された。2010（平成 22）年 3 月 10 日 4 時 40 分、強風にあおられた大銀杏は根元から倒れた。3 月 15 日、根元から高さ 4 メートルまでが、近くに移植された。平成 24 年、元の根から新たな「ひこばえ」（若芽）の成長が確認された。頑張れ！

日本三名城の一つ熊本城の別名は「銀杏城」。北九州と熊本を結ぶ高速バスの愛称は「ぎんなん号」。イチョウは熊本市の市の木に指定されている。そういえば、ケニアでは“くまもと”さんはちょっとばかり名乗りにくい。みんながクスクス笑う。スワヒリ語で、“クマ”は女性の陰部、“モト”は熱いの意味だから。失礼。

ギンナンの生産量日本一は愛知県稲沢市（旧：中島郡祖父江町）である。明治期の終わりに、この地でギンナンの収穫を目的としたイチョウの栽培が始まった。栽培品は、接ぎ木で生産されたそう。ギンナンには、ギンコール酸が含まれ、かぶれ（皮膚炎）の原因となる。イチョウの乾葉が防虫剤に使われる理由でもある。イチョウの葉をお茶にして飲んではいけない。一方、イチョウの葉エキスは日本（佐渡島や群馬県）やヨーロッパでつくられ、認知症予防薬、血管拡張剤あるいは遅尿剤（夜トイレに起きない）として使われている。フラボノイドの効果とされる。ギンナンの実にはビタミン B6 の拮抗剤である 4-O-M

チルピリドキシンが含まれている。ギンナンを大量に食べると、ビタミン B6 欠乏から GABA の生合成が阻害され、けいれんの原因となりうる（ギンナン中毒である）。

イチョウは、ソテツや針葉樹類と同じく、種の胚珠がむき出しとなっている“裸子植物”に分類される。被子植物と違って、むき出しの胚珠に花粉がつくことで直接受精するので、裸子植物に果実はできない。裸子植物のうち、イチョウとソテツでは花粉の中で精子がつくられる点が特徴である。

イチョウでは、雄の木由来の精細胞は、花粉を飛ばすことで、水の媒介なしに雌の木に到達する。雄花由来の花粉は、雌花の胚珠先端部の花粉室で数ヶ月間保持される。その間に胚珠は径 2 センチに肥大、花粉管は雌の造卵器の近くまで延びるとともに、花粉内では数個の精子がつくられる。秋になると精子が放出され、花粉管から卵子のある造卵器へと水をためた胚珠の中を泳いで入り、受精が完了する。イチョウの精子は、一端に線毛が多数生えた丸っこい細胞で、水の中を猛スピードで泳ぐことができる。

被子植物では、花粉管が卵まで直接到達するため、精子をつくる必要がない。生物は本来、水という媒体を使って生殖するが、被子植物では、花粉管の中の原形質流動によって精細胞を卵細胞に注入するように進化した。イチョウは、新しい花粉方式を採用したものの、精子で受精する古い方式をまだ捨て切れていない発展途上植物ともいえよう。

裸子植物であるイチョウにおける精子の存在をはじめて明らかにしたのは、東京帝国大学理科大学（現、東大理学部）植物学講座の平瀬作五郎だった。今から 120 年前の 1896（明治 29）年 4 月、東京植物学会で「イテフの花粉管の中の精虫について」を発表した。小石川植物園のイチョウの木に登り、ギンナンの実をとっては調べることのくりかえしの中での成果だった。実は、ギンナンの中に精子が確認できるのは、秋の日のわずか 24～36 時間の間に過ぎない。精子がうまくみつかる確率は相当に低い。

恩師、池野成一郎教授（東京帝大農科大学、現、東大農学部）との共著（和文、独文、仏文、英文）で、平瀬の発見したイチョウの精子はついに世界中の植物学者の知るところとなった。平瀬は植物学教室に画工として採用された福井市生まれの人物であり、福井藩中学校（現、福井県立藤島高校）までの学歴しかなかったが、1912（明治 45）年、池野とともに、荣誉ある帝国学士院恩賜賞を受賞した。

## 4. ことばあそび

### チャイ

チャイとは、タイ語やスワヒリ語でお茶をさす。スワヒリ語には、チャイにもうひとつの意味がある。1993 年末に JICA（日本国際協力機構）の短期専門家としてナイロビに滞在した。その到着第一日目の最初の仕事(?)の話だ。ナイロビで単身暮らしてゆくには、車の免許がないと何かと不便だ。当時、ケニアは国際免許証が通用しない国だった。当地の秘書に免許を取得するにはどうしたらいいか相談した。話は早かった。有効でないはずの国際免許と 1,000 シリングでよいという。1,000 シリングは約 1,600 円だが、半分は自分に、残り半分は役人に渡すらしい。つまり、チャイ（賄賂）がものを言うのだ。確かに、翌日仮の運転免許証が手元に届いた。本物の赤い免許証は、ナイロビを去る直前の 3 か月後に入手できた。ど

うやら、ケニアは大統領から下級官僚に至るまで、チャイが着実に有効な国らしい。

## 東海 3 県

東海 3 県は、愛知、岐阜、三重をさす。全国放送の天気予報でも、東海 3 県としてよく紹介されている。現実に名古屋地方では、「中京」よりも「東海」の呼称が好まれている。でも、東海大学に長く在籍した神奈川県出身者として、著者にはこれがどうしてもナツクがいかない。

東海大学の名は、静岡県の清水市(現、静岡市清水区)に最初の校舎ができたことによる。関東の人間にとって、東海地方は東海道の走る神奈川県から静岡県にかけてをさすイメージが強い。JR 東海の守備範囲である愛知県は仲間に入れてあげてもよい。以前、「東海大地震」の注意報が出されたのは、神奈川県西部から静岡県東部にかけてだった。東海大地震は、神奈川県西部に本拠地のある東海大学の直下型地震だとよく冗談に言われた。静岡県東部の伊豆半島は東海バスの営業地域だ。

現在、東海道が通らない三重県や海のない(そして旧東海道が通らなかった)岐阜県を東海地方とするのは相当の抵抗感がある。はてさて、皆さんの意見はいかがだろうか。

## 牧師と司祭

牧師 *pastor* は、キリスト教プロテスタントの教職者をさす。カトリックやロシア正教(ハリストス教会)では司祭 *priest* (神父 *father*) と称する。司祭と異なり、牧師は結婚が許され、女性牧師が存在する。日本にはとくに女性牧師が多い。牧師は教会の責任者だが、教会内部では聖職者とよばれない。牧師を会衆と区別して特別視しないためである。

## 孫の手

“麻姑(まこ)”とは、漢の桓帝時代の若くて美しい仙女の名。麻姑は鳥のように長い爪をしており、その爪で背中をかくされると快感この上ないといわれた。先端を指の爪に形どった例の竹製の小道具“孫の手”のネーミングはほんのしゃれ心。別名、爪杖あるいは如意。かの井原西鶴もこう詠んでいる。“お肌に添へしあはれ麻姑の手”。

“馬子にも衣装”をずっと“孫にも衣装”と思い込んでいたのに気づいたのは高校生のころだったか。“まごつく”や“まごまご”も孫とは無関係ですよ。これ恥づかし。原典を調べないで、他の書物の引用文献をそのまま引用することを、いったいだれがいつ“孫引”とよんだのであろう。これ、いい得て妙。そういえば、“万引き”はなんでもかすめとるから？それとも何万円分も盗みとるから？

ネコがババ(糞)をした後、足で砂をかけて隠すことから“猫糞”が生まれた。“かまぼこはトト(魚)か?”と当然知っていることを知らぬ振りをする“ぶりっ子”は古典的には“カマトト”と称された。

脈絡がなくて申し訳ないが、中学校のころの試験で、織物の布地を意味する言葉“きじ”を漢字で書け、という問題がでて、結局わからずに、とても悔しい思いをしたことを突然思い出した。国語辞典を何気な

くみていで完璧”という言葉に目がいったからだ。いまのいままで“完璧”だとばかり思い込んでいた。“璧”を無事に取り戻すという中国の故事に因んだ言葉だったので、失礼しました。

“ぼや”は小火と書くらしい。古語辞典によれば、“ぼやぼや”は火が燃え上がるさまを形容する言葉だったとか。ついでながら“ほやほや”は笑うさまを指したそう。 “にこにこ、ほやほや、会釈こぼして御きげん取り”と近松門左衛門が使っている。新婚ほやほやのときも笑いは絶えないであろう。

最近の医学生は“ビーコン”という“医学用語”を知らない。ドイツ語の *wiederkommen* (またいらっしやい) の略で、再試験のことだったのだが、いまや死語に近い。ちなみに、再々試験のことはわれわれは“トリコン”と称した。“ビー”が *bi* (2つの意) なので、つぎは *tri*、そして *tetra*-コンと続く。“クラ討”に至っては完全な死語だ。学園紛争、学生のストライキなど過去の歴史となった今日、大学ではクラス討論会などとは行われぬ。

以前、ある留学生から聞いた。日本語のあいさつには7つ(?)の“お(ご)……さま”があるのだそう。お疲れさま、ご苦労さま、ご馳走さま。さて、あとなんでしょう？

(医学のあゆみ 178: 240、1996 より)

## 7つの挨拶ことば

日本語には、「お(ご)……さま」というパターンの挨拶ことばが7つある、と外国語大学で教えてくれるそう。つまり、(1)お疲れさま、(2)お世話さま、(3)お待ちどおさま、(4)お粗末さま、(5)ご苦労さま、(6)ご馳走さま、(7)ご愁傷さま。言われてみれば、なるほどである。「お疲れさま」は誰にでも使えるが、「ご苦労さま」は目上の人に使ってはいけないのがルール。単独で挨拶には使わないが、「おかげさま」や「ご面倒さま」といった言い回しもある。

筆者には日本語らしい感性のことばたちを感じるが、みなさんの意見やいかに。

## 美化語

「お二人さま、お二階へご案内」は OK だが、「お五人さま、お三階へご案内」はバツ。外国人留学生にはとてもとても難解な日本語表現である。

美化語は以前、丁寧語と称された。2007年に文化審議会が敬語を分類し、美化語を尊敬や謙譲を表す場合と区別した。漢語には「ご」、和語には「お」をつけ、外来語にはつけないのが原則である。女性詞を特徴づける側面が強い。

ご来店、ご気分、ご招待、ご機嫌、ご挨拶、ご理解、ご協力、ご連絡など、「ご」は漢語につける場合が多い。しかし、「お」の使い方には例外が多い。酒には「お」をつけるが、焼酎やワインにはつけない。米、醤油、味噌、酢にも「お」がつく一方、麦、油やマヨネーズにはつけない。最近、「おビール」や「おソース」も耳にする。おみ足やおみおつけなどは美化語に極みといえそう。お電話、お天気、お茶、お砂糖、お菓子、お茶碗、お食事はいったい例外的使用法なのだろうか。お手洗い、お手紙、お名前、お買物、ご主人やご婦人といった言い方を含め、美化語は現代版「女房詞」の代表格だ。女性たちはよくおりボン、

お風呂、おトイレ、お車を使うが、おバスとは言わない。お受験も一般化した感がある。刺身を「お造り」と言い表したのは、縁起の悪い言葉を忌み嫌う女性武家社会の名残かもしれない。一方、おなか、おやつ、おにぎりやおはじきの「お」やごはんの「ご」は一体化した言葉として、もはや切り離せない。

こんな解析もある。日本語は4音節が安定して発音しやすい。「つまみ」は「おつまみ」に、「さしみ」は「おさしみ」となるが、もともと4音節の「突きだし」や「かまぼこ」には「お」がつかない。4音節以上の言葉に「お」をつけるときは、おじゃが、おさつ、おでん、おいた、おかきなど、後半を省略することが少なくない。

お返事とご返事、お入り用とご入り用、お住所とご住所、お葬儀とご葬儀など両用される場合は、話し言葉で「お」、書き言葉では「ご」が使われやすい。心配、注文、連絡に「お」をつけても間違いとはいえない時代が近いかも知れない。「ご」は固い語感をもつため、柔らかくひびく「お」が美化語には向いているからだろう。

幼児語としての使い方も重要だ。「お外」、「お歌」や「お迎え」は分かりやすい。「おめめ」、「おみみ」、「おはな」、「おくち」、「おかお」など「お」をつけることで話しやすくなるらしい。幼稚園や保育園で3音節なのに「お」をつけないのは積み木くらいだろう（お絵かき、お遊戯、お砂場など日常的だ）。お日さま、お月さま、お星さまなどは、幼児語であるとともに、大切なものに対する親しみと敬意を込めて表現ともいえる。

童謡や唱歌でも美化語の使い方は多様である。おうまの親子は登場するが、いぬのおまわりさんに「お」はつかない。「肩たたき」では、“かあさんお肩をたたきましょう”、“お縁側には日がいっぱい”となかなか難しい。童謡「どんぐりころころ」（大正期につくられた唱歌）には、“お池にはまってさあたいへん”や“やっぱりお山が恋しいと”という歌詞がでてくるが、最近ではあまり使われない言い方になっている。

## 感嘆詞考

2015年のイグ・ノーベル賞文学賞は、オランダの言語学者、マーク・ディングマンズ（マックス・プランク心理言語学研究所）のグループによる「huh?」の研究が受賞した。相手の言っていることがわからないときに口にする感嘆詞「ハア？」が世界共通であることが初めて突き止められた。相手に聞き返し、意味を明確にする役目を果たす。ただし、日本語の「ハア？」は最近ずいぶん意味が変わってきている。とくに「ア」の語尾を上げる場合は、決して聞き返しでなく、否定的な批判であり、「黙れ！」の意味すらもってしまう。日本語の「ハア？」は、聞く耳をもたない態度、対立のニュアンスを含むので、かなり悪質である。

「ああ」と「ah」「aha」、「おお」と「oh」、「えー」と「uh」、「うーむ」と「hmm」、「わおっ」と「wow」「whoa」などの感嘆詞も日本語と英語の間で共通性が高い。「おーっと」と「oops」も似ているかも。

日本語の「クソ！」と英語の「shit!」も相通じる意味をもつ。黙って！の合図である「シーツ」は英語では「hush!」。何となく似ている。日本語の「やーい」と英語の「yah!」も、あざけり、憎しみ、挑みのニュアンスが共通である。日本語の「うっ！」と英語の「ugh」はともに嫌悪・侮り、恐怖の発声である。「チェッ！」の方がニュアンスは近いかも知れない。アイルランドの作家、ジョナサン・スィフトがガリ

バー旅行記(1726年刊)の第4話の中で造語した”yahoo”は人間の形をした醜い動物のことだが、yah + ughの合成語である。本来、無作法者、武骨者の意味だったが、今では、インターネットのポータルサイトとして一世を風靡している。

相手の気分をよくする感嘆詞、最も短い日本語の褒め言葉は、ヨッ！とオッ！だろう。「ヨッ、大統領！」は多少の皮肉が混じる。「オッ、いいね！」の方が素直な褒め方かもしれない。英語では、Tsup? (What's up? の短縮形) が近いだろうか。

## もったいない話

もったいないは、「勿体(もったい)」を「無し」で否定した語。「勿体」は本来「物体」と書き、「もったい」と読むのは呉音である。「物体」は物の形、物のあるべき姿の意味から派生して、重要な部分、本質的なものを意味した。「もったいない」は妥当でない・不屈きから、「自分には不相応である」の意味となった。転じて、物の本来あるべき姿がなくなるのを惜しみ、嘆く気持ちを表すようになっていった。

ケニア出身の環境保護活動家であり、2004年に環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ氏(Wangari Muta Maathai)が、日本語の「もったいない」の考え方こそ、環境問題を考えるにふさわしい精神であると唱えた。「もったいない」の概念を一言で表すことばは他の言語に存在しないそうだ。彼女は現在、『MOTTAINAI』を世界共通言葉として広めようとしている。

## ちゅうちゅうたこかいな

「ちゅうちゅうたこかいな」って知ってるかな？ “にのしのろのやのとお”(2の4の6の8の10)と同じ、江戸期から伝わる数え歌である。「ちゅう」は双六用語である「重二(ちゅうに)」が変化したもので、二が重なるから4のことをさす。“ちゅうちゅう”4が二つ重なるから8のことで、「8だったら、たこの足ですか♪」と歌っている。「ちゅう・ちゅう・たこ・かい・な」と、全体を五つに区切って歌い、10個を数えている。

実は、この不思議な数え歌ができたのは元禄のフリーセックス華やかなりし時代だった、と筆者が読書ずきな高校生だったときに図書館で借りた歴史本で学んだ。子どもたちが、昼間からちゅうちゅう接吻している男女をみて、タコみたいとはやし立てたのがもたらしい。当時の民家は、プライバシーを守れるような構造ではなかった。それをもっともらしく解説したのが、上の双六用語説なのだ。

幼児が数え方を覚える過程で「ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつー」に続いて、「いっこ、にこ、さんこ、しっこー」と言うのと同じように、何ともほほえましい。

## 教育とは

教育は文字通り、「教え育てる」ことだが、日本の学校では、教師が上から生徒・学生に知識や技術を「教える」(教え込む)といったニュアンスが強い。教育の現場では「育てる」ことをつい軽視しがちだ。



Education（教育）の語源はラテン語のエデュカーレ（educare）であり、本来「引き出す」という意味である。「教育」とは「その人自身が有する能力、素質、やる気を引き出す」ことが目的なのだ。エデュカーレを英語読みするエデュケアが、自らの内なるものを育て、自らの変容をめざす「靈性修行」（自らの人間的価値を引き出すこと）の意味で用いられる場合もある。面白いことに、最近、educationとcareを合成した新語の意味でeducare（エデュケア）が使われることがある。特に、幼児教育用語として強調される傾向がある。

胸腺はTリンパ球の教育の場だが、その教育はとても厳しく、大部分の生徒は脱落してしまう。残された精鋭部隊はじっくりと育てあげられる。

## お箸

「はし」という日本語は、向こうとこちらの2つの世界をつなぐ橋渡しの役目をもつ道具に使われている。端と端をつなぐ「橋（はし）」、高いところを地上とつなぐ「梯子（はしご）」、そして、神さまのものである食事と人の口をつなぐ「お箸」。

古来、食事のとき、お箸には神さまが宿ると考えられた。竹が神さまと人＝者をつなぐことから、この道具は「箸」と呼ばれるようになった。ちなみに、「箸」の漢字は、平成 22.11.30 の改訂「常用漢字表」に追加された新参者だ。者に点を打つのが本来だが、点を打たない「はし」も正解だそうだ。

自省を込めて、マナー違反のお箸の使い方、「嫌い箸」を少し紹介しよう。空箸：一度取った料理を元に戻す。刺し箸：お箸を料理に突き刺す。涙箸：箸の先から汁を垂らす。洗い箸：食器の中で箸を洗う。寄せ箸：箸で食器を引き寄せる。二人箸：二人一緒に料理を挟む。違い箸：種類の違う箸を一緒に使う。迷い箸：どの料理を食べようか迷って、箸を料理の上であちこち動かす。探り箸：汁物を箸でかき混ぜて中身を探る。直箸：取り箸を使わずに、料理を自分の箸で取り分ける。すかし箸：骨のついた魚の上側を食べたあと、魚をひっくり返さずに、骨越しに裏側の身を食べる。

## 陽出ずる国は「アップ」好き

日の出 sunup、腕立て伏せ push-up、逮捕 pick-up、みがき・身繕い brushup、留置場 lockup、賛成 thumbs-up、氷結 ice-up は立派な米語だ。正装 dress-up、加速 speed-up、後援 backup、提携 tie-up、準備運動 warm-up、お手上げ give-up は日米共通語。化粧 makeup (メーキャップ) には、学生用語で追試験という意味もある。クローズアップ close-up の発音は間違い。閉じる (クローズする) わけではなく、近い (クローズ) が正しいので、英語の発音はクローサップとなる。

一方、アップのつく日本語には和製英語が少なくないことをご存知だろうか？陽出ずる国の人々は「アップ」が大好きようだ。Native speakerに通じない代表的な和製アップ語として、ベースアップ、ライトアップ、イメージアップ、グレードアップ、レベルアップ、パワーアップ、スケールアップなどが代表的だ。レベルやパワーが「アップする」という動詞化や「アップにたえる」という名詞化も日常語化している。スポーツ用語でも和製品が少なくない。名詞に up はつけないので、英語にはヘッドアップという単語は存在し得ない。タッチアップも和製造語だ。ウォームアップする意味の「アップする」も日本語として定着している。クリーンナップ cleanup は日本では3番から5番の3人の強打者トリオを指すが、大リーグ語では4番打者のみである。Cleanup はもともと、大掃除や一掃 (肅正) を意味するが、米語では「一件落着」や「大もうけ」という意味でも使われる。

日本語の寛容さを示す例としてすばらしい！と解釈すべきなのかもしれないが、国際語としての英語とのズレを危惧したほうがいいかもしれない。ただし、米語は英語ともズレている。以前、米国留学中に英国ウェールズ出身でお二人のお子さんの母親でもある女性研究者からこんな話を聞いた。彼女が米国に初めて入国するとき、審査官から “How many kids do you have?” と聞かれた。一瞬きよとんとしたあと、“Of course, I don't have any kids!” と答えた。Kids は英国ではヤギの仔をさす。

近畿キッズという関西出身の人気歌手のお二人には申し訳ないが、英語で kinky kids と響く。“kinky” は髪の毛がよじれるという意味の形容詞だ。kinky hair disease という髪の毛がよじれるのが特徴の先天性銅代謝異常疾患がある。kinky には実は、「性的によじれた」という米語のスラング用法がある。Pink lady (文法的には pink ladies) と同様に、米国ツアーでは大きな誤解を受けそうだが——。近畿大学の関係者にもお叱りを受けそうだ。

やはり、英語は本来の意味や用法を知ったうえで、国際常識を超えない範囲で使うべきだろう。皆様のご意見やいかに。

## にほんとなつぽん

パピペポで始まる日本語の単語はほとんどない。例外は、パン、パンツ、ピアノ、ポルノなどの外来語と、ぱったり、ばらばら、ぷつつん、ぷよぷよなどの擬音語・擬態語くらいだろう。単語の中でも「っ」や「ん」のあとの発音が例外的にある程度。たとえば、出発、原発、反発、真っ昼間、真っ裸。

小倉百人一首をみても、“いろは歌”でも、濁音 (゛のつく音) や半濁音 (゜のつく音) の表記はない。濁点つきひらがなが普及し出したのは江戸時代だが、明治憲法の文章にも濁音や半濁音の表記は見当たらない。

濁音・半濁音の表記は戦国時代に来日したポルトガルの宣教師が日本語を表記するのに「ㇿ」や「ㇼ」をつけたのが始まりとされている。一方、現在「っ」で表現される促音が「つ」で表現されるようになったのは室町のころだが、当時は小さい「っ」でなく、大きい「つ」で表現された。「ㇿ」や「ㇼ」、そして「っ」の表記を含めて、日本語の文章に現在のスタイルが定着したのは、第二次世界大戦後の1946年に制定された「現代かなづかい」だった。最終的に確定したのは1986年の「現代仮名遣い」だったというからちょっと驚き。

そもそも、日本語のハ行音「h」は、古く平安時代はバ行「p」で、室町時代にはファ行「f」だった。ひよこは「ぴよこ」から「ふいよこ」を経て「ひよこ」に至った。破裂音である「p」の発音にはエネルギーが必要なため、徐々に言いやすい発音に変わっていったということらしい。歌舞伎の演目、「暫」(しばらく)という演目では、「しばらく」では響きが弱いので、「しばらくぷ」と発声するそうだ。

日本は「にほん」か「にっぽん」か？ 奈良・平安の時代にはニポンと読んだだろう。当時、促音の記述表現もなかったもので、実際には「ニッポン」と読まれた可能性が十分にある。マルコポーロの「東方見聞録」(1544年、室町時代)に書かれたジパング Zipangu (日本国)、現在の英語やドイツ語の Japan をみても、当時の中国(元)で、日本をニッポンに近い言い方で読んでいたと想像される。日本橋は、東京の「にほんばし」より、大阪の「にっぽんばし」の方が由緒正しいのかも知れない。

## 浅間神社

中学生のとき、同じくクラスに障害をもつ同級生がいた。背が小さく、手指に異常があった。同級生みんなで一生懸命面倒をみていた。成績が悪かった彼に、教えることはあっても教わることはない、と上から目線で差別していたこともまた確かだった。あるとき、そのことにハッと気づかされた。横浜市西区に浅間町という町があり、浅間下という大きな交差点がある。これを私は“あさました”と読んだ。すると。となりにいた彼が、「違うよ。“せんげんした”って読むんだよ」と教えてくれた。

ちょっと調べてみると、浅間町は、名古屋市、さいたま市、平塚市。府中市、東久留米市、静岡市、沼津市、そして富士宮市など、東日本の各地に点在する。

浅間(あさま)の大神を祀る浅間神社は、静岡県富士宮市(駿河国)にある富士山本宮浅間大社を総本宮として、静岡、山梨、長野、関東を中心とした東日本の各地に計1,300社ある(広島県尾道市と北海道松前町にも浅間神社がある)。甲斐国(山梨県)でも、笛吹市の浅間神社、富士河口湖町の河口浅間神社、市川三郷町の一宮浅間神社が古社として認められている。現在、富士山本宮浅間大社と河口浅間神社は富士山の世界遺産構成資産に登録されている。「浅間」とは火山を指し、富士山信仰に基づいて、富士山が神格化されている。あさまが古称で、せんげんは中世以降に用いられるようになったらしい。

富士山本宮浅間大社の奥宮は富士山頂にある。本宮境内にある湧玉池(わくたまいけ)は、富士山の地下水がこんこんと湧き出る水量豊富などとても美しい池である。釣りが禁止され、しかも観光客による餌づけが日常的なため、まるまると太ったコイやマスが悠々と泳いでいるのが印象深い。

面白いことに、浅間山、旧浅間町(現佐久市)や松本市の浅間温泉は“あさま”と読む。浅間神社でも、例外的に“あさま”と読む神社は、例外なく、富士山より北に位置する。浅間山信仰の影響なのかも知れ

ない。

## 元患者とアボリジニ

「啓蒙」(蒙古人を教え諭す)は差別用語とされ、「啓発」に言い換えるとよい。ゆめゆめ、バカチョンカメラなどと言ってはならない。「らい」は、日本におけるその悲しい歴史から、「ハンセン病」に置き換えることが望ましい。一方、英語の **leprosy** に差別的ニュアンスはない。らい者を意味する **leper** には、戦時中にアメリカで使われた **Japs** と同様の差別感が強い。

乳がんの組織型の一つ、浸潤性小葉癌では、小型のがん細胞が一行に並んで増殖・浸潤する特徴がある。これは、病理組織学的に **Indian filing** と表現されてきたが、差別的ニュアンスがあるという点から、現在はとも使いにくくなっている。でも、さすがに **Native American filing** とはよばない。

ハンセン病訴訟では、ハンセン病の後遺症で障害の残る人たちを「元患者」とよんだ。確かに、すでにらい菌は駆除され、感染源となることはない。私見だが、この新しい用語はハンセン病以外で使われることはなく、却って差別的に響く可能性がある。がん患者は治療後5年たつと治癒したとみなされるが、いつまでたつてもがん患者であって、「もとがん患者」とはよばない。「告知」ががんという病気に限って使われ、いやな、ネガティブなニュアンスをもつと同様に、特別な言い回しはやめた方がいいのではないだろうか。

以前、オーストラリア東部の大都会、ブリスベンにあるクイーンズランド文化センターを訪問した。オーストラリア大陸の原住民、アボリジニの文化が展示されていた。そこではじめて、アボリジニが **aboriginal** と綴ることを自覚した。強烈な印象だったのは、入り口近くにあった売店に宣伝されていた **Tim Tam Original** というビスケット菓子。Ab-とは、**abnormal**、**abuse**、**abduct** や **abroad** など、“離れた”を意味する接頭語である。本来は **original** なはずなのに、彼らの呼称にあえて **ab-** がつけられている！お菓子の方が正統で、原住民は非正統のように思える。差別用語ではないかと感じて、地元の人たちに問いかけてみた。彼らにはそのような感覚は全くないようだったが---

## 邪(よこしま)のよこ、横浜のよこ

たて(縦)は糸偏なのに、よこ(横)は木偏。ちょっと不思議。ちょっとだけ、そのルーツをたどってみよう。

縦は「従う糸」と書き、織物に重要な“縦糸”を表わす。横は、どうやら古代中国で、門(かんぬき)に黄色い木を用いていたことに由来するそうだ。言うまでもなく、門は門に横位置にかけ、行く手を阻む。

門が自由な通行を妨げることから転じて、ネガティブな意味に使われることが多い。よこしま(邪)、横やり、横みち、横はいり、横恋慕、横暴、横領、横着など。

私のふるさと「横浜」は、江戸期には東海道神奈川宿の南の外れにある、ちっぽけな寒村(漁村)だった。“横の浜”にはきっと、単なる横にある浜という意味だけでなく、使い道のない浜というネガティブな意味が込められていたに違いない。現在の「横浜」ブランドとはかけ離れたルーツといえよう。

## 苗字の妙

だいぶ以前になるが、姓の「格」について先輩医師が嘆いていた。その先生の名前は「細田」。彼曰く、同じ田がつくなら、せめて広田か大田がいい。細田や小田じゃあねえ。隣にいた「倉持」氏の格に到底かなわないと…。筆者（横浜出身）の名前の「堤」の場合も、祖先は鶴見川の土手（堤）のあたりに住んでいたに違いない。

日本人の姓には「田」か「藤」のつく場合が多い。田んぼは弥生人の原点なのだから当然だろう。日本人の姓や地名の多くは訓読みである。音読みする姓は仏教あるいは公家関連と推測される。「藤」は明らかにかの藤原氏由来。藤原、藤田など、藤が頭につく場合は”ふじ”と訓読みするが、佐藤、加藤、斎藤、伊藤、内藤、江藤、後藤、遠藤など、藤があとにつく場合の多くは”トウ”と音読みする。

たとえば、「佐藤」の「佐」は律令制の官職で、「佐の藤原」に由来する姓である。当初「佐藤」を名乗った人とその子孫は藤原氏と関係があったといえる。しかし、○藤という苗字を名乗っていても藤原氏の子孫とは限らない。佐藤さんに仕えていたとか、同じ場所に住んでいたのだから佐藤を名乗るようになった人は数多からう。

江戸時代、「徳川禁令考」によって、百姓と町人は姓を名乗ることが禁じられていた。明治になって「戸籍法」が制定され、すべての人が名字をもつようになった。ただし、名乗れなかったのは江戸時代の300年間で、それ以前には姓があった。江戸時代でも一般庶民は、公式には姓を名乗らなくても、屋号、地名や職業が実質的に姓の代わりをしていた。高田屋嘉兵衛、紀伊国屋文左衛門などがその代表。愛知県瀬戸市には加藤さんばかりが住んでいる集落がある。群馬県嬭恋村では、墓石がことごとく黒色で、大部分が黒岩と掘られている。

「三枝」は”さえぐさ”だが、山梨県では”さいぐさ”と読むことが多い。もとは、三つ股に分かれる「咲き草」、つまり百合（神武天皇の妃を象徴する花）を意味した。「服部」（“はっとり”）のもとは、服織部（はたおりべ）。これが“はとりべ”さらに“はっとり”に変化した。変化の過程で「織」が抜け落ちた。

以前、言語学者、金田一春彦先生の講演会を聞いていて学んだこと。大豆生田（おおまみゅうだ）という姓がある。これが、日本語で唯一”みゅ”という発音を含む日本固有のことばなのだそうだ。日本語の発音パターンは世界一シンプルといえる。なるほど。

「苗字」「珍しい」でネット検索すると、珍苗字が出てくること。浮気（うきぎ）、官能（かんのう）、鼻毛（はなげ）、御手洗（みたらい）、醤油（しょうゆ）、鰻（うなぎ）、鮫（さめ）、丸（いちじく）、可愛（かわい）、姫（ひめ）、恋中（こいなか）、香水（かすい）。日本人は30万種に及ぶ多種多様な姓をもつそうだが、さすが、バラエティーがありすぎ…。

ちなみに、姓の種類が一番多いのはアメリカ（150万種）、第2位がイタリア（35万種）で、日本は第3位だそうだ。中国は4000種、韓国は250種（金・朴・李だけで半数以上）。ミャンマー人は姓をもたない。姓の代わりに、生まれた曜日を名乗るそうだ。水曜日だけは、午前と午後で違うので、計8種類。あまりにシンプルだし、家族で違う姓をもつことになる。私の知り合いのミャンマー人はそれではやりにくいというので、三兄弟はみな、長男の曜日に合わせて名乗ることにしたとか。

## 囲碁用語

囲碁は6世紀ごろ日本に伝わった。無類の囲碁好きだった徳川家康が名手に報酬を与えることでわが国初の「プロ棋士」が誕生した。まもなく、本因坊、安井家、井上家、林家の家元四家が確立、庶民にも広く普及した。将軍の前で家元同士が対局する「御城碁」は220年続いた。落語「碁泥」は江戸庶民の囲碁への熱中ぶりがよく表現されている。囲碁対戦中の二人。泥棒が入っても気づかず、ついに泥棒も対局に首を突っ込む。泥棒だと名乗っても「よくおいでだね」と気にもとめない。まさに忘我の夢中状態だ。

普段何気なく使う言葉の中に、囲碁用語がけっこう含まれている。ダメが代表だろう。駄目は無駄な目のこと。「結局」は囲碁の終盤戦を意味する。当初、強い人が黒石、挑戦者が白石を打ったため、玄人（くろうと）と素人（しろうと）の語が生まれた。上手（じょうず）は、江戸期に名手本因坊道策が段位制を整えたとき、九段を名人、七段を上手と呼んだそう（下手はなかった）。

八百長は明治期にできたことば。八百屋の長兵衛さん、略して「八百長」は囲碁の名手だった。囲碁仲間の伊勢の海五太夫に八百屋の品物を買ってほしいので、ときどきわざと負けて機嫌をとっていた。手抜きも囲碁用語。相手が次はここに打ってほしいと促したときに、そこに打たないことを言うそう。というわけで、プロ棋士はまず手抜きから考えるのだそう。そのほか、捨て石、布石を敷く、一目置く、先手をとる、後手に回る、白黒つけるなども囲碁用語だ。定石、手筋、目算、活路、死活も囲碁由来である。

野球用語に先制点、中押し、ダメ押しが使われる。長嶋茂雄氏が新聞でみた「中押し」を野球でも使える表現としてコメントに使い出した。記事にルビがなかったため、長嶋氏は「なかおし」と誤読してしまった。囲碁では中押しは「ちゅうおし」と発音する。相手が途中で負けを認めて投了すると「中押し勝ち」となる。

## いろはカルタ

いろはカルタ（いろはガルト）は、江戸時代後期に始まったカルタの一種（カルタはポルトガル語の「carta」（カードの意味）に由来し、漢字では「歌留多」と書く）。いろは47文字に「京」の字を加えた48字を頭にした文字札とことわざの内容を絵解きした絵札の計96枚が一組となった遊具である。おもに、子どもたちが正月に遊んだ。南蛮文化として渡来したカード遊びであり、よく賭事に使われたため、江戸時代にしばしば禁制処分になった。

江戸版、京都版、大阪版の3種が有名である。時季を彩る言葉遊びを比較すると、それぞれの街の文化や考え方が反映されていてなかなか面白い。総じて、江戸はクール、京都は教訓的、大阪は実務的に感じられる。名古屋の尾張いろははほぼ大阪版に準じている。

「い」は、江戸では”犬も歩けば棒に当たる”、京都では”一寸先は闇”、大阪では”一を聞いて十を知る”

「ろ」は、江戸では”論より証拠”、京都と大阪では”論語読みの論語知らず”

「は」は、江戸と大阪では”花より団子”、京都では”針の穴から天を覗く”

「ち」は、江戸では”塵も積もれば山となる”、京都と大阪では”地獄（ちごく）の沙汰も金次第”

「わ」は、江戸では”割れ鍋に綴じ蓋”、京都では”笑う門には福来たる”、大阪では”若い時は二度ない”  
「た」は、江戸では“旅は路連れ世は情け”、京都では“立て板に水”、大阪では“大食（だいじき）上戸の餅食らい”

「ね」は、江戸では”念には念を入れよ”、京都では”猫に小判”、大阪では”寝耳に水”

「む」は、江戸では”無理が通れば道理が引っ込む”、京都では”昔とった杵柄”、大阪では”無芸大食”

「ま」は、江戸では”負けるが勝ち”、京都では”蒔かぬ種は生えぬ”、大阪では”待てば甘露の日和あり”

「あ」は、江戸では”頭隠して尻隠さず”、京都では”足元から烏が立つ”、大阪では”阿呆につける薬はない”

「ひ」は、江戸では”貧乏暇なし”、京都では”瓢箪から駒がでる”、大阪では”貧相の重ね食い”

「も」は、江戸では”門前の小僧習わぬ経を読む”、京都では”餅は餅屋”、大阪では”桃栗三年柿八年”

このほか、地方ごとに、独特のいろはカルタが知られている。生活綴り方教育の一環として、風土を刻み込み、言葉を紡いだ成果である。最近では、「方言カルタ」があちこちでつくられている。

## さようならの語源

「さようなら」という日本語の挨拶の語源は平安時代にさかのぼる。

平安時代、男性は求愛のためにお目当ての女性に和歌を送った。「あなたが好きです。一度お会いしませんか？」といった内容を送ると、女性は「私などたいした女ではありません」というお断りの歌を一度は「返歌」するのがしきたり。こうしたやり取りを何度か経て、ようやく恋が成就した。

男性が求愛の和歌を送っても成就しない場合に「さよなら」が登場する。返歌の「そのようになりません」が「さよなら」の語源である。「そのようになりません」＝「左様ならず」＝「さようならず」。「さようなら」は想いが伝わらなかった別れの悲しい言葉なのだ。

ついでながら、“おめでとう”は、「めでたし」＝愛でる+いたし（甚だしい）に由来する。“ありがとう”は「有り難し」（つまり、あり得ない、滅多にない、珍しくて貴重だ）に由来する。納得。

## ついたちの語源

各月の初日である「ついたち」は、一日とともに「朔日」とも書く。もとは「月立ち」で、月が新月からまた新たに月齢をはじめるという意味である。『朔』は新月を意味する。陽暦になった現在でも陰暦のことが生きていることが面白い。一方、つごもり（晦日）は「月ごもり」の転である。月が隠れて見えなくなる頃、つまり陰暦の末の日で“みそか（三十日）ともいう。十二ヶ月の最後の「つごもり」は、ご存じ大晦日となる。

## 止め名

江戸期に花開いた日本の伝統芸能の代表である落語、大相撲、歌舞伎には多くの共通する特徴がある。厳しい師弟制度・戒律のもと、長年の修行を要すること。一門制度があること。代々継承・襲名される名跡（みょうせき）制度があること。襲名に伴う披露興行が行われること。ご鬘眞筋を大切にすること。専用の興行舞台が準備されること。江戸文字と呼ばれる特徴的な文字が使われること。一番太鼓・二番太鼓・打ち出し太鼓が打たれること。幟（のぼり）が降ろされること。中入りがあること。トリが興行をしめること（給金を2倍とるところからトリと呼ばれる）。そして、止め名があること。

止め名について少し調べてみよう。

落語界では、一門のみならず同亭号の中の最高位の名称を止め名という。それ以上、他の名を襲名することはない。同亭号の代表として、一門を指導する。

大相撲では、二度と使われない四股名を止め名という。①現在、年寄名称として使われている出羽海、不知火など。②現役時代の実績による谷風、雷電、玉錦、双葉山など。③一大年寄である大鵬、北の湖、貴乃花。

歌舞伎界でも、遺言による實川延若、あまりに有名すぎる芳澤あやめ、2代続けて夭逝した尾上榮三郎、初代市川團十郎を暗殺した生島半六が事実上の止め名となっている。

## 猩々

オランウータン *orang utan* は、東南アジア、とくにスマトラ島とボルネオ島の熱帯林に住む霊長類で、木の上に皿状の巣をつくって暮らし、群れをつくらない。マレー語で「森の人」を意味するオランウータンは、尾がないこと、手をうまく使うこと、歯の数が32本であること、泳ぎができないこと、雑食性であることなど、人間と共通の性質を有する類人猿である。オランウータンは、漢字では「猩々（しょうじょう）」と記される。

「猩々」は、本来、からだ猿、顔が人に似ている中国の想像上の動物を指した。長髪赤ら顔で、声が小児に似て、人の言葉ができて、かつ無類の酒好きなのだそう。ここから、さらに転じて赤ら顔の大酒飲みを指すようになった。「猩々緋」あるいは「猩紅」とは黒味を帯びた鮮やかな深紅色を指す。「猩血」は真っ赤な色のたとえに使われる。「猩紅熱 *scarlet fever*」は、扁桃のレンサ球菌感染による全身が紅潮する小児期伝染病である。

「猩々」は能の曲目の1つでもある。シテの猩々が赤頭の面を着けて中之舞ちゅうのまいを舞う。酒に酔った「乱みだれ」の舞が特徴である。

ところで、この由緒ある名前をいただいた酒好きの昆虫がいる。米国の生物学者でノーベル賞を受賞したモルガン博士（*Thomas. H. Morgan*, 1866~1945）が牛乳びんで飼育して遺伝学の実験に利用して以来、遺伝研究になくてはならぬ材料となった「ショウジョウバエ（猩々蠅）*Drosophila*」である。このショウジョウバエという成長の早い小型のハエは、世界に約2,500種、日本だけでも240種を数えるそうだ。

ショウジョウバエはアルコール臭が大好きで、日本酒、焼酎、ワイン、ビール、なんでもござれ。杯やグラスの縁にとまって、文字通り酒に溺れることのあるイキなハエ君なのだ。もっとも一般的なキイロショウジョウバエ *D. megalogaster* は、体長2~3 mmで、複眼の色はご丁寧にも「赤色」なのである。ビ



ール工場の周辺でときに発生するハエ騒動は、複眼の茶色いクロショウジョウバエ *D. virilis* による。ビールの芳香に誘われたクロショウジョウバエがビールびんの内壁に産卵し、ウジがビールの残液の中に大量発生するのだそうだ。ショウジョウバエとエチルアルコールのつきあいは、太古の原生林でアルコール発酵を生じた樹液や果実を舐めにきたのがルーツと考えられる。かれらは、腐った植物や果物、酢、それにミソも大好きなのである。昆虫学者の観察によると、ショウジョウバエの酒好きの傾向は、オスにより顕著らしい。

キクイムシ、ケシキスイ、ヒラタムシといった甲虫も酒好きの仲間である。自然の中でビールやワインをたしなんでいると、毒性の強いことで悪名の高いスズメバチが集まってくるそうだ。スズメバチはショウジョウバエ顔負けの酒飲みである。酔っ払って、酔っ払ったハチにいたずらをしないように、くれぐれもご注意を。ちなみに、クロスズメバチの幼虫やさなぎは、信州では、「ハチの子」として酒の肴にされる。昔の人の知恵はさすがと言わざるをえない。

(医学のあゆみ 179: 412, 1996 を一部改変)

## お勧めの新婚旅行スポット

世界中の隅々まで旅行したわけではないが、事前に予測のつかず、大変印象深かった著者お奨めのスポットを3か所紹介しよう。

まずは、米国ユタ州のブライスキャニオン Bryce Canyon。グランドキャニオンの北に位置するコロラド川の芸術作品。見渡す限り、鉄さび色の石灰岩の彫刻群は目の焦点をあわせるのに苦勞した。思いもよらない神秘さだった。第二は、夏のスコットランド。ハイランドと称される嵐が丘の世界が紫色と緑色のモザイクをつくる。紫色は低灌木ヒースの花の色だ。ドライブすると、行けどもいけども紫色の絨毯が続く。予想をはるかに超える広さだった。第三は、ケニア、モンバサの海岸。さんご礁の向こうに広がるインド洋の深い青。あまりの美しさにショックを受けた。

## 日本がはしっこの世界地図

かの米国の世界地図には一瞬、違和感を感じる。なぜなら、南北アメリカ大陸が真中に位置し、右側にヨーロッパとアフリカ、左側にオセアニアとアジアが広がる。日本は左の方で小さく遠慮がちで目立たない。以前、カナダ、バンクーバーの喫茶店でみたカナダの地図は、USA を“Unexplored Southern Area (未開発南方地域)”と表現していた。それぞれの国や地域が自己中心的なのは当然なのかも知れないが、怖いのは、そのことの傲慢さに気づかないこと。医療者として、主役はだれ？を忘れないことが大切だ。

## カマトトに惹なく

少しばかり、語源探訪をしてみよう。

“かまぼこはトトか？”と、知らないふりをしてわかりきったことを聞く海千山千の遊女、“ぶりっ子”

は「カマトト」。トトとは魚のことだ。江戸の人は、ネコが糞に砂をかけてごまかすさまを「ネコババ」とよんだ。ババとは糞のこと。「つつがなく（恙無く）」は、無事なようすを表わすことば。“ツツガ”とは病気や障害のこと。ミノマイシンのない時代、江戸時代の農民にとってツツガムシ病（恙虫病）はこわい死病だった。調べてみると、筆者の姓である“ツツミ”と言うこともあったらしい。やれやれ。

「サバを読む」は、魚市場で価格の安いサバの数を早口でごまかして売りさばくことから始まったらしい。「囿に乗る」は調子に乗ってつけあがることをさす。もともと、“囿”は仏教の声明での転調のこと。吟唱中にうまく転調できること、つまり、ことがうまく運ぶようすをさしたそう。「ぐれる」のものはハマグリだそう。ハマグリをひっくり返したグリハマがなまってグレハマ。このグレの動詞化して「ぐれる」が生まれた。ハマグリは貝殻はぴったり合わさるが、ひっくり返すとどうにも合わなくなる。

最後に、「チューチュー、タコかいな」。フリーセックスの元禄時代に歌われたの1から5までの数え歌だ。昼間からキスしているさまを子どもたちがはやし立てている。性教育の優れた実践となったようだ。

## メビウスの輪

メビウスの輪は、19世紀ドイツの数学・天文学者 August Ferdinand Moebius が1858年に発明した、裏面と表面とが交差する輪をさす。メビウスの帯ともいう。帯状の紙を一度ひねってから両端をつなぐとできあがり。表面から線を描いて行くと、いつの間にか裏面にいる。一筆で表裏両方ともに線が描ける。どちらが表か裏かわからない、最初と最後がつながっているエンドレスの輪。

メビウスの輪は裏表がないので、車のファンベルトやドットプリンタのインクリボンに使われることがある。裏表がないので長持ちする。人生に喩えられ、永遠につながる愛に比喻する人もいる。

私の好きな(というより、医学生時代のラテン語授業で覚えたたった一つの成果である)ラテン語の格言に「Si bonus es, casu vivere, Sexte, potes.」がある。Si=if, bonus=good, es=you are, casu=casually, vivere=live, Sexte=Sextus(人名), potes=canであり、英語では「If you are good, you can live casually, Mr. Sextus.」となる。

“セクスツスよ、善良な人は普通に(無難に)生きられる”と素直に訳すのではなく、“善良なだけでは人生面白くない”という反語なのだそう。ある患者さんから言われた。何か、メビウスの輪のようで理解しがたいですね。だからこそ好きなんですよね、この言葉。

## リンクフリー考

「リンク許可不要」("Feel free to link") という意味で「リンクフリー」という言葉が日本のウェブサイトで使われている。典型的な Japanese English による誤用である。英語で link-free といえば「リンクのない」という意味である。ハイフンのない「Link free!」なら、自由に(無料で)リンクしよう!ということになる。たとえば、京都市営地下鉄など、あちこちの鉄道会社が堂々と宣伝している「フリーチケット」と同様に相当恥ずかしい。Free ticket は乗り降り自由という意味ではなく、あくまで無料券だ。

ちなみに、ウェブサイトの“リンク”は内容の複製ではなく、すでに公開されているページのアドレスを引用しているだけなので、著作権侵害にあたらない。リンクを自由に張り合って「知」をネットワーク

化するのがもともとのウェブの理念であり、「リンクには許可を得よ」という主張はおかしい。言い換えれば、「リンクフリー」をうたうこと自体がナンセンスなのである。

## ワープロ変換の悲哀

ワープロによる漢字誤変換の傑作集を紹介しよう。まず、自分の経験から。

1. 急性肝炎で黄疸がひどいときの日記：まっ黄色→末期色（これには本当にまいった！）
2. 医学生の本音：病理学→病理が苦（これがホントの苦笑い）
3. 名古屋の認知度：名古屋まで→名古屋で（不思議な変換だ。名古屋はどこにあるの？）
4. 医学の将来を案じる：東海大学→倒壊だ医学（以前、思わず指が止まってしまった）

日本漢字能力検定協会の変“漢”ミスコンテストの優秀作品より。

- 1 (大賞). 「今年から海外に住み始めました」→「今年から貝が胃に住み始めました」
2. 「規制中で渋滞だ」→「寄生虫で重態だ」
3. 「うちの子は耳下腺炎でした」→「うちの子は時下千円でした」
4. 「地区陸上大会」→「チクリ苦情大会」
5. 「大阪の経済波及効果」→「大阪の経済は急降下」
6. 「誰か、ビデオとってるやついないか？」→「誰か、美で劣っているやついないか？」
7. 「イブは空いています」→「イブは相手います」

## 外国人日本語検定試験

実際の日本語検定の解答を紹介する。設問は「○○」を使って短文を作りなさい。あまりの珍解答に、笑い転げる前に思わずナツク。すばらしい！

1. 「あたかも」:「冷蔵庫に牛乳があたかもしれない。」
2. 「どんより」:「僕はうどんよりそばが好きだ。」
3. 「もし～なら」:「もしもし、奈良の人ですか。」
4. 「まさか～ろう」:「まさかつかついだ金たろう」
5. 「うってかわって」:「彼は麻薬をうってかわってしまった。」

## 心はどこにあるの？

TBS制作の日曜日の朝のラジオ番組「全国こども電話相談室」は過日、惜しまれつつ50年の歴史を閉じた。名物回答者に無着成恭氏がいた。

あるとき、こんな相談があった。「心はどこにあるんですか？」

答え。「靴下を脱いで足の裏をみてごらん。ちょっとへこんだところがあるでしょ。土踏まずって言うよね。先生はそこに心があると思っているんだ。」「普段、誰の目にも見えない。君からもみえない。足の裏

だから、いつも踏んづけている。でも、君をぐーんと支えてくれるよ。」

(山形新聞、「談話室」、2015年3月25日、水曜日より)

### 私お気に入りの相田みつをの詩 3 編

相田みつを氏（1924～1991）いわく、「私は書という形式を借りて、人間としての本来的なありよう、本当の生き方を語りかけているだけなんです。」

人の為と書いていつわりと読むんだねえ  
まける人のおかげで勝てるんだよなあ  
自分のうしろ姿は自分じゃみえねんだなあ

### 私の好きな言葉

書道家兼詩人である故相田みつを氏（1924～1991）の日めくりカレンダー「ひとりしずか」より。  
あんなにしてやったのに。  
『のに』がつくとぐちが出る。

### 私のモットー

私のモットーを紹介しよう。いわく、「Teaching is learning」

(人に教えてみて初めて、自分の理解の不十分さがわかる。)

もう一つ、「患者さんに顔のみえる病理医」としてとてもたいせつにしている心がけは、「心施」(心を込めて相手に接すること。)

### 無財の七施

無財の七施（むざいのしちせ）は仏教の教え。日常生活において、お金やものがなくても、周りの人々に喜んでもらえる“一隅を照らす心がけ”＝布施(ふせ)のことをさす。

- ① 眼施(がんせ) 優しい眼差しで人に接すること。
- ② 和顔施(わげんせ) 人に対して笑顔で接すること。
- ③ 愛語施(あいごせ) やりのある言葉を与えること。
- ④ 身施(しんせ) 自らの体を使って奉仕すること。
- ⑤ 心施(しんせ) 思いやりを持って心を配ること。
- ⑥ 牀座施(しょうざせ) 座席や立場を他の人に譲ってあげること。
- ⑦ 房舎施(ぼうしゃせ) 自宅に人を迎えてもてなすこと。

布施の「布」は分け隔てなく、「施」は施す。この7つの行為はどれをとっても、人に対する思いやり、優しさが溢れている。四国のお遍路さんに対する“お接待”はまさに、無財の七施の実践といえる。一日一善。実践したいものだ。

## 5. 音楽の話

### ひき逃げ者の独り言．豊明ムジカンテンの演奏者として

学生諸君の熱意と意欲にほだされて、「豊明ムジカンテン」として、そして教職員代表のつもりで学園祭ミュージックフェスティバルに参加すること2年目。今年も、医学部2年生の名手、小出祐嗣君にピアノ伴奏をお願いして、ロマン派 R. シューマンのロマンス第二番とイタリアバロックの作曲家、B. マルチェロのオーボエ協奏曲の第二楽章を演奏させていただいた。その間、わずか10分弱。ともに休符が少なく素人には難しすぎる曲だったのだが、挑戦者精神第一。失敗はあったものの、何とか無事に演奏を終了することができ、正直ほっとしている。

計21組の演奏のトップバッターだったため、観客は30人ほどだったような気がするが、あの緊張感は何とも言えない。練習中にはこんな風に演奏しようと心がけていたことなど、演奏終了まで気づかずじまひ。いつものことながら、つぎこそ！と思ってしまう。これが、ふつうのオジサンの演奏レベル。というわけで、「音楽」、すなわち、自分で音を楽しむことはできたように思う。でも、聞いてくれた方々に音を楽しんでもらうには、まだまだ道のりが遠いですね。すてきなピアノ伴奏でのごまかしにも限度がある一。

本番1ヶ月前から、練習のために楽屋裏のピアノを適宜使えるよう手配していただいた守衛の方々の協力にも、この場を借りてお礼させていただきたい。

所用があり、終わったその足で横浜まで講演会に出かけざるを得ず（10時20分に演奏終了し、最寄り駅である「前後駅」44分発の急行に乗ったのです！）、残念ながら、そしてたいへん申し訳ないことに、ほかのグループの演奏を聞くことができなかった。今年は、器楽演奏がだいぶ増えたようで大いに心強い。今後とも、学生諸君の自主性と企画力に大いに期待したい。いかに観客を動員するかが重い課題であり続けるでしょう。とにかく、ごくろうさまでした。

（これは、2002年10月、藤田保健衛生大に移って2年目の感想文。学生の提案で復活した学園祭ミュージックフェスティバルへの2回目の参加・挑戦。伴奏してくれたピアノの名手、小出祐嗣くんは、今や立派な循環器内科医です。月日がたつのは早い。）

### オーボエと私 ～しろうとオーボエ吹きの贅沢、「輪の和」、そしてJPP～

リード(reed)を使う木管楽器には、ダブルリードの(2枚のリードで音を出す)オーボエ、ファゴット(バスーン)とシ

ングルリードのクラリネットやサクソフォーンがある。リードはアシ(ヨシ)の意味で、十分に乾燥させたアシ(イネ科の植物)の茎をリードに加工する。リードに適したアシはすべて人為的に栽培されている。伐採は冬期に行われ、枝や葉を切り落とした状態で年余にわたって乾燥させる。乾燥期間は7年が必要とされてきたが、最近では2年程度で、節を切り落としたパイプ状で出荷される。南フランスの地中海気候がアシの乾燥に最適とされる。日本の気候では、何年も保存しておくで酸化してパサパサになってしまうそうだ。

プロのダブルリードプレイヤーは自分で“マイリード”を削る。材質にも大いにこだわる。素人オーボエ吹きの方はリードづくりができないため、リードは“おっしょうさん”がたより。市販品(といっても、プロオーボエ吹きの作品)を買くと、1本3,000円前後する。しかも、オーボエリードはあまり長持ちしない。タンギングの多い曲を一生懸命に練習すると、あっという間に鳴らなくなってしまう。本番にリードをベストの状態に保つことはとても難しい。本番直前の練習(業界用語の“ゲネプロ”)で本番用リードをダメにしてしまうことが多い。というわけで、本番用に複数本のリードが必要なのである。

私の師匠、東京都町田市在住の湊貞男先生はもと東京フィルハーモニー楽団員で、“世界一”優しい先生だと思う。2時間の個人レッスンが10,000円で、いつも新品リードを4本いただける。本番前は、何本でもいいから持って行きなさいといわれたことがある。レッスンそのものは無料なのだ。もともとは、リード2枚つきのレッスン料が¥7,000だったのが、自主的にレッスン料を値上げしたら、現在のような贅沢に格上げされた——。演奏曲に合わせた特別仕様のリードづくりも日常的である。つまり、演奏曲で最も重要な部分がうまく鳴るようなリードを特別につくってくれるわけ。その上、どんなにへたくそでも、練習不足でも、決して叱られない。そして、演奏の裏の裏まで、何でも知っている超ベテランオーボイストなのだ。現在まで使用し続けているマイ楽器(リグータ、エボリューション、フルオートマチック)を選んでくれたのも湊先生だった。レッスンにはこの上ない贅沢な環境といえよう。22年間にわたる適切な指導にこころより感謝。

私の本業は、愛知県豊明市にある藤田保健衛生大学医学部の病理学教授であり、病理診断と医学教育を主なしごととしている。病理医として病理診断のセカンドオピニオンを無料で引き受け、診断内容を直接患者さんに説明する「患者さんに顔のみえる病理医」を実践し続けている。最近、著書を出版したのでぜひお読みあれ！(患者さんに顔のみえる病理医からのメッセージ。あなたの「がん」の治し方は病理診断が決める！三恵社、2012.12、税込¥1,600)。22年前、前職の東海大学医学部時代に、当時の医学生にそそのかされて40の手習いではじめ、学生オケのメンバーとして定期演奏会でチャレンジしたのがベートーヴェンの交響曲第7番だった。音程どころか、指使いさえ怪しいキャリア半年のファーストオーボエを優しく容認してくれた学生諸氏にここに改めて感謝したい。東海大学と藤田保健衛生大学の学生オケの定期演奏会には欠かさず出演(今年で22回目!)。おかげさまで、いろいろな経験をさせてもらい、演奏継続の原動力だったことに間違いはない。時間をみつけては練習するものの、正しい音程がなかなかおぼつかないのが現実。“美しい音楽”には遠いのだが、「音を楽しむ」ことは間違いなく実践している。

医療者と患者と一緒に楽しむ音楽。それを発見・発展させることができたのは、乳がん患者会「わかば会」のおかげである。愛知県刈谷市在住の寺田佐代子さんを中心として2003年3月に23人で発足した乳がん患者会「わかば会」は、長年のがん患者支援活動をふまえて、2009年9月11日には、“NPO法人びあサポートわかば会”として再出発した。私は、監事としてともに歩み、実に多くを“体験学習”させていただいた。

2004年3月に大学内で開催した患者会発足1周年記念コンサート。患者会発足の仲間で、患者会発足半年で

亡くなってしまった若き乳がん患者さんに捧げるため、1年がかりで練習した難曲、モーツァルトのオーボエ協奏曲(ピアノ伴奏版)に挑戦した。準備や司会などやりながらのいきなりの演奏で、オクターブキーが利かないトラブル。長いピアノ前奏からやり直してもらったのが懐かしい。あれからもう9年。

NPO 法人びあサポートわかば会の活動には可能な限り参加している。がん患者のこころの支援・セルフケアの奨めといったわかば会独特の中身の濃い活動を通じて、多くの悩めるがん患者に出会う。一方で、プロの病理医として、セカンドピニオンで出会う多くの患者さんがいる。音楽は優れたコミュニケーションツールに変身できる(そう、必ず楽器持参!)。音楽はひとの気持ちをほぐし、癒す。こころをこめて演奏する曲には「魂」があると信じるから。

寺田佐代子さんと毎年のように録音した医師と患者のハーモニー、「名刺代わりのCD」はすでに8枚。この贅沢な無料CDをいったいどのくらいのひとに配つたのだろうか。患者さんには必ずプレゼントすることにしている。プロのように上手いかなことは、本人たちは十二分に承知。三重県志摩市の“合歓の郷”のレコーディング担当の桜井博司氏とはずいぶん親しくなった。リズム感と音感と技術に乏しい単なるオジサンとオバサンの不思議なペアの演奏を、辛抱強く熱心に収録してくれることに深謝。

わかば会のコンサートは毎年継続されている。大学内で行われた6周年記念コンサートに引き続いて2009年5月に京都で開催した無料コンサートは、仲間の輪が広がってゆくことを願って、“「輪の和」コンサート”と命名された。多くの医療者と患者仲間、そして学生や障害者にも参加してもらう手づくりコンサート、多くのボランティアにささえられる輪、みんなでつくりあげる音楽の和。その後、地元愛知のみならず、東北の被災地、一関(岩手県)と東松島(宮城県)でも開催した。2013年には、9/11(水)に横浜で第7回、10/25(金)に愛知県岡崎市で第8回「輪の和」コンサートが開催された。2014年から毎年、8/9(原爆投下の日)のあとの日曜日に、長崎市の爆心地にある浦上天主堂での祈りのコンサートを開催してきている。2016年12月25日(日)には、地元愛知県豊明市で第51回「輪の和」コンサートを開催した。

さまざまな場所で、いろいろなひととひとが出会う活動を広げていくうちに、音楽は、誰もが平等で対等な関係で楽しめる、感動する、多くのひとと共感できる、周囲のひとを仲間にする力がある・・・、実に、多くの魅力と吸引力があると、こころから実感している。

「思いを形に」がモットー。失敗しても実践することに意味がある。勇気をもって「行動」することは、もっばら、寺田佐代子さんから学んでいる。寺田さんとは、こころのセルフケアやピアサポートに関する多くの著作物も出版してきている。ぜひ、わかば会HPを訪問してほしい。そう、新しい一歩への勇気に乾杯。

私はほぼ毎年、横浜のNPO、地球市民ACTかながわ(TPAK)に協力する形で、ミャンマー、タイあるいはインドで1週間ほどのボランティア活動を実践している。同行する学生たちとともに、東南アジアの少数民族の子どもたちに対する衛生教育を担当させてもらっている。義務教育すら十分に受けられない彼らの多くは、医療者と接したことがない。TPAKの支援の現場は、医療の存在しない地域なのである。手洗い、うがい、歯磨き、沐浴の大切さを伝え、簡単な栄養指導や日常生活指導もしている。病理医ながら、簡単な身体診察もさせてもらっている(ヒヤヒヤ)。オーボエはリード部分以外の本体を3つに分解できるため、手荷物で簡単に持ち運べる。こうした支援活動に、オーボエ演奏が有用であることを実感している。孤児院に集まる子どもたち(ミャンマー)、TPAKと村人がつくった学校で勉強する子どもたち(タイ、ミャンマー)、社会的差別を受ける自立し旺盛な女の子たち(インド)。そして、私のつたない演奏に

聴き入るこどもたちの興味津々で真剣な眼。忘れがたい思い出として、脳裏に焼きついている。

そういえば、3月末の暑いインドからの帰りのデリー空港。手荷物チェックカウンターでの話。金属キーが豊富で、かつ調整用のねじ回しの入った楽器を妙に怪しがられた。いろいろ説明したら、女性係官が「吹いてみる!」。というわけで、私は、出国チェックの現場でオーボエを吹かせてもらった、そんな珍しい体験者とあいなった。自然とたくさんの人が集まり、しばしの音楽会(?)。笑顔で無事通過できたことは言うまでもない。

日本でも、藤田保健衛生大学病院のほか、ハンセン病施設やホスピスでときどき演奏させていただいている。病院、市民団体やがん患者会などに呼ばれて講演するときは、ほぼ必ずオーボエを持参している。一生懸命演奏することで、場が和む効果はたいへん大きいことを実感している。

実は、私はもう一つユニークな音楽活動を展開している。2006年11月、第52回日本病理学会秋期特別総会(和歌山)の市民公開講座に引き続く形で、患者・市民のための病理医によるミニコンサートを企画・開催した。好評だった。私は寺田さんといっしょに演奏させていただいた。患者さんのために病理医が演奏するチャンスをつくりたい! トランペット吹きの病理医、宮崎龍彦氏(愛媛大病理、現岐阜大病理)と相談・画策して、全国に散らばる病理医の演奏家を集結してフルオーケストラをつくろうと提案したのは2009年11月(松山)だった。そして、ついに「日本病理医フィルハーモニー(JPP)」の結成に至った(携帯電話の電源がなくなるほど、全国各地に電話しまくったのが懐かしい)。私が団長を務めるJPP登録団員・団友は、現在150名を優に超えている。初練習は、2010年4月の第99回日本病理学会総会の期間中に新宿で。会長招宴懇親会会場では、有志による弦楽アンサンブルが演奏された。翌年の第100回記念総会(横浜)での演奏が目標だった。

2011年4月に予定していた(社)日本病理学会創立100周年祝賀コンサートは、同年3月11日の東日本大震災のため、残念ながら、演奏を自粛せざるを得なかった。そして、2012年4月29日(日)の夕暮れのひとつ、果敢にも、横浜みなとみらいホール、大ホール(計1,850席)において2時間にわたる単独の無料コンサートを開催した。多くの患者・市民を招待した。第101回日本病理学会総会(新宿)の翌日だった。出演者は90名、約半数が病理医。他科の医師や検査技師、そして学生や病理医の家族の手伝いを得てはじめて成立したコンサートだった。多くの個人、企業からの寄付も欠かせなかった。何と、満席の観客の中での、文字通り、感動の演奏会となった。

指揮する病理医は、秋山隆氏(川崎医大)と岡輝明氏(関東中央病院)。第一部のフィンランディアとG線上のアリアでは、東日本大震災被災者への励ましの気持ちを込めて演奏した。第二部では、(社)日本病理学会が世界に誇るテノール歌手、米澤傑氏(鹿児島大)が、オーケストラとともに「誰も寝てはならぬ」「オーソレミオ」などを朗々と歌いあげた。パイプオルガンの音色もホールに響きわたった。まさに、病理医が患者・市民に顔をみせる活動そのものとなったといえよう。

30名のボランティア、ロビースタッフ(患者さんと一般市民、病理医は2名のみ)の働きは本当にすばらしかった。寺田佐代子さんはロビーマネージャーとして大活躍だった。満席の観客を時間通りに客席に誘導できたはまさに奇跡的だった(ホール担当者の言)。掛け値なしに、病理医と患者さん・市民によってなし得た手づくりコンサートと言えた。

2013年6月8日(土)には、第102回日本病理学会総会(札幌)の最終日に、札幌芸文館大ホールで第2回JPP演奏会が開催された。約1200名の聴衆を得て、再度、練習不足のハンデを超える集中力を発



揮した演奏会となった。札幌医大の学生を含む 70 名のオケメンバーに加えて、札幌アカデミー合唱団、札幌医大コーラスや病理医よりなる約 100 名のコーラスが、オーケストラとともに素敵なハーモニーを奏でた。米澤傑氏（テノール）のソロの歌声に加えて、瀧山晃弘氏（北海道大）によるモーツァルト（ピアノ協奏曲第 23 番第二楽章）のピアノソロ演奏もあった。学会長の佐藤昇志教授（札幌医大）による全面支援の賜物でもあった。

2014 年 4 月 26 日（土）の広島での学会最終日に、2015 年 5 月 2 日（土）の名古屋での学会最終日にも JPP 演奏会が開催された。

JPP 活動の目標は 3 つ。

- 1) 日本病理学会会員が音楽を通して交流し、理解し合い、音を楽しむこと。
- 2) 日本病理学会にはオーケストラという“クラブ活動”があることを示して、若手病理医のリクルートに使うこと。
- 3) 患者・市民に病理医の存在をアピールする有効な手段となること。

NPO 法人ぴあサポートわかば会、JPP ともに、熱烈なる応援者を募集中です。よろしかったら、私まで連絡あれ。

(医療と検査機器・試薬 38(5): 732-738, 2013、趣味に生きる第 29 回を改変)

## 「患者さんに顔のみえる病理医」の実践と音楽の力

私がオーボエというダブルリード楽器との出会いは 40 歳を迎えた 23 年前。師匠、町田市在住の湊貞男氏は元東京フィル所属。2 時間の個人レッスン料は一万円。リードを削れない私に、買えば 1 本三千円する新品リードを 4 本提供。どんなに練習不足でも叱らない、演奏の裏の裏まで知る超ベテラン。マイ楽器、リグータを選んでくれたのも湊先生だ。

12 年来、私は医療者と患者と一緒に楽しむ音楽活動を実践している。2003 年 3 月に発足した NPO 法人ぴあサポートわかば会のおかげ。私は監事としてともに歩み、可能な限り活動に参加・体験学習してきた。心の支援を通じて、多くの悩めるがん患者と出会った。

一方、私はプロの病理医として、病理診断のセカンドオピニオンを無料で受け、診断内容を患者さんに直接説明する「患者さんに顔のみえる病理医」を実践している。拙著“患者さんに顔のみえる病理医からのメッセージ。あなたの「がん」の治し方は病理診断が決める！”（三恵社、2012.12）をご覧ください。

音楽は優れたコミュニケーションツールである（どこでも楽器持参！）。音楽は人の気持ちを解し、癒す。心を込めて演奏する曲には魂が入る。わかば会では「輪の和」コンサート（医療者、患者、学生や障害者による手作りコンサート）を毎年複数開催。支え合う輪、みなで作る音楽の和。地元愛知の他、沖縄、与論島、草津、瀬戸内、横浜、東北被災地、一関（岩手）と東松島（宮城）でも開催。昨年 8/10 と本年 8/16 に長崎の浦上天堂で平和を祈るコンサートを開催。写真は、愛知県の老舗有松絞りの蔵を借りた手作りコンサートの様子。

NPO 法人ぴあサポートわかば会理事長、ベテラン乳がん患者の寺田佐代子氏のピアノ伴奏で録音した医師と患者のハーモニー、「名刺代わりの CD」はすでに 8 枚。三重県志摩市の合歓の郷で録音したこの無

料CDを何人の患者さんに配っただろう。リズム感、音感と技術に乏しいオジサンとオバサンの不思議な合奏。テーマは「愛の風」。

さまざまな場所で人と人が巡り会う活動を展開する中、誰もが平等で対等な関係で楽しめ、感動・共感・周囲の人への吸引力をもつ「音楽の力」を実感している。

(月刊なごや「私の意見」2015より)

## チャルメラとオーボエ

いい加減なこと、筋道の通らない無責任な物言いを指す表現「ちゃらんぽらん」は、江戸時代にできた言葉だそう。その起こりは、屋台のラーメン屋の代名詞チャルメラだとする説がある。南蛮物として江戸初期に渡来したこの「唐人笛＝スルナイ(哨呐)」は、吹き口にストロー状のワラをつけて発音部とし、先がラッパ状に広がる木製円錐管、表7孔・裏1孔の縦笛である。チャルメラは、当時、チャラメラ、チャンメル、チャルメロ、チャメロ、チャンメラなどとも呼ばれた。この楽器独特の音色は、おかしげなわけのわからない調子だというわけで、「ちゃらんぽらん」という新語が誕生したらしい。

チャルメラの名は、唐人笛を長崎でみたポルトガル人がチャラメラ charamel a(ポルトガル語・スペイン語でリード笛の意＝イタリア語の ciaramella＝フランス語のシャリュモー chalumeau)と呼んだことに由来する。ちなみに、江戸時代にチャルメラを吹いたのは、飴売りだった。「あんなんこんなん飴」を売る「異装の物売り」が、唐人姿で唐人笛を吹きながら江戸の町を巡ったとか。いっぽう、清朝のころの北京の街角で、「小銅角」(チャルメラ)を吹きながら商売したのは、鋏や庖丁を研ぐ「磨刀」たちだったそう。中国北部の田舎町では、哨呐(ソオナー)が今でもお祭りのときに活躍している。歌舞伎囃子では、中国情緒や下町気分を表現するときにこの楽器が用いられる。

乾燥した「アシ reed」を薄く削って作る笛の振動部(リード)が上下に二枚ある木管楽器は、ダブルリード(複簧)と総称される。チャルメラは、リードがワラ製の古典的なダブルリード楽器なのである。オーケストラに欠くことのできないダブルリード楽器に、オーボエ oboe があるが、実は、オーボエとチャルメラは親戚関係にある。古代中近東文明に始まるとされる原始ダブルリード楽器は、ヨーロッパでショーム shawm という中世の古楽器を経てオーボエへ進化し、いっぽう、中国ではチャルメラへと変身したのだ。

チャルメラやショームはリード全体を口に入れる形式なのだが、オーボエではリード先端を唇にくわえて吹く。この改良により、オーボエの音楽的表現力は著しく増大した。オーボエは、リードを除いて、3つの胴体部分(頭管部、足管部、ベル)に解体できる。中央の足管部を除いて無理に楽器を構築して吹いてみると、その音色がオーボエなのかチャルメラなのかわからなくなってしまう。このことが、両者が親戚関係にある何よりの証拠といえよう。ダブルリード楽器の仲間としては、オーケストラ用低音部楽器のファゴット(バスーン)のほか、スコットランドのバグパイプや雅楽用縦笛である篳篥(ひちりき)もあげられる。

こんなエピソードを聞いた。チャルメラをきちんと吹くことは相当に難しいらしい。ある屋台のラーメン屋が、チャルメラ自慢ついでに、「もしこの楽器がうまく吹けたらこの屋台ごとくれてやる」と息まいていた。そこに行きあったあるプロのオーボイストが、さらっとチャルメラを吹きこなしてしまった。屋台を譲るとごねた意地っぱりラーメン屋のおじさんに、この先生、結構往生したのだそう。

以前、タイへ出かける機会があった。タイの古典的民族音楽の楽器の中に、チャルメラそのものを見つけるときはうれしくて思わず近くに駆けよってしまった。大きな音がでるため、おもにファンファーレ風のトランペット的な役割を担っていた。タイ語名は「ピーチャナイ」。「ピー」はその音からつけられた名前だそうだ。「チャナイ」はきっと中国語の「スルナイ」と同一起源だろう。無理を言って譲ってもらった中古のピーチャナイはととてもとても演奏が難しかった。さすが、プロのオーボエ吹きはすごい！その後、沖縄の首里城で、琉球音楽にもチャルメラの仲間の楽器が使われていることを知った。

オーボエとは、フランス語の *hautbois* (*haut* = 高い、*bois* = 木)、つまり、高音の木管楽器を意味する。しかし、「高い」のはピッチの高さではなく、むしろ、音の大きさを表わしたらしい。17世紀後半、パリのオットテール一族により改良されたバロックオーボエ(ツゲ製で、キーはわずか3つ)は、音色の表現力の広さに優れ、しかも、大音量での演奏が可能であるため、17世紀末までにはオーケストラの一員としての、また、ソロ楽器としての地位を確立した。複雑なキーシステムをもった現在のオーボエ(フランス型)ができあがったのは、ほんの100年ほど前のことだ。

オーボエは、アフリカ産の黒檀(こくたん *ebony* = *blackwood*) という柿の木の仲間から得られる非常に硬い均質な木材を原料としている。ケニア滞在中、カンバ族の職人さんたちが巧みに製作する彫り物に思わず感心したが、考えてみると、あの黒くて硬い丸太の芯が、しろうとオーボイストである著者がそれなりに4年あまりの練習を重ね、わざわざケニアにまで持参したこのメロディー楽器の原料そのものだった！決して「ちゃらんぼらん」に練習しているわけではないのだけれど、本当に手強い楽器だ。オーケストラの音合わせに、合奏に先立って、ラ(A)の音を出すのが第一オーボエ奏者の役割だが、この単純な音の音程を正しく保つさえ、初心者にはとても難しい。チャルメラにはたいへん申し訳ないが、チャルメラ風の「ちゃらんぼらん？」な雑音は出だせても、心にしみる音楽にはほど遠い。プロになるわけではないのだからといくらグチってみても、言い訳にはなりません。登るにはとても「高い木」なのですが、とにかく、練習あるのみ。

(医学のあゆみ180(2): 122, 1997より)

## 騎馬のリズムと阿波踊り

へばなオーボエをそれなりに演奏していると、日本人を実感させられることがある。どうもこれは、必ずしも自らの音感の悪さ故だけではないらしい。つまり、ベートーヴェンやブラームスなどの西欧の著名な作曲家の曲には、「付点四分音符+八分音符」というリズムが基本となる音形が頻繁に登場する。音の長さは3対1。単純至極に思われるかもしれないが、日本人のしろうとが演奏すると「三連音符の最初の二音+最後の二音」という形、つまり、2対1の音形に限りなく近づいてしまうのだ。前者が、4本足の馬に乗る騎馬民族固有のリズムであるのに対して、農耕民族である私たち日本人に染みついたリズムは、阿波踊りの「チャンチャチャンチャ、チャンチャチャンチャ」の形、つまり3連符の連続(8分の6拍子)なのだそう。ウーム、妙に感心していないで、練習してきちんと正しい演奏をしなければ……。

「おとうさん、ロドリーゴのアランフェス協奏曲知ってる？ 第2楽章のイングリッシュ・ホルンがとてもすてきだよ」と当時公立中学校3年生の次女(現在、その出身校の英語の教師)から言われたがずいぶ

ん前のこと。イングリッシュ・ホルンは、オーボエの兄貴分に相当するソロ楽器だ。当時小学生の三女（現大学生）からは、「学校でオーボエの曲を聴いたよ」と言われて、文部省検定教科書をみた。こちらは、グリーグ作のノルウェー舞曲。両方とも早速CDを買って聴いてみた。次女からは少し恨まれた。「今日、音楽の聴きとり試験があったのに」。

試験問題をみせてもらった。これがなかなかむずかしい。「ラスゲアドという奏法で演奏される第1楽章の出だし」、「第1楽章の第2主題」、「第2楽章で独奏楽器の和音にのせてイングリッシュ・ホルンが吹く哀愁を帯びた旋律」などの譜面を選ぶ。問題7は、「アランフェス協奏曲の第1楽章はソナタ形式ですが、その構成を答えなさい」。どうして、そこまでわかんなくちゃいけないの？

ついでに、中学校2年生のときの試験問題もみせてもらった。ベートーヴェン作曲、交響曲第5番「運命」、ハ短調、作品67に関する問題がある。かの有名な第1楽章の出だし「ジャジャジャジャー」の部分の音形に関する設問。ここは、4分の2拍子。八分休符のあと、八分音符が3つ並んだあとフェルマータ付きの二分音符がくるのが正解。決して、四分休符+三連音符ではない。東海大学医学部管弦楽団の演奏会で演奏するために楽譜をみるまで、小生、後者だと思い込んでいた。

娘いわく、「この出だしの部分を演奏する楽器は、”弦楽器+クラリネット”なんだよ。クラリネットが試験の山だよ。それから、第1楽章でソロのある管楽器ってオーボエでしょ。こっちもよく試験にでermきたい。」まあ、こちとら、よくぞ中学校を卒業できたこと！もっとも、翌日、オーケストラでオーボエの目の前に座ってビオラを弾いている医学生にこのクラリネットの質問をぶつけてみた。答えは「??」だった。

(医学のあゆみ 177 : 138, 1996 を改変)

## しろうと演奏家とブラ1

“ブラ1”とは、ブラームスの交響曲第一番の“業界用語”(?)である。いまでも、このエッセイを書きながら聴いているこの大曲を、CDでいったい何度聴いたことか。ベートーヴェンの交響曲第十番ともたええられるブラ1は、ヨハネス・ブラームスの音楽家としての神髄を感じさせる真の名曲である。

自他ともに認めるへたくそオーボエ吹きが、わが医学部生たちの主宰するオーケストラの仲間として加わったのはほんの3年前のことであった。まったく触ったこともなかったオーボエという難しい楽器を、大枚はたいて思い切って買い込んだのは、そのなんともいぬ音色に魅せられたからである。40歳という年齢の節目をきっかけとして、なにか新しいことに挑戦したいと強い衝動に駆られたことも事実であった。1年目に、キャリア半年あまりで“ベト7”(ベートーヴェンの交響曲第七番)の第一オーボエを吹く大冒険をして以来、昨年の“チャイ5”(チャイコフスキーの交響曲第五番)、今年の“ブラ1”と、3度目の演奏会になる。ソロが多くて“おいしい”ともいえる“ブラ1”なのでだが……。かれこれ5ヵ月以上にわたって、学生たちとともに、時間をみつけては必死に練習したにもかかわらず、先日の第16回定期演奏会では日頃の“実力”をあまりにも十分に発揮してしまった。終わってしまうと、意外とあっけないもので、“どうしてあの部分をもうすこし落ち着いて演奏できなかったのか”“ふだんは間違えないのに…、ああ、もう一度やってみたい”などと、いくら悔やんでみてもあとの祭り。しょせん、とてとても、

そう簡単に、“基本的な音感やリズム感に欠ける私のようななどしろと”の手におえるようなしろものではないのだから。

演奏者の立場から、計画から完成までに 20 年余を要したというこの美しき難曲を眺めてみると、その実に緻密な構成に心服させられる。管と弦の対話、微妙なリズムの彩、重厚な和音、たたみかける強音と一瞬の静寂。隅々まで計算し尽くされた音楽的効果をすこしでも再現できたらと願って必死に頑張る学生オーケストラをあざ笑うかのような、その高い、いや高すぎる芸術性。オーボエのパート譜をみると、ブラームスの演奏者に対する行き届いた配慮がよくわかる。ソロまたはソロに準じる大切なパッセージの前には、多くの場合、準備期間（休み）がおかれているのだ。いったい、どのような音楽的、いや数学的ともいえる頭脳をもっていると、このような奇跡的な芸当が可能となるだろうか。各パートごとに丁寧に微分し、しかも全体としての深遠なる曲相をかもした積分的構成員。

オーケストラの一員となって、やり直しのきかない生演奏の、そのなんともいい難い緊張感のなかで、一人ひとりが自分なりにできるかぎりの演奏をし、そして団員全員が一体化する。“音を楽しむ”のが音楽の原点であるとするれば、こんなぜいたくはほかにないのかもしれない。ふだんの生活や仕事のなかではなかなか味わうことのできないこのような体験は、すくなくともこの私にとっては、本当にかげがえのない得難い財産となりつつある、演奏会後の打ち上げで見た学生団長の感激の涙は、酒の席でのたんなる泣き上戸ではなかったに違いない。

(医学のあゆみ 173: 203, 1995 より)

## 管楽器の名手の性格

芥川龍太郎の三男である作曲家、芥川也寸志氏(1925～1989)いわく、管楽器の性格と吹き手(名手に限る)の性格には相関関係がある。

フルートの名手は物事を常識的に判断する。突拍子もないことを言い出す人はフルートがうまくならない。そしてフルートの名手はみな白髪だそう。

デリケートな楽器であるオーボエの奏者はみな神経質、チンドン屋の吹くクラリネットはユーモリストが多い。すっとぼけた音の出るファゴットはすっとぼけた人がうまい。ホルンは理屈っぽい。ホルンという楽器が F 管で、いつも移調して吹いているせいらしい。トランペット吹きは長命だそう。

## トロンボーン吹きのグチ

筆者はこの十数年来、オーボエというダブルリード楽器を練習している。前任地および現在の藤田保健衛生大学で学生オーケストラに加えてもらっている。「ブラ1」(ブラームス交響曲第一番の略)は2回ほど演奏させてもらった曲だ。オーボエソロが多いので、オーボエ吹きにとっては「おいしい」曲である。この名曲にまつわる“裏話”を披露しよう。

まず、オーケストレーションの話。オーボエに限らず、他の木管楽器でも、ソロの直前は一小節程度の休みをくれていることがうれしい。作曲者ヨハネス・ブラームス氏の何というやさしい気遣い！ きっと、しっかりやれよという叱咤激励なのだろう。一方、同時に演奏したジャン・シベリウス作曲の組曲「カレリア」では、休符がなく最低音を吹

きっぱなしの長いパッセージのあと、いきなりのソロがオーボエに課されている。プロのオーボエに聞くと、「まともによっちゃダメ」というごもっともなアドバイスだった。

つぎは、トロンボーン吹きグチ。ブラームスの生きた百年以上前のトロンボーンは性能が悪かったのだろう。とにかく、この曲でトロンボーンが登場するのは第四楽章の後半である。しかもいきなりのソロだ。三本のトロンボーンアンサンブルはとても美しく、聴かせどころなのだが、木管楽器奏者からすると、何ともかわいそうに思える。たとえば、第一楽章のでだし(序奏)のフォルテではホルンが大きく響くが、トロンボーンがあった方がもっと厚みがでる気がするの筆者だけだろうか。トロンボーンは、ベートーヴェンの第五交響曲「運命」の第四楽章で始めて交響曲に使われるようになったそうだ。ベートーヴェンを師(目標)とするブラームス(バッハ、ベートーヴェン、ブラームスはドイツの3Bと称される)だけあって、トロンボーンの使用方も見習ったのだろう。プロのトロンボーン吹きにとっては、ちょっと出演しただけで、ヴァイオリンやオーボエと同じだけの金を稼げる「おいしい」曲ともいえそうだ。

もう一つ、アントニン・ドボルザーク作曲の交響曲第9番「新世界より」の裏話から。聴く人にとってとても聴き心地がよいこの曲は、楽器演奏の立場からは割と悩みが多い。第一楽章でフルートが2回吹くソロのメロディーが1回目と2回目で調が半音違うこと。第二楽章の最後でコントラバスだけで和音を弾くこと。第三楽章の最後でビオラの刻む音符が1小節に6つ、5つ、4つ、3つと減ってゆくこと。極めつけは、チューバの出番が静かな第二楽章に二度でてくるだけで、他楽章のフォルテシモの盛り上がりでもただ指をくわえて(?)聴いているだけなこと。シンバルも第四楽章の前半で一発だけ登場し、しかも拍子はずれの部分で「弱く」と指定されていること。ドボルザーク氏がチューバとシンバルに「いじわるな」こんな譜面をどうして書いたのかは謎のまま。

## 管楽器の名手の性格

芥川龍太郎の三男である作曲家、芥川也寸志氏(1925~1989)いわく、管楽器の性格と吹き手(名手に限る)の性格には相関関係がある。

フルートの名手は物事を常識的に判断する。突拍子もないことを言い出す人はフルートがうまくならない。そしてフルートの名手はみな白髪だそう。

デリケートな楽器であるオーボエの奏者はみな神経質、チンドン屋の吹くクラリネットはユーモリストが多い。すっとぼけた音の出るファゴットはすっとぼけた人が多い。ホルンは理屈っぽい。ホルンという楽器がF管で、いつも移調して吹いているせいらしい。トランペット吹きは長命だそう。

## 日本人の聴く耳

昭和57年1月16日に開かれた日本医家芸術クラブ主催の座談会における芥川也寸志氏の発言内容を少し紹介させていただこう。

ピアノと尺八を比較してみよう。ピアノの構造はものすごく複雑だが、弾けばだれでも同じような音が出る。一方、尺八は竹を切って穴を5つあけただけの単純な構造なのに、吹くと首振り3年といわれるように非常に複雑な音が出る。ヨーロッパ合理主義は複雑な条件の中から単純な結論をひきだすのに喜びを感じるのに対して、日本人は単純さの中に複雑な味わいを見つけ出そうとする。ヨーロッパの鐘はガラン

ゴロンと鳴るだけだが、日本人の耳は除夜の鐘のボーンという音が消えてなくなるまでの“余韻”をずうっと追いかけてゆく。虫の音を音楽的に受け入れるのが日本人の耳といえそうだ。

これは、英語のように子音の発音の多い言語で育った人間と母音の多い日本語で育った人間の頭脳構造の違いを反映しているのかもしれない。日本人はピアノやヴァイオリンは右脳で聴くのに対して、笙や箏などの和楽器は左脳で聴くらしい。芥川氏はこれを「ロゴスとパトスが入り乱れているような脳の構造」と称している。パトス+ロゴス=病理学なので、日本人の脳みそは病理学に向いているだろうか。

## ベートーヴェンの耳

聴覚障害には伝音性難聴と感音性難聴がある。内耳の三半規管まで音を伝達する外耳・中耳に障害がある場合が伝音性難聴、三半規管から先に障害がある場合が感音性難聴である。耳小骨の動きが悪くなる耳硬化症は伝導性難聴を呈する。伝音性難聴の特徴は、近くの会話は聞こえ、電話がかけられる。補聴器が有効である。ところが、ちょっと離れた場所からの音は全く聞こえない。ヴァイオリンの弦の調律はできるが、屋根を叩く雨の音は、たとえそれが嵐であっても全く聞こえない。

最近、江時久(エトキヒサシ)氏が「本当は聞こえていたベートーヴェンの耳」(NTT出版)と題する本を執筆した。江時氏自身が耳硬化症なのだ。「合唱つき」交響曲第9番など多数の名曲を作曲したベートーヴェン(Ludwig van Beethoven, 1770-1827)の耳は25歳ころから悪化し、その後全く聞こえなくなり、頭の中だけで作曲したというのが定説である。1987年4月、ウィーンの学者2人が、ベートーヴェンは耳硬化症だったと診断した。耳硬化症は“いつの間にか発生して緩やかに進行する両側性伝音性難聴”が特徴である。耳硬化症だったのなら、完全に聞こえなかったのではなく、本当は死ぬまで自分の弾くピアノの音は聞こえていた。だからこそ、あのような作品群を完成させられた！

一方、不得手なのが人との会話で、人間嫌いになりやすい。彼の初恋の、そして生涯思い続けた貴族の娘ロールヘンにどうしても求愛できなかった理由は、その劣等感からだった可能性がある。

## 踊るウィーン会議とベートーヴェン

ナポレオンによるヨーロッパ支配、22年にわたる戦争の時代が終結した1814年9月、待ち望まれた平和を打ち立てる(フランス革命以前の状態に戻す)ことを至上命令としたウィーン会議が開催された。ヨーロッパ全土の君主や大物政治家がウィーンに集合し、領土分配・再編の駆け引きが繰り広げられた。各国の領土的野心のために紛糾した会議が終了したのは1815年6月。この数ヶ月間、多くの首脳がウィーンの町に長期滞在した。会議中に起きた誤解を取り除き、当事者同士を近づけたのは「音楽」の力だった。音楽で、平和の喜び、輝く未来への期待、会議のできごとが表現された。連日のように開催された大規模な舞踏会ではワルツが演奏され、歌劇場や教会でも多くの曲目が演奏された。それらはすぐにピアノや小編成音楽に編曲され、一般庶民にも広く楽しまれた。

町中を官憲が闊歩する、国家権力による監視社会への変遷をもたらした長引く会議の中、ウィーン市民の社会的不安を解消してくれたのは、間違いなくワルツ(音楽と踊り)だった。そして、優れた作曲家・

演奏家たちがウィーンで優れた働きをした。モーツァルトの敵、ベートーヴェンやシューベルトの師、のちにウィーン楽友協会音楽院の指導者となった、かのアントニオ・サリエリも、大編成・小編成の多くの曲をウィーンに提供した。ウィーン会議は、“会議は踊る、されど進まず”と揶揄された---

ウィーン会議における音楽面のスターは、間違いなく、耳の不自由なルートヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827年）だった。祖国オーストリア帝国の勝利を祝福してウィーン会議のために作曲されたのが、カンタータ「栄光の瞬間」（作品136）である。そのほか、合唱曲を3曲やピアノのためのポロネーズ（作品89）も書かれた。会議開催中には、1813年に完成したばかりの交響曲第7番・第8番やウェリントンの勝利（戦争交響曲、作品91）といった管弦楽曲が演奏された。ウィーン会議の序幕を飾ったオペラ「フィデリオ」（作品72）は会議中に計30回以上上演された。この時期、ベートーヴェンはすでにウィーンの有名人となっていたが、社会状況と進行する難聴から「寡作期」（1813～1816年）にあったのだが---

ちなみに、ウィーン会議後の15年間はビーダーマイヤー（Biedermeier）の時代と呼ばれる。Biederは慎ましやか、Meierはよくあるドイツ語の苗字で人々を意味した。つまり、市民は政治体制に対する批判を慎み、慎ましやかに暮らさなければならなかった。その代わり、音楽はもちろん、絵画、彫刻といった芸術的活動が大いに奨励された。多くの舞踏会が開催されるとともに、ニコロ・パガニーニを筆頭とした超技巧派のヴィルトゥオーゾが活躍し、演奏会では技術的にも内容的にも難しい楽曲が演奏された。オーケストラと合唱団で総勢700人を超える大編成の演奏会も開催された。

ビーダーマイヤーの時代が終わるころには、ヨハン・シュトラウス1世やヨゼフ・ランナーが頭角を現し、ウィーンの町にダンス音楽が大輪の華を咲かせるに至った。

## 鼓膜とティンパニ

鼓膜 eardrum は外耳と中耳を境する日本紙のような円形の薄膜であり、tympanic membrane あるいは tympanum とも称される。オーケストラのパーカッションの主演ティンパニ timpani は tympani と書く。

一方に皮を張った釜型太鼓＝ティンパニの姿は中耳にそっくりである。ただし、中耳内部には内側に第二鼓膜と称される薄い上皮が覆っている。中耳腔（鼓室）内部を連結する耳小骨の表面も、薄い中耳粘膜（単層立方上皮）によって覆われている。鼓膜は平面的な膜ではなく、内側に浅く凹んで鼓膜臍をつくっている。鼓膜臍上部の内面には耳小骨のつち骨柄が付着している。

迫力のあるオーケストラ演奏にティンパニは欠かせない。ティンパニの皮が破れるほどの熱演は、聴衆の鼓膜が破れるほどに迫力があるといえそうだ。

## ティンパニ奏者の欲求不満

かの有名なベートーヴェンの交響曲第9番の第4楽章になると、決まって正直なティンパニ奏者は欲求不満がつのるらしい。合唱が「歓喜」を斉唱して盛り上がり、全員が力の限り歌いあげる最初のクライマ



ックス。ここで、ティンパニだけがフォルテシモからどンドン小さくピアノまでディミヌエンドしなければならぬ。

納得のゆかない指揮者の故岩城宏之氏（もとティンパニ奏者）は、東ベルリン国立図書館に保管されているオリジナル譜でその箇所を確認したという。ベートーヴェンの手書きのスコアにはディミヌエンドはない！ その代わりにフェルマータ記号が殴り書き。このどう見ても読みやすすくない手書きスコアを清書した当時の写譜屋が、書き写す際に勘違いして間違えたに違いない。

分厚いスコアを書き写すのだから、間違いの一つや二つはあるだろう。はて、プロのティンパニ奏者は現在、この箇所をどのように演奏しているのだろう。

## ダウン症の天才ピアニスト

越智<sup>おちあきひと</sup>章仁くんという愛知県在住 30 代のダウン症天才ピアニストがいる。2004 年、シンガポールでの第 8 回国際ダウン症会議、2005 年の愛知万博での生演奏をはじめ、小中学校や音大など全国各地で演奏活動を続けている。彼の 3 枚の CD は宝物。彼の音楽はすべて即興曲なため、楽譜は存在せず、小節線を感じさせない音楽である。絶対音感の備わった彼は、いつも感性に従ってピアノに向かう。ダウン症者の音楽的感性を再評価しよう。

NPO 法人アクセプションズのホームページによると、ダウン症の人の特性に以下の点があげられている。まさに、越智くんそのままのように思う。

長期記憶がよいが、時間の経過を把握するのは苦手。抽象的・漠然とした話は理解しにくい。思いやりが富み、感受性が高い。観察力・形態認知・空間認知に優れ、模倣上手。言葉で表現するより行動にあらわす方が得意。耳から理解することや話をしっかり聴くのは苦手。想像力や空想力が豊か。独り言が多い。理解した言葉と表出したい言葉のギャップや一時的な好き嫌いの感情の表出があるから、ダウン症の人はしばしば頑固だといわれる。手は器用だが動作が遅い。筋力の低緊張がある。

## 6. 下半身秘話

### お尻の話

痔核は人間特有の疾病である。静脈弁を欠く直腸(痔)静脈叢における慢性うっ血の結果、静脈瘤が生じる。さて、なぜ直腸静脈叢には静脈弁がないのだろう。哺乳動物が四足歩行をするときの心臓と肛門の位置関係を考えてみよう。肛門は心臓より高い位置にあるため、静脈血は自然流下により心臓へと戻る。つまり、逆流防止のための静脈弁は不要なのである。事実、静脈弁を有する静脈は、四肢の静脈と肋間静脈・腰静脈のみである。直立二足歩行を始めた人間では、直腸静脈叢はうっ血の運命に晒されたまま、十分な「進化」が遂げきれずにいるのだ。

直立歩行を始めた人間では、大殿筋とともに骨盤底筋群が著しく発達している。肛門括約筋を含む小骨盤腔内の筋肉を発達させることにより、腹腔内臓器をしっかりと支えているのだ。そのために、四つ足動物と異なる特殊事情が発生した。平田純一氏は「トイレットのなぜ？ 日本の常識は世界の非常識」(講談社 Blue Backs, 1996)の中

で明快に説明する。四つ足歩行の動物では、肛門を締めるための骨盤底筋はゆるくてよかった。排便時には直腸をお尻から突き出す、つまり、肛門をめくることができる。そのため、排便完了後に直腸が元どおりに戻って、肛門に便が付着することはない。大殿筋や肛門括約筋を発達させざるを得なかった人間では、肛門は形よく突き出たお尻の奥に収まっており、直腸を外部に突き出すことができない(直腸脱は、括約筋のゆるむ老年女性の病気だ)。つまり、排泄のたびに肛門に汚物が付着し、何らかの方法で拭きとらざるを得なくなったのである。

お尻をふくのに紙を使うようになったのは最近のことである。世界的にみると、現在でも紙で肛門を拭いているのは全人口の3分の1程度であり、植物の葉、木片や砂の使用や直接の水洗いなど、さまざまな方法が行われているそうだ。わが国で尻拭きに紙が使われたしたのは江戸末期らしいが、貴重品の紙を使えるのはほんの一握りの人たちであった。昭和初期になっても、庶民は藁やフキ、クズ、トチ、シダ、ダイズ、サトイモなどの葉っぱで拭いていたという。フキ(蓆)の名はどうやら「拭き」に由来するらしい。考古学の分野では、籬木(ちゅうぎ)と称される「糞べら」が多数発掘される場所をトイレとみなすらしい。籬木は明治時代まで全国あちこちで使われていたそうだ。

学生時代の感染症内科の講義で、「下痢便を拭くときに、便が指先につかないようにするには、紙を10枚重ねなければならない」と聞いたことが印象に残っている。いくら一生懸命にお尻を拭いても、所詮、完全に拭き取ることは不可能である。鈴木了司著「トイレと付き合う方法学入門」(朝日文庫、1995)による寄生虫全盛時代の逸話。ある産婦人科の医師が診察の合間に、ご婦人がたの蟯虫検査をした。例のセロハンテープ法である。産婦人科を受診する女性の多くは局部をきれいにしてくるはずなのに、蟯虫卵が3人に一人の割合で見つかったという。しかし、あまり強くこすると痔によくないし……。やはり、これからはウォッシュレットの時代でしょうか。同じ鈴木先生の言。トイレの使用後にトイレットペーパーを三角に折るご婦人がたへお願い。「どうか、汚れた指で折り紙はしないでください。」

(医学のあゆみ 178(7):464, 1996より転載)

## おなら考

医学系教科書に、不思議にも、ほとんど記載のない日陰者の一つが「おなら」ではなからうか。「屁」は、いわば価値のないものの代名詞。「屁とも思わない」、「屁のかっぱ」、「屁っぽい腰」、そして、「うちの最後っ屁」。おならが陽の目をみるとき、それは、腸管の手術後くらいかも知れない。今回は、そんなおならくんに堂々と登場願おう。

まず、おならの語源。大きめの国語辞典を紐解くと、「放屁の女房語」「鳴らすに由来か」とある。英語では、windあるいはfart。flatusと表現する場合もあるそうだ。ご丁寧な辞書もあった。「性交中に膣からおならのような音が発せられることがあるが、これを膣排気音 flatus vaginalis という。また、garrulitas vaginalis (garrulitas=鳥のさえずり)とも記される」。百科事典は、さらに歴史的な考察を加える。福富草紙という室町時代の書物に「腹はおなか、放屁はおなら」とあるそうだ。つまり、おならは由緒ある古典的なことばらしい。江戸期に、平賀源内が「放屁論」という「屁理屈」本を著しているが、彼いわく、おならの音には三等ある。ブツは上品、ブウは中品、スーは下品と。ちなみに、「屁」はガスの音を表した形声文字で、屁(へ)のよみは、比(ヒ)の音がなまったもの。部屋の起源は、屁をひる室を「へや」と

呼んだからとか。本当かしらん。

わが娘がまだ幼稚園に通っていたころ、彼女のお気に入りの絵本があった。その題名は「おなら」。この本の出だしが奮っている。見開き第1ページ「ゾウのおならは大きい」、次ページ「ライオンのおならはくさい」。草食動物は確かに大きなおならをよく出すし、肉食動物のおならは本当に臭いらしい。この単純な記述は、おならの性質をよく表している。おいもを食べるとおならが出る、とはよく言ったものだ。確かに、植物性の食餌は腸内発酵を誘発する。蛋白質の多い食餌は、おならのにおいのもとを増加させる。おならの悪臭の元凶は、硫化水素、メルカプタン、揮発性アミン、インドール、そして、スカトールと、いずれもアミノ酸由来の気体である。スカトール skatol という猛烈な悪臭のするこのトリプトファン分解産物は、薄めの水溶液にすれば芳香剤に使えるというから不思議。ちなみに、スカトロジー scatology は、糞便学から転じて、糞尿趣味を意味する風俗用の述語となっている。

おならの成分や量は、米国航空宇宙局 (NASA) の宇宙開発計画において、ずいぶんと解析が進んだという。宇宙船内で生じる事故のうちでもっとも恐ろしいのは、火災と爆発。そこで、宇宙船内で発生する引火性のガス、すなわち、おならの安全性が徹底的に調べられたのだそうだ。おならの7割は口から飲み込まれた空気に、2割は血液から腸へ拡散する炭酸ガスに、そして、残りの1割が腸内細菌による発酵に、それぞれ由来するとされる。おならの成分は窒素と二酸化炭素が主体で、酸素は腸壁から吸収されるためにほとんど含まれない。巷でよくいわれるメタンガスに関しては、面白いことがわかっている。メタン (CH<sub>4</sub>) は、3歳以下の乳幼児の腸内には検出されない。メタン産生菌は、成人にいたる過程で腸管内に定着するのだが、成人においても、メタン産生菌が検出されるのは3人にひとり程度に過ぎないらしい。

おならの量に関しては、アメリカ人学生ボランティアによるデータがある。おならは、1回あたり数 ml ~150 ml、一日量は1~3 リットルと試算されている。一日に飲み込む空気の量は数ℓ。つまり、腸管ガスのかなりの部分は、腸壁から血液へと吸収されるのだ。おならの量を左右する因子は、先に述べた食事内容といった外因のみではない。消化吸收能や腸管運動の低下に基づくガス産生の増加、腸管のガス吸収能の低下といったいわゆる「おなかの調子」の変化が、おならの回数に大きく影響する。ストレスによる胃腸運動低下は、内容物の異常発酵、すなわち、臭いおならにつながるし、ストレスからの開放による腸管運動の亢進は、大量のおなら産生に結びつく。ストレスはまた、呑気症をもたらし、おならの回数をふやしたりもする。マラソンや山登りの最中におならが出やすいのは、血液中にたまった炭酸ガスを腸内に放出して、腸が肺の機能を補っているためと解釈できよう。ウェルシュ菌といったガス産生性 "悪玉" 腸内細菌の菌数は、年齢とともに増加するというデータもある。

朝食後に便意をもよおす機序は、いわゆる胃結腸反射である。本屋さんや図書館に並ぶ本たちから発せられる何か (カビ?) は、しばしば私たちのS状結腸を刺激する。この有効成分は、いったい、便秘薬に採用されているのだろうか。こうした便意は、スーと一発すかすことで、とりあえず我慢できることが多い。残念ながら、そしてまた、興味深いことに、中身を出さずにガスだけをうまく排出できる、この芸当を支える直腸括約筋の働きのメカニズムは、いまだ十分に研究されていないのだそうだ。

(医学のあゆみ 175: 496, 1995 より)

## 経口糖尿病薬とおなら

$\alpha$  グルコシダーゼ阻害薬(ベイスン, グルコバイ)は, 軽症糖尿病にしばしば使われる経口糖尿病薬である。小腸粘膜における多糖類の吸収が抑制される。低血糖症状が重要な副作用にあげられるが, 低血糖時に二糖類であるショ糖(砂糖)を摂取しても, 低血糖は改善しない。必ず, ブドウ糖を持ち歩くことが患者さんに勧められる。ブドウ糖含量の多い清涼飲料水の代表はコココーラで, 350ml 中にブドウ糖が 13g 含まれる。ダイエットコークにはブドウ糖は含まれない。オロナミン C やポカリスエットにもブドウ糖が多い。

$\alpha$  グルコシダーゼ阻害薬の重要な副作用に「おならがよくでること」があげられる。吸収が遅れた糖質が大腸に達し, 腸内細菌によって分解・発酵されて炭酸ガスや水素ガスを発生することが原因である。投与初期に特に多い副作用である。この副作用は, 接客業の人にはとくに苦痛が大きい。同様に, おならが増える薬にラクツロース(商品名: モニラック)がある。高アンモニア血症(肝硬変症)や小児の便秘に用いられる。小腸の  $\alpha$  グルコシダーゼで分解されない合成二糖類(ガラクトースとフルクトースよりなる)で, 乳酸菌を増やして腸内を酸性にし, アンモニアの産生と吸収を抑制する。

## 結腸のなぞ

医学部3年生に対する消化管の講義のまとめにかえて, 毎年, いくつかの問題提起をしている。そのうちの一部をここに紹介したい。「結腸は哺乳動物(陸生)になって初めて認められるようになる。すなわち, 魚類, 鳥類や両生類に結腸は存在しない。ただし, 盲腸と直腸(総排泄腔)はある。進化論的にみてどう考察するか。」

結腸のない魚類や鳥類は, 排泄は大小いっしょに総排泄腔から垂れ流される。水中や空中でなく, 陸上で生活せざるを得なくなった哺乳類は, 就眠中に食われてしまわないように, とにかく, 一晩中排泄しない機構が必須であった。もし, 垂れ流し型の排便様式のまま眠ってしまえば, そのにおいて自分の居場所を敵に知らせることになり, たいへん都合が悪い。そこで, がまん型の排泄を可能とする結腸の進化が求められると同時に, 膀胱と直腸の分離独立もまた必須事項であった。言いかえれば, 結腸は, 胎盤, 乳腺, 前立腺と並んで, 発生学的には新参者の臓器に属しているといえる。小腸が, 多細胞生物にとって基本的に大切な臓器である点ときわめて対照的である。クラゲ, ヒドラやイソギンチャクといった腔腸動物には, 大腸はおろか, 中枢神経, 消化腺, 呼吸器, 循環器なども存在しないが, 吸収のための小腸相当器官はしっかりと備わっている。ヒトでも, ベテランの小腸には癌はなく, 新参者の臓器には癌が多発する事実は, たぶん, 自然の摂理に基づくものなのだろう。

結腸の役割は, 哺乳動物の習性によって大きく異なる。肉食動物では, 水分や電解質の吸収が最も重要な機能である。便を硬くして, 一晩貯めておくのだ。これに対して, 草食動物では, 結腸による栄養分の吸収は生存に必須である。植物の主要成分であるセルロースは動物由来の消化酵素では分解できないので, 結腸に常在する細菌が大きな頼りである。ウシでは, よく発達した同心円状の結腸が特徴だし, コアラに至っては, 小腸はごく短く, 栄養分の吸収は, ヒダのよく発達した大腸でもっぱら行われているのだそうだ。オーストラリアでの話題。最近, コアラの間でクラミジア性結膜炎の流行で, 失明・死亡する個体が増えているらしい。担当の獣医諸氏は抗生物質治療ができずに困り果てていると聞く。抗生剤を投与すると頼りの腸内細菌が死滅してしまい, 栄養失調が避けられないのだ。ウサギでは, 毎朝最初に排泄する柔らかい便を自分で食べないと, やせ細って死亡してしまう。腸内

細菌が準備してくれたビタミン類の補給に糞食は必須なのだ。もっとも、さすがのウサギ君も、昼間にする例の硬い便は決して食べないそうだ。

アジアの国々や沖縄地方には、ブタイレなる風習があったそうだし、今でも一部には現役で活躍中だそうだ。つまり、排泄されたホカホカのヒト大便を、下で待ちかまえるブタ君たちがあつと言う間におしくいただく方式である。さすがのブタ君も、冷めたごちそうは好まないそうだが……。この資源再利用の習慣は、ヒトとブタを生活環とする寄生虫の側からみると、何とも居心地のよいシステムだ。ブタイレの風習のある地方は、肝吸虫や有鉤条虫の濃厚汚染地帯と重なる。肝吸虫症は、黄疸と腹水で死亡する奇病として、明治の世になってからも、東北地方の一部ではずいぶんと恐れられていたらしい。有鉤条虫は、有鉤囊虫症(cysticercosis)という異所性感染を脳や眼球にきたしうる怖い疾患だ。ところで、場所によっては、たまにウシイレも見かけられるそうだ。純粹に資源再利用の観点から考えると、雑食動物のブタよりも、草食・反芻動物であるウシを利用したほうが、植物繊維の消化効率は高いであろう。

肉食動物の便やおならはとても臭い。動物性蛋白質に多量に含まれる硫黄分から、スカトールと称される香りのもとが豊富に産生されるからだ。消化効率がよいため、便の量は少ない。いっぽう、草食動物の便やおならは、比較的臭くない。その代わり、量が多い。欧米人の一日の大便量は100～150gだそうだが、日本人の平均便量はこの2倍程度に達すると推定されている。両者のにおいの比較をした研究者はいるだろうか。欧米人のほうがずっと臭いウンチをしていることが容易に想像される。日本人の腸長は、草食性習慣に基づく腸の長さを反映しており、健康的、つまり、長寿の秘訣といえるのだ。長い腸を納めるためには、より大きな空間が必要なのだから仕方がない。欧米型の食生活に変わりつつある現代日本人に、大腸癌が急増しているのは現実である。便の量やにおいの程度と大腸癌の頻度は、理論上、相関するはずである。便の量が少なく、おならがとくに臭い人は大腸癌に要注意ですね。

(医学のあゆみ 178(13) :936, 1996より転載)

## こやし

糞尿をこやしとして有効再利用する知恵は、戦前までの日本農業に大いに活かされていた。意外なことに、この知恵は中国と日本に限られていたらしい。中国では、紀元前から糞尿のリサイクルシステムがあった。わが国では、平安時代に人糞尿を施肥した記録があるらしいが、糞尿の有効利用が本格化するのは鎌倉時代からである。江戸時代になって都市が発達すると、貴重な肥料を一ヶ所に集めるために、長屋の端などの屋外共同便所が必需品となった。長屋のトイレに溜められた「こやし」は百姓に売られ、大家の貴重な収入源となった。地主から維持管理料としてもらう給料よりもずっと多かったのだ。店中の尻で大家は餅をつき」という川柳があるらしい。京都や大坂では、路傍に肥桶を並べて小用に用いられていたという。驚くことに、この辻肥は女性も利用(立ち小便)していたという。ちなみに、大名屋敷の糞尿は最上級品で、辻肥や町肥よりも値段が高かったというから面白い。どうやら、これは食事内容の差を反映した評価だったらしい。

貴重な肥料である糞尿を「こやし」として完熟させる場所が「肥だめ」だった。一定期間貯えると速効性の液肥＝下肥ができあがりである。昔懐かしい「田舎の香水」である。この完熟期間(3ヶ月)はもう一つ重要な公衆衛生学的意義をもっていた。この間に、回虫卵などの寄生虫卵が酸欠死するのだ。昔の人の経験

に基づいた知恵には敬服せざるをえない。

糞尿は下肥のみでなく、藁や枯れ草に糞尿を混ぜた堆肥づくりにも活躍した。江戸中期に来日したドイツ人医師のケンペルの著した「江戸参府旅行日記」では、次のような驚きが記されているようだ。街道はいつもきれいだ。なぜなら、落ちた松かさや枯葉は百姓家の薪不足の代用となり、道の真ん中に落とされた馬糞はまだ温かいうちに百姓の子供たちにかき集められて、畑へと運ばれる。擦り切れた草履も集められ、焼いた灰を糞尿に混ぜて肥料として使われる。糞尿は田畑や便所のそばの「肥だめ」に開けっ放しで溜められている。彼は、その臭いにずいぶんと閉口したらしい。

糞尿のリサイクルの習慣のまったくないヨーロッパ人は、では糞尿をどうしていたのか。ベルサイユ宮殿にトイレがあったか否かが繰り返し議論になることからわかるように、民家の内外にトイレはなく、野糞と立ち小便是あたりまえ。家の中では「おまる」が大活躍し、19世紀に入っても排泄物は窓から屋外へとばらまかれたそうだ。中世～近世ヨーロッパをコレラやペストが繰り返して襲ったのも当然だったといえよう。鎖国の影響を考慮すべきだが、江戸期の日本にこの二大死病がみられなかったことは、公衆衛生学的見地からも大いに評価されるべきであろう。

水洗トイレが当然になってしまった現在、糞尿は貴重な「こやし」から厄介ものの廃棄物へと、その姿を大きく変えてしまった。多額の費用とエネルギーをかけて廃棄物処理が行われるのだ。その上、水洗トイレに使われる上水道（飲める水）の量は、全消費量の2割にも達する。近年の水不足の大きな原因の一つとなっている。田畑は人工肥料で痩せ細ってきている。この悪循環を断ち切る試み、すなわち、雨水や再生水の利用、節水型トイレや下水処理場の汚泥の肥料化が早く普及することを切望したい。それにしても懐かしい「ポットン便所」。中学生のころ、技術家庭科担当の先生から聞いた跳ね返り（おつり）防止用秘策を思い出す。「離陸の瞬間に“ケツ”を捻るのがコツだぞ。」実は、学校や自宅の旧式トイレで何度も試してみたのだけれど、却って「おつり」が増えることのほうが多かったですね。

**参考図書：** 鈴木了司「トイレと付き合う方法学入門」（朝日文庫、1995）、鶴都留とおトイレ研究班「トイレの本 ② 地球環境編：自然はめぐる」（五月書房、1992）  
（医学のあゆみ 179: 198, 1996より）

## トイレ

欧米の病院を訪れると、わが国の病院との違いに、いやでも気づかされる。

まず、病院のにおいがしない、窓が広く、病室が明るい。病室に流しがあり、液体せっけん、紙タオルと消毒剤が備わっている。手袋はS,M,Lの3サイズがそろっている。ゴミ箱はキャスターつき。カーテンレールや蛍光灯は埋め込み式がふつうだ。廊下に出てみよう。消火器や備品入れはすべて壁掛け式だ。壁と床が接するところは直角ではなく丸みがついていて、ホコリがたまりにくい構造になっている。

私の知る限り、こんなところが多い。そしてトイレ。

大便器は、壁掛け式。排水管は壁側に埋め込まれ、体重を支えるため壁が分厚い。ふつうにみかける床置き式と違って、真下が空いているので掃除がしやすく、清潔さを保てる。こうしたトイレの壁掛け式ユニットを、日本の病院や老人ホームなどの福祉施設で見つけることは難しい。

メーカーに聞いてみると、日本でも10年以上も前から売られているが、超高層ビルなどのオフィス需要が中心らしい。壁の厚みまで考えると割高につくだろうし、まだまだ少数派だ。病院設計者も医療関係者も、欧米では常識になっているこうした事実あまり気づかなかったようだ。

(朝日新聞夕刊科学欄、連載「病理医の目」第10回、1999.2.24)

## 紙おむつ

高齢化社会では、大人用の紙おむつが大量に使用される。ずっしりと重い、使用済みの紙おむつは、病院から出ると、通常は「感染性廃棄物」として取り扱われるが、家庭から出れば一般ごみだ。どこかおかしい。

廃棄物処理法による感染性廃棄物は「医療関係機関等から出されるごみで、感染の危険のあるもの」と定義されている。具体的には、病院、診療所、衛生検査所、老人保健施設、医歯薬系研究機関などからのごみが対象だ。企業や学校の医務室や薬局は含まれない。

在宅医療の普及で一般家庭でも、紙おむつどころか、腹膜透析器具、インシュリン注射針、点滴装置などが使われている。しかし、これら使用済み機器に対する国の法規制はなく、回収システムも市町村まかせになっている。

ただ、紙おむつについて言えば、そもそも本当に感染性廃棄物として処理されるべきだろうか、という疑問が残る。病院から出るものでも、こうした感染危険度の低いごみは一般ごみと同等でよいというドイツの考え方の方が、合理的だと思う。

紙おむつを使わず、肌触りのよい布おむつを加熱消毒できる洗濯機で洗っている大学病院もある。地球環境に優しい実践で、ぜひ見習いたい。

(朝日新聞夕刊科学欄、連載「病理医の目」第13回、1999.3.3)

## 非能率

非効率を絵にかいたような昆虫の話を2つ。

カツオブシムシという小型甲虫類（鞘翅目）がいる。百科事典には、幼虫・成虫とも鱈節などの干魚、動物剥製、毛皮、カイコの繭を食い荒らす害虫と説明されている。カマキリタマゴカツオブシムシというカマキリの卵の大好きな仲間もいる。法医学の領域では、カツオブシムシの仲間は、蟻や蛆虫の去ったあとの乾燥・ミイラ化した屍体を食い散らす昆虫である。屍体を蚕食するヒメカツオブシムシやトビカツオブシムシの同定が死後経過期間の推定に応用できるとする、法医学者の玄人っぽい報告がある。この虫たちの仲間は、人間の骨格標本に残る腐肉をきれいに食べてくれるので、その筋では重宝がられる。

さて、ここに登場願うのは、昆虫収集家の敵、昆虫標本が大好きなヒメマルカツオブシムシである。一年の大半を幼虫の形態で過ごし、10回近い脱皮を繰り返す。春先に蛹となり、一月ほどで成虫となる。羽化後に交尾し、10日間で20~200個の卵を、エサとなる昆虫や動物の標本、毛織物や動物質の食品に産みつける。ここまでは型通り暗所で生活するのだが、実はこの先で説明できない行動をとる。つまり、産卵を終えた成虫は突如昼光性へと変身して、庭に咲く白い花に集まる。1~2ヶ月の間、花蜜や花粉を無駄食いして、そして、なすこともなく死んでゆく。5~6月に咲くマーガレットやフランスギクの花芯に群がる体長2~3ミリの黒いゴマのような甲虫だ。さて、この非効率はいったい何のためだろう。God knows.

ギフチョウとヒメギフチョウというアゲハチョウ科の華麗な蝶「早春の女神」がいる。両者は南部日本の山間部にギフチョウ、北部地方の山々にヒメギフチョウと、みごとに住み分けている点は、昆虫図鑑に堂々と載っているほど有名である。食餌植物も、それぞれ、カンアオイ類、ウスバサイシン類と異なっている。ギフチョウ属はなぜ、まとめて産卵するのだろうか。彼らは、食餌植物の葉裏に径1ミリほどの真珠色の卵を10数個まとめて産みつける。孵化した幼虫は猛烈な勢いで葉を食い散らす。1株の葉の量は10匹を越える幼虫の成長に十分な量ではない。そこで、幼虫たちは新しい株を求めて、地面を這う危険な旅へと出発する。どうやら、無事に蛹の前の5齢幼虫へと変態できるのは、せいぜい5%程度の確率らしい。どうして、翅のある親虫は株から株へ移動して1個ずつ産卵しないのだろうか。現に、アゲハやモンシロチョウは食餌植物の葉に1個ずつ産卵する。ギフチョウ属は、他のアゲハチョウ類ほど進化していないからだろうか。

いや。もし、食餌植物に1個ずつ産卵したとしたら、繁殖力の大きくないカンアオイやウスバサイシンはあっという間に食べ尽くされてしまうに違いない。ギフチョウ属の産卵の低効率は、食餌資源の消費を制限することを通じて、結果的に種の保存に必須なのである。つまり、繁殖力を小さく抑えることが、自らの存続のための自然の知恵。ただひたすらに高効率化を目指す生き方は必ずしも賢明でないということが理解される。ちなみに、食餌植物に1個ずつ産卵するアゲハチョウの仲間には、寄生蜂や寄生蠅の存在が知られており、彼らによって個体数がみごとに調節されている。「地球上のあらゆる生物は、他の生物との関連の中で共存している」ことは生態学の基本原理である。

はてさて、高効率追求型の人類の行く末やいかに？

**参考資料：**室井綽著「動物の観察」（カラーブックス555、保育社、大阪、1981）

三島次郎著「トマトはなぜ赤い。生態学入門」（東洋館出版社、東京、1992）

（医学のあゆみ180:672,1997より転載）



## サルには閉経がない

ずいぶん以前の話だが、高崎山のサルの話が新聞をにぎわした。あるグループのボス猿が別なグループの「おばあちゃん猿」に惚れて自分のグループを飛び出したため、いまでは一挙に一兵卒になりさがってしまったという。そして、その魅力あふれるメス猿は人でいえば 70 歳に相当するという。

この話には納得できないため、一言もの申す。

ある深夜番組での特集をみた。そして、東武動物公園、動物園の園長さんの話に驚かされた。ニホンザルには閉経がないという。閉経という現象がみられる哺乳動物は、人と飼い犬、飼い猫を除くと、自然界ではゾウが唯一の例外なのだそう。ただし、閉経になったメスゾウは自ら群を離れて餓死してゆく。その深夜番組の主題は、“だから、長い老後のセックスをエンジョイしましょう” だったのだが――。

たしかに、50 歳で閉経のあとも、それまでの生殖可能年齢と同じくらい生きる現代の日本人にとって、この主題が大きな意味をもつことは否定しない。

さて、2つの話をつなげてみよう。上の計算は明らかにおかしい。まだこどもの産めるこのメス猿は大いなる中年の魅力、強烈なセックスアピールを発揮していたに違いない。サルを人の年齢に換算する際に、日本人の平均寿命である 80 歳を当てはめた点が問題なのだ。日本人が平均して 80 年以上も生きることが自然の摂理に反していると考えた方がいいのではないだろうか。人の寿命がほぼ閉経の年齢だった昔の日本や現在の発展途上国のほうが生理的なのかもしれない。

急流を遡上したサケは産卵・射精すると死亡する。セミも交尾・排卵を終えると一生をとじる。越冬するカミキリムシはいるそうだが、そうした非効率性は自然界では例外的なのではなからうか。がんを含めた成人病が 50 歳以上の人に急増するのは、いってみれば、きわめて自然な現象なのだ。医療をはじめとするさまざまな人間科学の進歩・普及は、間違いなく私たち人間（個人）の生活に快適さをもたらしているが、いったい、人類という哺乳動物の種の保存に本当に前向きに貢献しているといえるだろうか。

戦後、日本人の寿命は 30 歳近く延びたが、いったいこの延びのどれほどが医療によるのだろうか。ある計算によると、おそらく 1 歳分にも満たないのではないかという。寿命の延びを大きく支えたのは、経済的裕福さからくる安全な食事、空調の整備、上下水道の整備、交通手段の発達、教育の浸透など、社会のインフラの整備・発達によるとする見方は正しいだろう。医療者としてはちょっと寂しい数字だが――。

筆者もそろそろ 50 歳に近づく（1995 年時点での話）。200 年近く昔の伊能忠敬がそうであったように、いったん死んだつもりでつぎの新たなしごとにとりかかるべきタイミングかもしれない。と思いつつ、精一杯の挑戦をしている。

（医学のあゆみ 172: 135, 1995 より）

## 生物界の摂理 ～生殖年齢を過ぎたら生物は死ぬ運命にある～

ずいぶん以前の話だが、高崎山のサルの話が新聞をにぎわした。あるグループのボス猿が別なグループの「おばあちゃん猿」に惚れて自分のグループを飛び出したため、今では一兵卒になりさがってしまったという。その魅力あふれるメス猿は人でいえば 70 歳に相当するという。

この計算は明らかにおかしい。なぜなら、自然界のサルには閉経がないからだ。まだ子供の産めるこのメスは大いなる中年の魅力を発揮していたに違いない。

サルを人の年齢に換算する際に、日本人の平均寿命である 80 歳を当てはめた点が問題なのだ。日本人が平均して 80 年以上も生きること、閉経後もそれまでの生殖可能期間と同じくらい生きるということが自然の摂理に反している。人の寿命がほぼ閉経の年齢だった昔の日本や現在の発展途上国のほうが生理的なかもしれない。急流を遡上したサケは産卵・射精すると死ぬ。セミも交尾・排卵を終えると一生をとじる。

60 歳を超えた筆者も、200 年昔の伊能忠敬がそうであったように、いったん死んだつもりでつぎの新たなしごとにとりかかるとすべきタイミングだろう（この教科書づくりもその一貫）。ああ、展覧会での里帰りした伊能図のみごときにはため息すらでなかった。地図の正確性のみならず、全国津々浦々、離れ小島を含めて歩き尽くしたことは実に驚異的。しかも、あれが 50 の手習いだったとは！ぜひあやかりたい筆者あこがれの人物だ。

## 勃起障害になりたくなければ、禁煙が欠かせない？

かつてサンデー毎日の 1995 年 1 月 8・15 日合併号に、「タバコでインポになる」と題した記事が掲載された。記事は、米国疾病防疫対策センター（CDC）が発表した学術論文に基づいている。31 歳から 49 歳までの壮年期男性（ベトナム退役軍人）4,462 人を対象とした調査の結果、性的不能症状（1 年間以上にわたって、性交に十分な勃起が得られない状態）を訴えたのは、非喫煙者の 2.2% に対して、喫煙者が 3.7% と有意に高率であった。インポテンツ（陰萎）に悩む男性を治療するに当たって、禁煙の奨励は必須事項である。

インポテンツは、一般に 50 歳以上に多く、糖尿病、高血圧などの生活習慣病によって助長される傾向がある。さらに、向精神薬、降圧剤、抗潰瘍薬などの成人病用治療薬が勃起障害を引き起こす可能性もある。しかし、性機能障害を訴えて来院する高齢男性においても、糖尿病などの病気の要因が見いだされるのは 3 分の 1 ほどにすぎない。インポテンツの発症には、やはり、何といても、心理的要因が重要である大きく関わる。60 歳以上の男女を対象としたある調査では、男性の 58%、女性の 81%（配偶者がいる場合は、男性 43%、女性 45%）が性生活に何らかの不満をいただいていたようだ。

最近では、患者さんにとって侮蔑的であまいなことば言葉、インポテンツの代わりに、勃起障害（ED: erectile dysfunction）の単語が用いられる傾向にある。

勃起に関わるホルモン VIP という "非常に重要な" 神経ペプチドがある。VIP は、血管作働性腸管ペプチドの略で、平滑筋弛緩作用、血管拡張作用の強いホルモンである。勃起の科学的メカニズムにおいて重要な神経伝達物質がこの VIP なのである。勃起は、陰茎海綿体に血液が充満することによって生じる。

勃起は、陰茎海綿体に血液が充満することによって生じる。海綿体は、ヘチマ形（へちまがた）の海綿体洞の集合体であり、ヘチマのヘタに相当する部分にらせん状にうねった「らせん動脈」が入る。このらせん動脈の中膜平滑筋には、おびただしい数の自律神経（副交感神経）が分布している。性的興奮によって、これらの神経末端からアセチルコリンと同時に VIP が分泌されると、らせん動脈の平滑筋は弛緩し、血液が洞になだ

れこむ結果、勃起がもたらされる。ちなみに、交感神経が興奮すると、平滑筋は収縮し、勃起が収まる。喫煙は、ニコチンの作用により交感神経系の興奮状態を引き起こし、EDへとつながる。当然ながら、VIPの局所注射は持続性の勃起を誘発する。

EDの治療薬として華々しく登場した薬が「バイアグラ Viagra」だ。この薬は、VIPとは別の勃起誘発物質（一酸化窒素という神経伝達物質によって細胞内に増加するサイクリック GMP）の分解を防ぐことで効果を発揮する。つまり、勃起を長く保てるのだ。そのこの命名はなかなかしゃれている。Viagraとは、生命を意味するvitaとナイアガラNiagaraの合成語だそう。ナイアガラの滝のように激しい“いのち”を与える薬なのだ。

VIPや一酸化窒素に富む副交感神経は、脊髄の下部、仙髄の灰白質を中枢とする勃起神経（陰部神経）を通して、陰茎を始めとする骨盤臓器に分布している。直腸がんに対する根治術にマイルズの手術がある。この大手術では、がんのある直腸に対して肛門を含めて切除し、人工肛門（大腸を腹部の皮膚に開口させる方法）をつくるが、それと同時に、骨盤腔内のリンパ節もとり去ってしまう。このとき、勃起神経がズタズタに切断されるため、男性の場合、手術後の性生活はあきらめざるをえない人が大部分だった。さらに、膀胱括約筋障害による排尿障害（おもらし、おしっこがでない）も半数以上の人に観察された。

「生きていられるだけありがたいと思え」が、従来の医療者の考え方だった、と指摘されてもいたしかたない面が確かにあった。患者さんの「生活の質(QOL)」を高めるという当然の視点から、神経温存手術が盛んになってきたのは、残念ながら、この20年ほどのことなのである。

山之内製薬から脳代謝賦活剤として発売されているエレンという錠剤には、陰茎が勃起する副作用が知られている。この効用は、どうやら陰茎におけるVIPの放出作用によるらしい。また、滋養強壮によいとされる朝鮮人参エキスにも、VIPに類似した物質が含まれているという。しかし、VIP軟膏なる奥の手は、残念ながら無効である。なぜなら、陰茎海綿体組織は、結合組織性の厚い白膜で包まれており、塗り薬の成分はなか中までとうてい染み込まないからである。

VIPを過剰に産生する腫瘍が膵臓や副腎髄質に発生すると、大量の水様性下痢が認められる。国立がん研究センターのとある先生の談話。あるとき、VIP過剰症状を示す男性患者さんに尋ねた。「もしかして、立ちませんか？」ってと。その結果、——。主治医と患者さんの双方からひどく叱られたそう。こんなひどい下痢なのに立つわけないだろうと。

(医学のあゆみ 175: 418, 1995 を改変)

## コンドームの歴史

ベネトン社がわが国ではじめてコンドームのテレビコマーシャルを試みたことが物議を醸している。日本製コンドームは世界最高の品質と賞賛されていることもあって、わが国では近年のAIDS（エイズ）騒動よりずっと以前から、ピルが避妊法の主流だった欧米とは異なり、避妊法の8割近くがコンドーム使用であった。世界的には、唯一のAIDS予防具としてコンドームの需要がますます高まるなかで、日本でのコンドーム消費量は横ばい状態であるという。日本に9社あるコンドームメーカー間の販売競争は逆に熾烈化している。製品には、耐久性や機能性のみならず、ファッション性も求められてきている。

コンドームは16世紀半ばにイタリアの解剖学者 Gabriele Fallopio (1523~1562) により布 (リネン) 製の鞘状の器具が当時、大流行していた梅毒の予防用として考案されたのがはじまりであるとされる。Fallopio (Fallopius) は女性生殖器の解剖に関して処女膜や陰核を含めて、はじめて詳細に記述したことで名を残した。卵管をラッパ管とよんだのもこの人物で、現在でも卵管はしばしば、ファロピウス管 (Fallopian tube) と称される。

話はすこし脱線するが、処女膜 (hymen, 発音はハイメン) は、ヒトとモグラにしかない貴重品である。ギリシャの婚姻の神ヒュメーン (Hymen) がその命名の由来だそう。美青年ヒュメーンは海賊に襲われた少女らを果敢に救い出し、彼女らはみな好きな恋人と結婚できたのだ。

本格的な避妊用のコンドームは1706年にヤギの腸でつくられた。発明者は、イギリス国王チャールズII世の侍医で、かつて近衛歩兵第一連隊の大佐を勤めたコントンであった。彼はこの発明の功績で、騎士 (ナイト) の称号を与えられた。“コンドーム (condom)” は、このコントン医師の名にちなんだものとされる。彼は、ヤギの腸を適当な長さに切り、陰干しの後、油脂でなめして柔らかくしたのだ。できあがりには、長さ19 cm、厚さ0.04 mmの超薄皮膜製であった。イギリスでは国中のあちこちの牧場で、羊毛とともにコンドームがつくられ、盛んに輸出されたという。その後、魚の浮袋製のコンドームもつくられたが普及せず、20世紀になってゴム製品に代わるまで、この腸製が圧倒的に人気があった。

1843年、アメリカのグッドイヤーによりゴムの加硫操作が発明され、1874年 (明治7年) にはついにゴム製のコンドームが登場した。国産第一号の天然ゴム製のコンドームが製造されたのは1909年 (明治42年) のことであった。1934年 (昭和9年)、ラテックスゴム製コンドームが開発された。1960年 (昭和35年) ごろには、ウェット加工、着色、薄さへの挑戦がなされ、たとえば厚さ0.02 mmといったような今日の高品質がもたらされた。AIDS多発地域である東アフリカではホテルなどの男性トイレにコンドームが無料援助されていると聞く。

1994年8月に横浜で開催された第10回国際AIDS会議ではコンドームの展示がなされたそう。ソウル、アルペールビル、バルセロナと続くオリンピック大会でも選手をAIDSから守る名目で選手村にコンドームが無料で配布された。バルセロナ五輪では6カ国の製品がテストされ、結局、フランス製が採用されたのであるが、実は、この製品は日本の某会社が製造し、フランスで包装されたものだったそう。さきに広島で開催されたアジア大会でもコンドームの無料配布が行われたそうだが、これもAIDS予防の課題だったのだろうか。

最近ではAIDS感染防止の目的から女性用コンドームが登場した。デンマークで開発されたこの新兵器はポリウレタン製で、全長が15 cm、開口部の直径が7 cmの袋である。男性が男性用コンドームの使用を拒否したとき、女性の意志でみずから装着するといった使い方が、とくにその筋の女性らに奨励されている。AIDSの蔓延で20世紀初頭までに総人口の減少が予想されているタイでは、風俗業女性に対する女性用コンドームの無償配布が公衆衛生省により検討されている。AIDSに対する治療薬のない現在、知識という名のワクチンとともに、コンドームによるAIDS予防への期待はきわめて大きい。

(医学のあゆみ 174: 158, 1995 より)

(実は、「医学のあゆみ」に記述したこのエッセイに対してもと医科学研究所長の小高健博士から、コンドームに関する最近の唯一の医学文献と評価されたことがとても懐かしい。小高先生のコメントが次の「小

夜衣」の話へとつながった。)

## 小夜衣

「小夜衣<sup>さよごろも</sup>」とはもともと、新古今和歌集にも登場する夜着のことだ。インターネットで検索すると、現在では静岡県菊川町の森本酒造の銘酒として名が通っていることがわかる。江戸期の花魁<sup>おいらん</sup>や町娘の名にもよく登場する。愛知県知多半島、武豊町大足の夏祭りは、悲劇のヒロイン、小夜衣の霊を慰めるために行われる。花魁<sup>さよぎぬ</sup>、小夜衣をヒロインとする怪談浪曲“小夜衣草紙（さよぎぬぞうし）”という題の浪曲もその筋では有名らしい。都内の談氏に電話で問い合わせたところ、いたく感激されて、招待券を頂戴したのが懐かしい。この話を聴き通すには何日もかかるので、毎日寄席亭に通う必要があるそうだ。

小夜衣には実はもうひとつ別の意味があった。市川厚一とともに行ったウサギの耳に対するコールター発癌実験（大正4年、1915）で有名な東大病理学教室の第2代教授、山際勝三郎博士（1863～1930）は、明治40年（1907）3月、神奈川県<sup>の</sup>国府津で結核の療養をしていた。山際博士は明治32年（1899）2月に結核を発病し、第8回目の転地療養中だった。そのころ書かれた小夜衣に関する川柳が、のちにまとめられ、“癌出来つ 意気昂然と 二歩三歩”の句で有名な「曲川句集」の中に10句ほど収録されている。

じゃまなれど よきなくつかふ さよごろも  
なにとなふ ものたらずおぼゆ さよごろも  
いやなやく すいてはせぬと さよごろも  
ごむのかさ ひとへでかほが あわされず

そう、“さよごろも”はコンドームの愛称だ。確かに言いえて妙のネーミングだ。国産のゴム製コンドームは明治42年（1909）が最初で、品質的に粗末だったらしい。山際博士が使った製品は輸入品だったと思われる。しかし、清貧だった山際教授が高いコンドームを買ったとは思えない。どこかの商社マンから提供された可能性が考えられる。病理学者が日本のコンドームの創世記を切り開く役割を果たしたといえるかもしれない。

大正15年（1926）のノーベル医学生理学賞はデンマークのヨハネス・フィビガーが示した寄生虫による発癌に対して贈られた。のちに誤りであることが証明されたこの発癌実験でなく、山際・市川のコールター発癌実験こそ、発癌史上不滅の業績だった。

（山際勝三郎氏に関する情報は、もと医科学研究所長、小高健博士よりいただいた。）

## 腎虚

江戸時代の川柳に「ああ少ないかな腎と地黄丸」。論語の「巧言令色、鮮<sup>（少）</sup>ないかな仁」のもじり。地黄丸は、江戸期に強精剤としてはやった漢方生薬である。カイケイジオウ、またはアカヤジオウの根を乾燥させたものに、他の成分を調合して六味あるいは八味地黄丸として売り出したそうだ。ここでいう「腎」は腎水、すなわち精液のことである。「壮腎丹」と称する男性用媚薬も当時売られていたそうだ。

腎臓は五臓六腑の一つ。漢方で言う五臓とは、心臓、肺臓、肝臓、脾臓、そして腎臓。六腑は、大腸、小腸、胆、胃、膀胱、三焦をいう。ちなみに、臍臓は五臓六腑に含まれず、その存在は知られていなかった。「臍」の字は、中国へ逆輸出された和製漢字(国字)なのである。三焦は、上焦(心臓の上)、中焦(胃の中)、下焦(膀胱の上)からなり、それぞれ、飲食、消化、排泄を司ると考えられていた架空の内臓である。面白いことに、腎臓は排泄ではなく、人間の精力を司る臓器とされていたのである。はて、女性の腎臓にはどんな機能が考えられていたのだろうか。

腎に精力がたまって、元氣横溢、淫乱の性向のあるものを「腎張り」と称した。逆に、腎が空になる「腎虚」はインポテンツ(ED)のことである。辞書には、腎虚とは「房事過多による心身の衰弱、陰萎」とある。房事の「房」は寢室のことで、房事はすばり性交を指す。江戸時代、男には一生に使える精水(精液)の量は決まっていて、若い頃に消費し過ぎると男の盛りに腎虚になると信じられていた。放つ量はおよそ五千回で、最後には粘っこい固まり「芯」がぼんという音とともに出る。芯ができれば打ち止め、男の終わりなのである。

ちょっと計算してみよう。当時の男性の平均寿命を50歳と想定し、15歳から死ぬまで現役と長めに仮定する。年間のセックスの回数は $5000 \div 35 = 143$ となる。最近のデータでは、日本人成人男性の平均の年間性交回数は50回ほどで、ヨーロッパ男性の平均150回(最高はギリシャの163回)に比べて3分の1らしい(世界の平均値は100回)。ということは、江戸時代の男性は現代のヨーロッパ人並みにお盛んだったことになる。

腎虚を患っていた晩年の豊臣秀吉と淀君の間に「お拾(ヒロイ)＝秀頼」ができたのは歴史上のなぞといえるらしい。秀吉は精力剤として、虎の心臓を服用したらしいが、とてもその効果だとは思えない。徳川家康は、腎虚治療のため、オットセイの乾燥陰茎をわざわざ蝦夷地から取り寄せたそうだ。17世紀後半の江戸では、エジプトの木乃伊(ミイ)なる南蛮渡来の若返り・強精剤が爆発的なブームになっている。多くは偽者だったに違いないが、乾燥した人の遺体の粉末や小片と称するものが堂々と市中で販売されていたのである。

江戸時代の町医者を使用した病名は実におおまか。卒中、労咳、癩、霍乱(カクシ＝食中毒)、疝氣(セキ＝下腹部の慢性疾患)、疫病と並んで、腎虚は重要かつ頻用される病名だったようだ。腎虚を伴う他の病気には、消渴(シヨウカク＝糖尿病)、脚氣があげられていた。糖尿病に伴う腎虚は、今も昔も厄介な病態といえよう。もともと、ある法医医者によれば、糖尿病患者の腎虚(陰萎)は、しばしば「電信柱」とか。つまり、家の中でなく、外に立つもの。どうやら、糖尿病を言い訳に不倫を重ねる中年が少なくないらしい。

参考資料: 堀和久著「江戸風流医学ばなし」(講談社、1993)

(医学のあゆみ 180: 516, 1997を改変)

## 勃起障害 (ED)

勃起障害, すなわち ED (erectile dysfunction)は性交時に十分なだけの勃起が得られない, ないし十分な勃起が維持できないため, 満足な性交が行えない状態をさす。従来使われていた「インポテンス」(性的不能)の代わりに ED が広く使われるようになってきた。有病率は20~30代で5%, 40代で16%, 60代では57%と頻度の高い病態である。器質的 ED (神経支配異常, 血管・組織の傷害や内分泌障害による)と機能的 ED (心理要因による)に分けられる。クエン酸シルデナフィル(バイアグラ)は有効率80%以

上と高い ED の治療薬である。陰茎海綿体の一酸化窒素を増やすのが作用機序であるために、狭心症に用いられる亜硝酸剤（ニトログリセリン）との併用は避けなければならない。

## 家康が愛用したバイアグラ

徳川家康は 60 歳を過ぎて 3 人の世継ぎをもうけたツワモノである。豊臣秀吉も 57 歳で秀頼をつくっている。彼らの精力の秘訣をそっとう覧に入れよう。

中国青海空港のロビーでみつけた品で、ちょっとお高かったがつい買ってしまった。“海狗腎”（海のイヌの腎臓）と書かれた容器の中に納まっているのは干からびたオットセイのペニスと睾丸だ。リボンがしゃれていた。海狗はオットセイのことだと直感した。漢方の“腎”は精力のもとをつくる臓器で、男性生殖器を意味する。江戸時代、“腎虚”はインポテンスのことで、中年男性にとって重要な疾患のひとつだった。

家康は、南部藩（岩手県）に命じて海狗腎を手に入れたようだ。おそらく、当時北の海にたくさん生息していたはずの日本アシカの“腎”だったのだろう。この秘薬を煎じて飲んだ効果はてきめんだった(?)。

その後、上海や北京のデパートで、シカやクマなどさまざまな動物の“腎”の干物がところ狭しと並んで売られている様子を目にした。紹興酒に漬けて飲むといいと説明された。中国ではまだ現役で活躍している漢方薬のようだ。

## 元気がない精子の話

卵子は加齢に従って劣化するため、40 歳を超えるとダウン症児出生率や不妊症が増加する。これに対して、毎日再生産されている男性の精子は原則として劣化しない。加齢とともに精巣の精子製造能力や精子自体の品質劣化が生じるとしても、それは誤差範囲内である。ベテラン男性の生殖能力で問題となるのは、勃起と射精の能力の方である。というわけで、高齢になって子づくりする男性は珍しくない。精子数が少ない、あるいは精子運動率の低い男性の場合、加齢の問題ではなく、個体差といえる。

先日、興味深いテレビ番組をみた。チンパンジーの生殖能力の話だった。発情期を迎えたチンパンジーのメスは、群れのあらゆるオスと次々と交尾する。複数のオスの精子が同時にメスの子宮・卵管内にあるため、精子間競争によって運動能力の高い“優秀な”精子が選別される。事実、チンパンジーのオスの精液中では、きわめて多数の精子が活発に動き回るそうだ。ヒトの場合は、チンパンジーに比べて精子密度が圧倒的に低く、かつ運動率も低い。

どうして、ヒトの男性の精子は元気がないのだろう？

どうやら、ヒトの繁殖行動、“一夫一婦制”が原因らしい。

哺乳類のオスは、ヒトの男性と同じく、ヘテロ XY 型の性染色体をもつ。哺乳類は基本的に“一夫多妻制”で、オスは子育てに関与しない。メスがオスを選ぶために、オスにかかる性淘汰圧力が激しい。つまり、一夫多妻制の社会では生殖能力的に優れた（優秀な精子をもつ）オスが生殖機会を独占する。こうして、Y 染色体の選別が絶えず行われ、Y 染色体の健全性が維持される。チンパンジーのような“乱婚制”

社会における Y 染色体の選択もわかりやすい。

一夫多妻制や乱婚制の社会では、哺乳が必須な子育てはメスが行う。ヒトの場合、子どもの成長に長期間を要し、メスだけでは子育てができない。そのため、子育てに男性が関与しやすい一夫一婦制を発達させてきた。結果として、男性（オス）が女性（メス）を選ぶようになった。ヒトでは、豊かな乳房や臀部をもつ女性が男性に好まれるなど、性淘汰圧力は女性に強い傾向がある。ちなみに、哺乳類で一夫一婦制をとる例はまれで、一般に、肉食動物など育児に手間のかかる場合が多い。

一夫一婦制、つまり、男性が妻（女性）と子どもを養う体制では、大多数の男性が生殖に関与できる、男性間の性的な競争が極端に少ないこのシステムは、Y 染色体の淘汰圧力の最小化を招いた。その結果、ヒトの Y 染色体の劣化が加速して、精子の元気度が低下したというわけだ。

## 細胞標本から知れる性生活の姿

病理業務で扱う細胞標本に究極のプライバシーが現れてしまうことがある。

ある中年女性が帯下の増加を訴えて来院した。10 年来、避妊リング (IUD) を入れっぱなしにしていた。婦人科医はとりはずした IUD の周囲に付着する白色の滲出物を塗抹して細胞診検査に提出した。そこにみえたのは、炎症反応を伴う放線菌のコロニーと好中球を貪食するアメーバだった (写真)。このアメーバは、その形態所見と PCR 解析結果から、口腔内、特に歯肉間隙に常在する非病原性の歯肉アメーバ (*Entamoeba gingivalis*) と判明した。アメーバ数は、歯槽膿漏患者で特に多い。歯肉アメーバは赤痢アメーバと同じく、ミトコンドリアを欠く嫌氣的生物であり、その増殖には嫌氣的環境が必須である。IUD という異物に付着するように増殖する偏性嫌氣性菌である放線菌 (*Actinomyces israeli*) の感染があつて初めて歯肉アメーバの増殖環境が整う。本患者の放線菌と歯肉アメーバの由来は、セックスパートナーの口腔である。oral sex はこの病態の必要条件だが、十分条件ではない。

子宮頸部擦過細胞診を利用した子宮頸癌検診は広く普及している。要精査率は 1.1%、癌発見率は 0.14% とされている。つまり大部分は正常で、日常業務としては単調な作業だ。ある病院で細胞標本に精子の見つかる割合の統計をとってみた。対象者の多くは主婦であり。精子発見率が最も高かったのは 40~50 代。検査前日でもコンドームなしの性生活が営まれているらしい。あるとき、83 歳の女性の細胞診検体に精子を発見した。年齢の間違いだらうと思い、担当医に聞いてみたのだが、「年齢？正しいですよ。元気なおばあちゃんでしたが。」ただただ、拍手でした。

## 医学用語の中のゴンと性風俗の変化

J リーグ、ジュビロ磐田の中山雅史選手のニックネームであるゴン (gon) に少々こだわってみたい。

gon は医学用語にしばしば登場する。あるとき (某年 1 月)、淋疾 (gonorrhea) の分泌液中の好中球に貪食された淋菌 (*Gonococcus*) の顕微鏡写真を撮る必要があつた。泌尿器科の先生にお願いしたところ、「今は淋病が旬だから、すぐに手に入るよ」とのこと。事実、翌日には早速、スライドガラスに塗抹された膿がわが病理診断室に届けられた。教授いわく、年末のボーナスから 1 月くらいの金回りの良い間に、



この病気は集中するとのこと。「また、夏まではしばらく少ないかも」。

gono は性や生殖を表す言葉で、ギリシャ語の gonos (種) に由来する。性腺は gonad, 性腺刺激ホルモンは gonadotropin。種類や属を表す genus (複数形は genera) は、ラテン語の generare (生む) に基づく。gender (性), gens (氏族), genius (天才), gene (遺伝子), genesis (起源) などがその派生語だ。探せば, gametogony (有性生殖), ontogeny (個体発生), spermatogonium (精祖細胞) といった gon に関連した医用複製語が結構使われているのに気づく。

膝の痛みは gonalgia とよばれるが、この gon は、はて何だろう。どうやらこの gon はギリシャ語由来の単語 gony (膝) 由来で、生殖には無関係らしい。米国国防総省の俗称として有名な pentagon (五角形) の gon は, angled の意味を表す接尾語で、医学の分野でも, goniometer (測角器) や goniometry (測角法) として用いられている。

それでは, glucagon の gon は? 1923年, John Kimball & Murlin は, 膝抽出液中の血糖上昇物質に対して, glucose を動員する物質 glucose mobilizer の意味で glucagon と命名した。つまり, gluco と agon (ギリシャ語で競争の意) の合成語である。agonist (働筋) および antagonist (拮抗筋) はよく使われている。苦悶や死戦期を表す agony や agonal も有名である。なお, 昆虫の血糖は glucose でなく, trehalose という二糖なのだが, 昆虫の脳から分泌される血糖上昇物質は, trehalagon とよばれている。

ところで, 先に紹介した Gonococcus に見舞われた若き男性は, 恥じらいながらも女性との直接の性交渉を否定した。実は, 最近の淋疾の多く (半数以上) は女性の「喉」からもらう。AIDS 騒ぎのおかげで直接の性交渉が減り, その代わりに, oral sex を介するこんな症例が増え続けている。女性では, 淋菌性尿道炎のみならず, 淋菌性咽頭炎も無症状の場合が多い。以前聞いた, 耳鼻咽喉科を開業している先輩医師の嘆きを思い出す。「最近の性病は変わったもんだ。若い女性は, 喉に梅毒をもらうようになったよ」。今や, 泌尿器科医, 皮膚科医や耳鼻咽喉科医は, 性風俗の変化に伴って, 守備範囲を従来以上に広げざるを得ないかもしれない。

(医学のあゆみ 177(3): 262,1996 を改変)

## 拓榴風呂

江戸の街に初めて銭湯が出現したのは、天正19年(1591年)だったという。初期の銭湯「町風呂」は、蒸風呂(空風呂カブロ)の形態だった。浴槽付きの据風呂(水風呂)が初めて考案されたのは慶長19年(1614年)だが、この据風呂に焚口がついて浴槽に直接湯を沸かすようになったのは後年のことだった。いわゆる「湯屋」といわれる据風呂形式の「洗湯」へと進化したのは元禄後期(1700年代)以後のことだ。湯気だけで湯のない銭湯には、客は男女とも褌をして入ったらしい。女性の褌とは、湯具あるいは湯文字と呼ばれ、今に言う腰巻である。もともと、初期のころは、浴客の多くは男性で、女性浴客は少なかったらしい。いっぽう、寛政3年(1791年)に禁止されるまで、「男女入込湯」(男女混浴)が一般の湯屋に流行し、繁盛したこともまた事実だった。

蒸風呂形式の銭湯では、浴室に立て込めた湯気を逃がさないようにするために、出入口に工夫が必要となる。入口を引き戸(板)とした蒸風呂形式の銭湯は「板風呂」と呼ばれた。入口が引き戸式の浴室は、公衆

浴場で多人数が入り出すには不便だった。こうして登場したのが、主題の「拓榴風呂（ザクロ風呂）」である。入口を開け放ちとする代わりに上の横木を低くした。人々はその（ざくろ口）からかがんで浴室に入った。薄暗い内部には湯気が立ち込め、膝くらいまで浸かれる浅い浴槽があったので、拓榴風呂は、厳密には蒸風呂と洗湯風呂の中間的存在だった。

「拓榴風呂」は洒落に由来する。低い鴨居の下から「屈み入る」ことを「鏡射る」に掛けた。当時の鏡は柄のついた鉄製の手鏡で、古くなって曇った鏡面は「鏡磨ぎ屋」に磨かせた。磨ぎ屋は「ざくろ」の実でこすって光らせたのだそうだ。ざくろの実の弱酸性が錆とりに効果的だった。

浴槽付きの「据風呂」が一般化するにつれ、市中の銭湯以外にも、「辻風呂」、「船風呂」などといった新商売が生じた。「五右衛門風呂」、すなわち自家用庶民風呂、の流行にもつながった。十返舎一九作の「東海道中膝栗毛」で喜多八が熱さを思い知らされたのは、小田原のはたご屋の五右衛門風呂だった。

公衆浴場たる銭湯が出現したことは、人々の生活風俗に大きな影響をもたらした。初期の蒸風呂式銭湯では、「垢かき女」が肌に息を吹きかけながら指先で垢をかいた。垢かき女が容色を飾り、遊女化した「湯女風呂」が登場するのにさして時間はかからなかった。寛永10年（1633年）には、湯女風呂の流行のために吉原が衰微したという。湯女風呂は、たびたびの取締りにもかかわらず、江戸末期まで存続した。中期以降の江戸銭湯は、庶民大衆の社交の場として独特の発達を遂げ、ついに「浮世風呂」の異名をとるに至った。「浮世絵」や「浮世草子」が現れたのもこのころだった。

明治の時代になると、世相変化の慌ただしさに乗じて、市中の銭湯は急増した。天井を高く、内部を明るく温泉風に擬した改良風呂（「温泉風呂」）が流行するとともに、「明治の湯女風呂」化が生じた。かくして、明治18年（1885年）に湯屋取締令が出された。タイル張りの「モダン風呂」は大正の作。銭湯どころではなく、しらみの蔓延を許した第二次大戦を経て、戦後には「特殊浴場」が登場した。昭和26年（1951年）に銀座に開設された東京温泉のサウナ式「トルコ風呂」は評判となった。豪華な内装とマッサージ嬢付きの蒸風呂サービスが特徴だった。その後、同名を冠した浴場に、かの悪名高き風俗化が生じたのは衆知の通りである。名前こそ変わったけれど、特殊浴場は今を盛りと繁盛して続けている。

参考書：「入浴・銭湯の歴史」（中野栄三著、雄山閣、1984）

（医学のあゆみ 180: 188, 1997より）

## ふんどし

ふんどし（褌）は大きく2種類に分けられる。T字型にひもをつけた長さ1 mほどの「越中褌」と長さ2 m（六尺）の帯状の布を相撲のまわしのように締め込む「六尺褌」である。越中はお尻全体を布が覆うのに対して、六尺ではひも状にした布がおしりの裂け目を通り、景気がよい。現在、ふんどしといえば越中褌がイメージされるが、江戸期の浮世絵、とくに艶本（春画）に描かれているのは六尺褌である。六尺褌は現在でもお祭りになくてはならない象徴として活躍している。六尺褌は炭坑夫の作業着としても機能していた。第二次大戦前までの日本人男性の下着は「越中」が主体で、ブリーフが普及したのは終戦後である。江戸期には、13歳前後になると男児には褌が、女兒には腰巻きが“大人の証”としてプレゼントされたそうだ。手術後や産後に病院で使われるT字帯は越中褌の仲間である。

ふんどしの語源は褌衣を朝鮮語でフントスと発音することに由来する。「褌」は、古く古事記や日本書紀にも登場する。戦国時代は、その名の通り、「いくさ（戦）衣」、すなわち戦着として主として武士に愛用された。江戸期の銭湯では、庶民は風呂専用の褌（風呂褌）にはきかえて入浴したそうだ。風呂褌を包んでいた布が「風呂敷」の由来である。“越中”褌は越中（富山県）がルーツではないらしい。江戸時代に風呂褌を忘れた馴染みの客に、遊女「越中」が小袖を解いて腰紐を付けて風呂褌にしたところから、越中褌と呼ぶようになったとか。明治以降も、風呂で手拭いとして体を洗い、使用後に干しておけばわざわざ洗濯する手間が省ける便利さが越中褌の売りの一つだった。

正装の和服には褌や腰巻きが適している。ちなみに、ロシア人男性は下着を着けず、ルパーシカ（シャツ）の端で包むように隠すらしい。バグパイプを演奏するスコットランド人楽団員は、スカートの下に何もはかないのが正装なのだそうだ。

## 偶然

東海大学附属病院の地下にあるレストランでは「トーカイ・ワイン」が飲める。これは、東海大学の特産品ではない。東海大学はハンガリーの首都ブダペストにあるゼンメルワイス大学と交流しているのだが、ハンガリー特産のワインの名称がたまたま「トーカイ・ワイン」なのだ。

さて、医学部のある日本の大学で、その英語の意味がちょっと恥ずかしいのはどこ？ 群馬大学と近畿大学が正解。Gummaは第3期梅毒の病変「ゴム腫」に相当する。群馬大は正しくは"Gunma" Universityであって、決してゴム腫大学とは書かない。Kinki、つまり kinky は「よじれた」という意味がある。kinky hair diseaseという先天性疾患が知られている。kinkyには「隠語」としてもう一つの意味がある。それは、「性的によじれた＝性的異常趣味の」。両大学の先生がた、ごめんなさい。

笑えない笑い話。ある日本の新聞社のパリ駐在員の名前はムッシュー「コン」。フランス語でコンは、女性のある部分を指す。彼は、パリ滞在の2年間ムッシュー「イマ」で通したそうだ。いっぽう、ケニアの首都ナイロビに赴任した重要人物の名前は熊田氏。スワヒリ語で「クマ」は、ずばり女性のその部分。この場合は、隠し立てしようがない。自分の名前を紹介するたびに、ケニアの男性ににやりとされたそうだ。熊本（隈本）はもっと悲惨。スワヒリ語で「モト」は熱い！

小生が唯一知っているイタリア語は「85 = octanta cinque」。その発音が「おっ立った〇〇〇」に似ている。以前、ローマを訪れたとき、案内の男性に教えてあげた。「日本人の若い女性はイタリア語で85の発音はできないよ。"erected penis" とは言いにくいから。」彼は手をたたいて喜んでくれた。お礼に、特別のサービスを受けた記憶はないが。

はしたない話ばかりで、たいへんお粗末さまでした。

## ダイヤルイン

あるとき、ある学会の会員名簿で目的の電話番号を探し当てて、ある大学の知り合いの先生に電話をかけた。いや、かけようとした。ところが、何だかようすがおかしい。事務的な声のテープがまわっている。あれ?大学が留守番電話なの?と思いきや、“男性の方は〇〇〇〇番へ、女性の方は△△△△番へどうぞ”と聞こえるではないか。二度目のアナウンスを確認してから、あまり深く考えずに、指定された〇〇〇〇番へかけ直してみた。すると……、ん??? 驚いたことに、そこはデートクラブだったのだ。実はまだキツネにつままれていた。気を取り直して、もう一度じっくりと会員名簿をみてダイヤルを回す。ところが、またしても同じテープの声“男性の方は……”。

番号案内104で確認してみるとやはり番号が違っていただ。ようやく目的の先生を電話のさきにつかまえて用事をすませた。“ところで……と、いま経験したとんでもない体験、会員名簿のミスタイプを発見したことを伝えると、実に明快な、うそのような本当の話の聞いた。

その大学では最近、ダイヤルインの形式にすべての電話を切り替えたため、不要となった総代表番号(当然、覚えやすい番号である)を電話局に返したのだそうだ。その結果、その番号を買い取ったのがそのデートクラブだったというわけ。大学側はいつもただ苦笑しているとのこと。

いや、迷惑千万だったのは大学だけではなかったようだ。“デートクラブに受験生からの電話が殺到、云々”といった内容の興味本位の記事があるスポーツ新聞に載った。ときはちょうど受験シーズン。ある受験雑誌がその大学の電話番号として古い代表番号を誤って載せてしまったのが真相らしい。電話した受験生諸君もさぞかしびっくりしたことだろう。

なんとも笑うに笑えない実話である。よくよく考えてみるとだれが悪いわけでもない。いくら経費節減の目的とはいえ、大学たるもの、長年使ってきた大代表番号を簡単に売り払うようなことをしてはいけません。やはり。

この拙文を書くにあたって、すこし緊張して、もう一度問題の電話番号を回してみた案の定、“この電話番号は現在使われておりません”。さもありません。

(医学のあゆみ 176: 506, 1996 より)

## 米国における高齢男性のセクシュアリティ

米国では、新規エイズウイルス(HIV)感染症の17%、新規AIDS患者の23%は50歳以上が占める。米国人男性は、57~64歳の73%、65~74歳の53%、75~85歳の26%が性的に活発である。そのため、中高

年層の性感染症が増加し、最近10年で感染率が2倍になった。この事実を受けて、米国内分泌学会は、2012年9月、「中高年のセックス教育が重要」と呼びかけた。80歳まではテストステロンの血中濃度は高水準が維持されるため、性生活では80歳まではコンドームを着用すべきであると警告した。

(2012年9月7日、米国学会短信より)

## あとがき（うんちく編）

これまでにこつこつ書きためたエッセイ風の書き物のうち、雑学・うんちくとして役立つかも知れないと筆者が考える作品をまとめてみた。

「1. 歴史を学ぶ」「2. お役に立つ雑学」「3. 生きもの編」「4. ことばあそび」「5. 音楽の話」「6. 下半身秘話」より構成される。中には、1編を仕上げるのに成書を2～3冊読んだこともあった。以前、医学週刊誌「医学のあゆみ」の編集委員をしていたころ、フォーラム欄に連載するように書かせていただいたりキの入ったエッセイも数多く含まれている。筆者としては、なかなかユニークな内容の作品がちりばめられていると自負している。

内容的に間違いがあったり、不適切な言い回しがあったならお許し願いたい。にもかかわらず、長年にわたる拙文が少しでもお役に立てば幸いです。もし、「へえ～！」という言葉が聞けたなら、筆者冥利に尽きるといえます。

おしかりやお褒めの言葉は、以下のメルアドまでよろしくお願いします。

堤寛 e-mail: [pathos223@kind.ocn.ne.jp](mailto:pathos223@kind.ocn.ne.jp)

## 堤 寛 (つつみ ゆたか) プロフィール

e-mail : pathos223@kind.ocn.ne.jp

1951年9月，横浜生まれ（浜っ子、乙女座）。

1976年3月，慶應義塾大学医学部卒。

1980年3月，同大学大学院（病理系）修了。

1980年4月，東海大学医学部（神奈川県伊勢原市）病理学講座に移動して21年間在籍）。

2001年6月，藤田保健衛生大学医学部（愛知県豊明市）病理学Ⅰ・教授に就任。

2017年3月，同大学定年退職（65歳）。

2017年4月，長崎大学病院遠隔病理診断センター・教授に就任（医療法人清須呼吸器疾患研究会、はるひ呼吸器病院病理部長を兼任）：はるひ呼吸器病院で遠隔病理診断を中継

2017年4月，同時に「つつみ病理相談所」開設（豊明市名鉄線前後駅前）。



趣味はオーボエ演奏。日本病理学会学術評議員・病理専門医，日本臨床細胞学会評議員・細胞診専門医，日本組織細胞化学会評議員，日本感染症学会 Infection Control Doctor，医療の安全に関する研究会常任理事など。本業は病理診断と医学教育。

「患者さんに顔のみえる病理医」をめざして、患者さんのニーズにあった支援活動を模索している。免疫染色を病理診断に導入したパイオニアと自負している。感染症の病理のほか、院内・職務感染防止，医療廃棄物適正処理，安全教育や「日本の常識，世界の非常識」を見直す提言を続け，他の人がやらない「穴埋め病理医」，「社会派病理医」を目指す。

### 一般書：

「病理医があかすタチのいいがん悪いがん。最新診断治療ガイド」（双葉社、2001）、「病院でもらう病気で死ぬな。現役医師が問う 日本の病院の非常識度」（角川新書、2001）、「父たちの大東亜戦争 戦地シンガポール・スマトラの意外な日々」（幻冬舎ルネッサンス、2010）、「堤先生、こんばんはo(^-^o～若き女性がん患者と病理医のいのちの対話～」（三恵社、2011）、「患者さんに顔の見える病理医からのメッセージ ～あなたの“がん”の治し方は病理診断が決める！～」（三恵社、2012）。

### 単著教科書：

「感染症病理アトラス」（文光堂、2000）＊、「感染症の病理 web 版」（英語、2004）＊、「画像詳解完全病理学総論」（医学教育出版、2005）、「完全病理学各論（全 12 巻）」（学際企画、2007）、「element 版完全病理学各論」（同 2008）、「完全病理学 DVD 版」（同 2009）、「Pathology of Skin Infections」（Nova、

NY、USA)\*、「クイックマスター病理学」(サイオ出版, 2015), 「パワーアップ問題演習病理学」(同2015)。

(\*の3つは全編 web site で閲覧可能)

#### 心機一転:

2017年4月, 長崎大学病院遠隔病理診断センター教授に就任し、「はるひ呼吸器病院(愛知県清須市、齊藤雄二院長)」を拠点に, バーチャル顕微鏡による全国をつなぐ病理診断・若手病理医の教育に携わる。名鉄本線「前後」駅前のマンション(パルネス前後)の1室に事務所「つつみ病理相談所」を開設。病理診断とともに「患者さんに顔のみえる病理医」を実践する。音楽を通じた交流も大いに活用してゆく。

#### 「つつみ病理診断科クリニック」

〒492-8342 愛知県稲沢市矢合町三吉跡1551-1

電話: 0587-96-7088、FAX: 0587-96-7098

e-mail: pathos223@kind.ocn.ne.jp

URL: <http://www.pathos223.com>

当相談所HPには, 患者さん向け・学生・研修医向けの情報を多彩に公開する。訪問あれ。